

右ニ付大審院ニ於テ條理ヲ推シ法律ニ照シ辨明スルヲ左ノ如シ
 長吉ニ於テ該金ハ盜ミタルニ非ス持逃ケシタルニモ非スト申立ル
 ニ付其事狀ヲ審閱シ猶ホ大阪裁判所ニ照會シタル處明治九年一月
 二十四日藤右衛門ヨリ委細ノ手續書ヲ該裁判所ニ呈シタリ其要領
 ニ該金ハ茶仕入代トシテ山城國大住村藤田宗吉ニ至急拂ヒ渡スヘ
 キ都合ナルニ付早々自分宅へ持歸ルヘキ旨長吉ニ申付該金ヲ託シ
 タリ其節長吉ヨリ日雇賃ノヲ申聞ケタレモ右ノ都合ナルニ付自分
 歸宅ノ上相談スヘクト斷ハリタリ北濱ニテ茶買入ノヲ申付タルヲ
 ナシ且是迄山城宇治等へ茶買入トシテ長吉ヲ遣シタルヲアレモ長
 吉一人ニ委託シ金子ヲ預ケタルヲナシ今般ノ事ハ長吉擅ニ往キタ
 ルヲニシテ右ノ由途中ヨリ車夫ヲ頼ミ自分宅へ報知アリタレモ右
 車夫ハ平生見識ヲメ者ナリト云ヘリ因テ長吉申立ル所ヲ推致スル

ニ事實曖昧ニシテ證據トスルニ足ラス何トナレハ實ニ商用ノ爲ナ
 レハ茶ノ有無ニ拘ハラズ誰某ノ店ニ引合ヒタル處斯クノ景況ナリ
 ト其様子ヲ確知シテ歸ルヘキハ當然ノヲナリ然ルニ長吉ニ於テハ
 北濱并神戸ニテモ行ク先ノ町名家號茫手トシテ覺ヘナレト云ヘリ
 而シテ商用ノ爲ニ延日シタリト徒ニ數日ヲ慢過シタルハ仮令車夫
 ニ寄知シテ商用專要トシテ往キタリト謂フト雖モ何ニ由テ實際買
 入ニ往キタル所以ヲ證明スルヲ得ンヤ此ニ由テ之ヲ觀レハ上文藤
 右衛門ノ申立ル所其理アリトス然レハ大阪裁判所ニ於テ審問ノ節
 口供甘結摺印シタルノ狀事實ニ齟齬スル所アリト謂フヲ得ス且ツ
 預リ金ノ内私ニ費用シタレモ云々ト申立ツレモ既ニ預リ金ナレハ
 己レカ所有ニアラサル金ナルユヘニ私ニ攘ミ用ヒタルモノニシテ
 律例ニ所謂管守者自ラ盜ム者即チ是ナリ已ニ攘ミ用ヒタル後ニシ

テ返濟ノ心得ナレハ盜ニ非ストノ中分ハ立サルナリ左スレハ大阪
裁判所ニ於テ當時改定律例第四百十三條ニ依リ監守自盜ヲ以テ論
シ處斷シタルハ適當ノ裁判ナリトス但贓金ハ百二十三圓二十錢ニ
相違ナキ旨藤右衛門并安兵衛ヨリ判然申立タレハ長吉申立ノ通ナ
リトス然レモ監守盜律ニ於テ百圓以上百五拾圓ニ滿タサルモノハ
均ク懲役十年ナレハ貳圓餘減數アルモ刑ニ於テ差等ナキナリ

判決

右ノ條理ナルヲ以テ大阪裁判所ノ處斷ハ適當ナリトス依テ上告狀差
戻ス者也

第貳拾五號

○判文[版權取戻願ノ件]明治九年二月二十日上告
明治九年七月廿八日判決

東京第二大區十二小區

麻布烏居阪町一番地東

京府士族

石川

彙

右石川彙儀自著ノ西洋夜話版權事件ニ付東京第一大區五小區室町三
丁目拾番地平民木村源兵衛ヲ相手トリ明治八年十一月二日東京裁判
所ニ告訴シ並ニ同裁判所ノ推問ニ依リ申立タル要旨左ノ如シ

一自分著述ノ西洋夜話初集ハ明治四年七月中同書三集ハ明治六年
二月中木村源兵衛へ彫刻製本發兌共委託セシ處出版條例ノ公布ア
リシ後源兵衛儀擅ニ刷立販賣初版磨滅セシニ付版主タル自分ハ沙
汰ナク再版數萬部賣捌キシ段出版條例ニ背ケルヲ以テ免許人ノ自
分ニ於テ難澁ニ付吟味ヲ願フ 明治八年十一
月二日申立
一西洋夜話初集三集共自分藏版ノ處發兌書肆木村源兵衛自分方ニ

リ買取リタルト申立タル趣ナレ共自分ニ於テ賣渡シタル儀ナキニ付斷然自分藏版ニ相違ナシ然ルニ源兵衛擅ニ刷立販賣シタルハ著者版主タル自分ニ於テ不承知ナレ由源兵衛ハ元來懇意ノ者ニ付示談スヘキ趣ヲ以テ招キタルニ數月ヲ經ルモ來ラサルノミナラス何等ノ返答モセス剩ヘ此程再版シタルニ付已チ得ス此度出訴シタリ一源兵衛ハ書物問屋渡世ノ者ニ付同人ヘ版木ノ彫刻製本並ニ發兌等ノ手數ヲ委托シタレ共右賣得チ以テ元金雜費ヲ引キ其上相當ノ手數料ヲモ受取リタル上ハ版木返却スルハ勿論ノ處數年來數萬部賣捌キ著者版主タル自分ヘ何等ノ沙汰モナク夥多ノ賣得横取シタル上ハ即チ他人ノ版權ヲ侵ス者ト存スルナリ

一從前ノ官許狀源兵衛ヘ預ケ置キタル儀ハ東京府ヘ町賣願差出シタル節要用ニ付發兌書林ヘ預ケ置キタル儀ナリ

一自分藏版ニテ源兵衛ヘ賣渡サル、證據尋問アレ共著者且出版人ニテ現ニ版主ナル上ハ他人ヘ賣渡サル證據判然ト存スルナリ

一源兵衛代ノ者再版ハセザリシ旨申立タル趣ナレ共本人源兵衛ニ於テハ再版シタル旨申聞ケタレハ即チ僞版ヲ作りタル者ト存スルナリ

一初集原版並ニ三集ハ自分藏版ニテ源兵衛ヘ申付彫刻爲致タル儀ニ付僞版ニハアラサレ共若シ源兵衛出版人ト申ナレハ即チ著者ノ承諾ヲ得ス且願書届出ニモ連印セサル者ト存スルナリ若シ又源兵衛買取リタル趣申立タレハ即チ賣買ノ儀連印シテ届出サル者ト存スルナリ

一源兵衛判取帳ニ自分花押ヲ記シ著述料金壹圓五十錢トアルハ自分受取リタルニ相違ナシ然ルニ源兵衛ニ於テハ西洋夜話著述料ト

申立タレ共右ハ全ク西洋算法草稿貳枚賣買相談中預ケ置キタルニ
 付金子受取置キ買買ノ儀破談ナリシニ付草稿取戻シ其節右金圓償
 却シタル儀ナリ 明治八年十二
 月二十日申立
 一源兵衛ヨリ差出シタル金三拾圓渡ス可キ手形ノ儀ハ明治六年六
 月ヨリ明治七年二月迄互ニ取引シタル自分藏版書籍代價差引計算
 相立双方書付爲取替タル處自分方ヨリ金五拾圓餘受取ル可キ計算
 ニ付受取度旨源兵衛ヘ申入レタル處折節同人不如意ニ付三月二日
 内金三拾圓相渡ス可キ旨申聞ケタルニ付其意ニ任セ即前書手形持
 タセ遣シタリ尤三月二日ニハ金子渡サス三月三日ヨリ四月一日迄
 四度合セテ金三拾圓受取リタリ然ルニ源兵衛此度裁判所ヘ右手形
 差出シタル節自分一覽シタル處豈圖ラノヤ西洋夜話三集著述料ト
 書入アリタリサレ共筆意全ク相違セルニ付斷然源兵衛ノ加筆ト存

スルナリ 明治八年十二月
 二十七日申立

被告源兵衛ヨリ差出シタル答辨書ノ要旨左ノ如シ

一自分儀石川桑トハ兼テ懇意ノ處明治四年七月中弄儀西洋夜話初
 集ヲ著述シ既ニ官許濟ノ趣申聞ケタルニ付自分右草稿並ニ官許狀
 共金拾五圓ニテ讓受ケ自費ヲ以テ彫刻シ明治四年九月中右製本ノ
 上發賣セリ其後明治六年三月中尙又西洋夜話三集モ官許濟ニ付前
 同様草稿並ニ官許狀共金三拾圓ニテ讓受ケ是亦自費ヲ以テ彫刻明
 治六年四月ヨリ製本發賣セリ右製本高並ニ賣捌共左ノ如シ

製本高

一西洋夜話初集

九千百五拾部

一西洋夜話三集

貳千八百部

内

賣捌高

初集

八千九百七拾部

三集

貳千六百七拾壹部

此代價金六百五拾三圓六拾壹錢

賣捌キ殘部並ニ版木共現今所持ノ分左ノ如シ

一西洋夜話初集

百八拾部

一西洋夜話三集

百貳拾九部

合三百九部

一西洋夜話初集版木

拾三枚

一西洋夜話三集版木

拾五枚

然ルニ今般彙ノ藏版ヲ自分再版シテ販賣シタル旨彙ヨリ出訴セラレタレ共前書ノ通草稿料差出シ自分讓受ケタル上ハ自分藏版ト心

得タリ且自分讓受ケサルコトナレハ右製本第一用タル官許狀ヲ自分手へ渡シ置ク可キノ理ナシ然ルニ今自分手ニアルハ是則讓受ケタルノ確證ナリ况ヤ數年ヲ經テ今日ニ至ル迄一應ノ申込モナク自分再版セシ杯ト申立タルハ其意ヲ得ス尤藏版ノ義ハ數部刷行シタルニ付磨滅ノ所ハ補理シタレ共決シテ再版シタルニハ非ス且自分讓受ケタルノ確證左ノ如シ

文部省官許狀

覺

一西洋夜話 三集

小本 壹冊

當三月中出來

右私著述仕初集ハ去ル辛未六月願濟二集ハ去ル壬申三月中願濟ニテ出版仕候續ニテ一切御條例ニ背キ候箇條無御座候間私

藏版ニ出版仕度此段奉願候若發兌ノ上御尋ノ義ハ私引受可申
奉存候以上

癸酉三月

大主記石川彝
宿所麻布鳥居
坂町

文部省

御中

出版差許候刻成ノ上三部上納可致事

明治六年三月七日

文部省印

彝ヨリ受取リタル手形

記

一金三拾圓也

西洋夜話 著述料
三集

右此者へ御渡可被下候也

三月二日

石川氏印

中外堂

御店中

右ノ次第ニテ初集三集共著述料相渡シ讓受ケタル以上ハ右版木ハ
勿論自分所有物ト存スルナリ尤右讓受ケタル儀官へ届出テサリシ
段ハ自分並ニ彝兩人ノ無念ナリ

一過日西洋夜話初集再版セサル趣申立タル處實ハ明治八年五月中
在來ノ版木ヲ削リ再版シタル段恐レ入リタリ

右兩人ノ申立ニ依リ明治九年二月十五日東京裁判所ニ於テ左ノ裁判
ヲ申渡シタリ

其方儀著述スル所ノ西洋夜話初集三集共販賣ノ初ノ彫刻並ニ製本

石川 彝

發兌等木村源兵衛へ委託スル處同人儀自儘ニ刷立賣捌初版磨滅ニ及ヒ尙再版ノ上版主タル其方へ無斷數萬部賣捌シ廉ヲ以テ告訴スルニ付相糺ス處最初委託スル處ノ權限約定ノ證據無之故ヲ以テ受理不相成ニ付右訴狀ハ却下シ

但木村源兵衛へ渡シ有之版木ハ同人ヨリ受取ヘシ

木村源兵衛

其方儀石川彝著述スル所ノ西洋夜話初集三集共販賣ノ始メ彫刻並ニ製本發兌等同人ヨリ委託スルヲ同人へ無斷自儘ニ刷立初版磨滅ニ及ヒ尙再版致シ數萬部賣捌キシ廉ヲ以テ同人ヨリ告訴スルニ付相糺ス處讓受候旨申立ルト雖モ其筋ノ許可ヲ不經上ハ全ク讓受タル者ト定メ難ク依テ右版木ハ同人へ還付スヘシ

彝ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治九年二月二十日大審院ニ上

告シタリ其旨趣左ノ如シ

第一條 曩ニ出版條例ノ成文アリ版權免許ノ證ヲ所有スル者ヨリ偽版ヲ作り他人ノ版權ヲ犯ス者ニ對スル訴ヲ受理セサルハ不法ト存スルナリ

第二條 若シ委託スル處ノ權限定約ノ證據ナキ故ヲ以テ受理セストセハ此版權ハ何人ニ歸スヘキヤ西洋夜話ハ素ヨリ石川彝著述ニシテ同人ノ藏版ナリ實ニ之ヲ他人ニ賣渡ス由ナク又之ヲ他人ニ賣渡シタル事ナキカ故ニ賣渡シタルノ證ナキハ論ヲ俟タヌ木村源兵衛ノ買取證ト申立ルハ偽書加筆ナリ人ノ書ヲ偽セントスルハ猶人ノ面ヲ偽セントスルガ如シ豈活眼アル者ヲ欺クヲ得ンヤ然ルヲ裁判官ノ想像ヲ以テ内實賣渡シタル者ト見做シ證書ノ眞偽ヲ審判セサルハ不法ト存スルナリ

第三條 法司版權違則ノ訴ヲ受ケテ既ニ數月ヲ閱シ詳細吟味シテ其實ヲ得ント欲シ無辜ノ民ヲ縛シ或ハ事由曖昧ニシテ之ヲ放免スルニ至ル而シテ後ニ版木ヲ版主ニ歸シタルハ審判其實ヲ得タル者ニ似タリ而シテ其實益ヲ他人ニ歸スルハ不法ト存スルナリ

第四條 既ニ十分ニ審理シテ後ニ受理ナラサルニ付訴狀ヲ却下スト云フト雖モ但書ニ至テ版木ノ歸スル處ヲ示スハ即チ受理シテ裁判シタルナリ若シ裁判セサレハ版木ノ歸スル處ヲ指令スルノ理ナシ版權ノ訴ヲ裁判シテ出版條例ニ依ラサル者ハ不法ト存スルナリ
第五條 東京裁判所刑事課ニ於テ吟味中押印ノ書面ニ加筆シテ他人ヲ困難セシムル者アルハ之ヲ措テ問ハス版主ノ權理ヲ抑ヘ實益ヲ奪ハシムルハ不法ト存スルナリ

右ニ付大審院ニ於テ條理ニ因リ辨明スルコト如左

彙儀西洋夜話版權事件ニ付明治八年十一月二日東京裁判所ニ告訴シ裁判ヲ請求スル上ハ其版權所有ノ權力彙ニ歸スルト源兵衛ニ歸スルトノ區別ヲ判然審糺セサルヘカラス之ヲ審糺スルハ先ツ文部省ノ出版免許狀ヲ即今源兵衛ガ所有スル所以ト其受授ノ手續キトヲ明瞭ニセサルヘカラス然ルニ東京裁判所ニ於テ兩人ヘノ申渡書ニ右ノ事實ヲ精密詳明ニ開載セス唯彙ヘハ版木ハ源兵衛ヨリ受取ルヘシ源兵衛ヘハ之ヲ還付ス可キ旨申渡タルハ不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ條理ナルヲ以テ明治九年二月十五日東京裁判所ニ於テ彙ニ申渡シタル裁判ヲ破毀シ本件ハ神奈川裁判所ニ於テ審判ス可キ旨同裁判所ニ達シタルニ依リ彙ニ於テハ同裁判所ノ審判ヲ受クヘシ

第貳拾六號

○判文不應爲ノ件明治九年三月十五日上告
明治九年七月廿九日判決

東京第五大區九小區下

谷北稻荷町九番地蓮城

寺寄留濱松縣士族

今井信秀

右今井信秀儀明治八年八月一日所有ノ家屋并疊建具抵當ト爲シ第五大區七小區下谷阪町七番地濱松縣士族木村政精ヨリ金貳拾五圓借用シタル處返濟淹滯スルヲ以テ明治八年十二月十九日政精ヨリ信秀ニ對シ東京裁判所民事課へ出訴セリ而シテ右審問中豫テ抵當ノ家屋等信秀ヨリ政精ニ引渡スヘキ對談ヲナシ日延猶豫ヲ請ヒタル中明治九年一月十八日信秀ヨリ他負債ノ始末ヲ舉ケ東京裁判所檢事局へ自首

シタル其要旨左ノ如シ

先般木村政精ヨリ自分へ對シ貸金淹滯ノ訴ヲ爲シタルニ因リ明治九年一月九日公庭ニ於テ明治九年一月廿日ヲ期シ抵當ノ家屋等一切政精ニ引渡スヘキ約定ヲ爲シタルモ多方負債アリテ目今實ニ困却セリ因テ自ら願フニ一個ノ家作ヲ幾口ニモ抵當ト爲シ或ハ賣渡シタル段甚恐入タレモ今政精一人ニ該家作ヲ引渡シテハ他債主ニ對シ致シ方無シ自分儀至當ノ處置ヲ受ケ苦シカラサル間何分ノ裁判ヲ仰クナリ

右ニ付東京裁判所刑事課ニ於テ審問ノ末明治九年二月十七日口供甘結シタルヲ以テ明治九年三月十日處斷ヲ申渡シタル其要旨左ノ如シ

口供

自分儀明治八年六月十五日湯島天神町五拾番地ニ於テ所有ノ家屋

盛建具共抵當ト爲シ淺草諏訪町所嘉滿ヨリ金貳拾五圓借用シ右返金未濟ノ中一時金融ニ差支タルニ因リ明治八年八月一日濱松縣士族吉田昌雄ヲ請人ニ立テ連印ノ處ヘ佐藤善吉ト妄ニ署名シ有合判ヲ押シ同前ノ家屋等ヲ重テ抵當トシ下谷阪町木村政精ヨリ金貳拾五圓借用シ又明治八年九月二十五日地所差配人本橋龜吉ニ外ニ子細ナシト申偽リ連印ヲ頼ミ同前ノ家屋等ヲ復ク重テ抵當トシ根津須賀町東京府士族小林德寧周旋ニ依リ本郷西竹町波多野銀藏ヨリ金拾圓借用シタリ然ル處明治九年一月十四日根津八重垣町長野道信ニ至急返濟スヘキ借財アリテ嚴敷掛合ヲ受ケタルニ付已ムコトヲ得ス前段抵當物ノ内疊建具并外品取揃ヘ抵當ト爲シ一日ノ猶豫シ道信ニ乞ヒタレモ調金出來兼ヌルニ付明治九年一月十五日竟ニ右抵當品ヲ賣却シ其代金ヲ道信ニ渡シタリ然ルニ像テ木村政精ヨリ

返金淹滞ノ事ヲ當裁判所民事課ヘ訴ヘ出審問ノ際延期願置タレトモ調金不行届去リトテ家屋ヲ政精ニ引渡シテハ前段ノ始末發露ニ及フヘキハ必然ナルニ付切迫ノ餘明治九年一月十八日自首シタルナリ

處斷

其方儀湯島天神町ニ於テ所有ノ家屋等ヲ所嘉滿ニ抵當トシテ差入レシ後一時金融ノ爲メト申ナカラ木村政精外一人ニ同家屋ヲ重テ抵當トナシ又ハ右ノ内建具等ヲ長野道信ニ抵當ノ未賣拂ヒ代金引渡シ或ハ右證書中濫ニ連印佐藤善吉ト署シ有合判ヲ捺ス等右科ノ内不應爲重ニ問ヒ懲役七十日ノ處木村政精ノ出訴ニ依リ發覺ヲ恐レ自首スルヲ以テ本罪ニ二等ヲ減シ士族ナルニ付禁獄五十日中付ル

六一二

信秀儀右ノ處斷ヲ不法ナリトシ明治九年三月十五日大審院ニ上告セ

リ其要旨左ノ如シ

木村政精ノ出訴ニ依リ發覺ヲ恐レ自首スルニ付禁獄五十日申付ル旨東京裁判所ニ於テ申渡サレタレトモ其實政精ノ出訴ヲ恐レタルニ非ス前日ノ所行士族ノ道ニ背キタルヲ以テ悔悟自首シタルナリ因テ右ノ裁判ニ服セス

右ニ付大審院ニ於テ條理ヲ推シ法律ニ照シ辨明スルヲ左ノ如シ

信秀ニ於テ政精ノ出訴ヲ恐レ自首シタルニ非スト申立ルニ付審ニ其事狀ヲ閱スルニ信秀カ政精ニ訴ヘラレシ貸金淹滞ノ事件ハ明治八年十二月十九日ニシテ之ヲ信秀ノ自首シタル明治九年一月十八日ニ比スレハ其事既往ニ係レリトス而シテ信秀カ自首ノ事件ハ則チ所嘉滿外二人ニ對スルモノニシテ嘉滿等ニ於テハ陳告スル舉動

七一二

絶ヘテナキニ因リ其事將來ニ係レリ然ルモ政精ニ訴ヘラレシト信秀カ自首セシト前後相接スト雖モ法律ニ依テ自首ヲ以テ之ヲ論スルモ其事固ヨリ將來ニ在ツテ未タ發覺セサルモノタルハ判然ナリトス新律綱領名例律犯罪自首條内ニ舉クル人ノ官ニ陳告セント欲スルヲ知テ自首ス云々ハ人ノ將ニ官ニ訴ントスル機ヲ知り先ツ自ラ出訴スルヲ謂フ今信秀自首ノ旨趣之ヲ口供ニ照スニ家屋ヲ政精ニ引渡シテハ始末發露ニ及フヘント云シノミニテ政精ノ出訴セシトナ慮リタルニアラス而シテ是際ニ在テ政精及ヒ其他嘉滿等ニ於テ信秀ノ爲ニ陳告セントスルノ形跡曾テ無シ然レハ當時自首ノ前ニ在テ官ニ陳告セント欲スルノ人無キト明瞭ナリ且信秀ニ於テハ政精一人ニ家屋ヲ引渡シテハ他債主ノ責ヲ受ク可シト思量シタルニ因テ遂ニ自訴シタルモノニシテ外債主ニ對シ致シ方無シ

ト云ヒシハ此事ナリトス畢竟信秀カ心中ニ思量シタルヲマデニテ
其發露ニ及フヘキト言ヒシハ自ラ將來ヲ慮リタルノミ現ニ其形迹
アルニアラス條理既ニ斯ノ如クナレハ只此ノ自首ニオイテハ政精
ノ出訴ヲ恐レタルニアラスト申立ル所共理アリトス然レハ裁判官
ニ於テ不應爲重ニ問ヒ改定律例第五十九條ニ照シ人ノ官ニ陳告セ
ント欲スルヲ知テ自首スル者ト同ク論シ減二等ニ處シタルハ法
律ニ適當スルモノニ非ストス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治九年三月十日東京裁判所ニ於テ今井信秀ニ
中渡シタル裁判ヲ破毀シ該自首ノ事件ハ神奈川裁判所ニ於テ更ニ審
判スヘキ旨本年七月二十九日該裁判所ニ達シタルニ付信秀ニ於テハ
神奈川裁判所ノ審判ヲ受クヘシ

第貳拾七號

○判文(新聞條例犯則ノ件)明治九年三月四日上告
明治九年七月卅一日判決

東京第一大區五小區本

石町三丁目二十五番地

澤田眞孝同居東京府平

民采風新聞假編輯長

本 木 貞 雄

右本木貞雄儀明治九年采風新聞第三十九號及ヒ第四十二號ニ掲載セ
シ社説新聞條例ニ抵觸セルヲ以テ東京裁判所ニ於テ審問ノ末明治九
年二月十九日口供甘結シタリ其旨趣左ノ如シ

九一二
一自分儀明治九年一月二十二日采風新聞第三十九號ニ掲載セシ社
説文中ニ本社前編輯長加藤九郎儀昨明治八年十二月二十日第十九

號社説ニ誓テ政府ノ○法ヲ論破シ我三千五百萬ノ兄弟ヲ保全スルニアリ若シ已ムテ得スンハ米國第一流ノ改革家(パトリック)ヘンリ「アル耳ノ語ヲ記載シ及ヒ十二月二十四日第二十二號社説ニ於テ人民ヲシテ激動力ヲ振起シ外ハ歐米各國ノ屈辱ヲ掃除シ内ハ壓制ノ羈絆ヲ解ヒテ天賦ノ自由ヲ保全シ國勢ヲ未タ地ニ墜チサルニ維持セント爲ノ各想像論ヲ掲ルヲ以テ政府ヲ變壞シ人心ヲ煽惑スルノ意アルト見做サレ新聞條例第十三條ニ觸ル、ヲ以テ三年ノ禁獄ニ處セラルシモ細カニ玩味スルニ我邦毎々外國ノ屈辱ヲ受ケ人民卑屈昏惰振起挺立スルノ氣力ナキヲ憤ルノ論旨ナリ然ルヲ法官果シテ此ノ如ク見做シ想像ヲ以テ九郎ヲ處斷セハ新聞記者中徧ク顛覆ヲ謀リ人心ヲ煽惑スルノ意アラサル者ナカル可シ云々吾輩吾一步ヲ進メテ之ヲ論センニ政府果シテ賢明ニシテ一ノ苛法壓制ナク

ンハ之ヲ論スル者ハ則チ喪心狂ヲ病ム者ニシテ論處スルニ及ハサル可シ若シ果シテ苛法壓制アラハ論者九郎ノ如キハ則チ趨直ノ士ニシテ國ニ忠アル此ノ如キ得難カルヘシ言者罪ナシ聞メテ可ナリ何ソ想像ヲ以テ罪ヲ科スルヲ用ヒンヤ云々且十九號ノ社説中○法ノ圓圖ハ苛法ノ苛字ナルヲ法官ハ公字ト見做セリト書載シ總テ文中譬喻數端ヲ擧ケ論官ヲ論シ九郎ヲ保庇スル議ヲ主張セシ處既ニ九郎儀法庭ニ於テ口供甘結ノ上處斷アリシヲ心得ス漫リニ當初九郎ノ社中ニ於テ談話ノ片言ヲ信シ篤ト事實ヲモ推究セヌ一己ノ臆説ヲ構ヘ前兩段ノ如ク記載セリ

一明治九年一月二十五日第四十二號社説ハ人民自由ノ權利ヲ論シ其政府トナリテ之カ控御ヲ主サトル者能ク心ヲ用ヒサル可カラズ氷府十七士ノ井伊元老ノ首ヲ馱ニシ紅血ヲ瀝ラシテ櫻田ノ白雪ヲ

粧ヒ大和魂ノ花ヲ重三日ニ開ヒテ志士ノ心ヲ感撥セシモ則舊幕政
 府ノ壓制ニ屈贅スル自由ノ權利ノ發現ニアラサルナシ云々其政府
 ナル者一モ其國民ヲシテ自由ノ權利ヲ保全スル能ハサルノ所行ヲ
 爲スルハ人々奮テ銀山ノ雲ト消へ波嶺ノ紅葉ト散リ南山ノ白露ト
 滅セシカ如キ舉テ學ハサルヲ得ス云々當時政府ノ賢明官吏ノ純良
 ナル我輩ヲシテ土耳古舊幕ノ如キ壓制ノ以テ束縛スルナク如天ノ
 膏澤ニ游泳シテ摧躄碩尾ノ憂苦ナカラシム然リト雖モ若シ百歳ノ
 後純良ノ官吏跡ヲ絶テ政府賢明ノ名ヲ失シ土耳古舊幕ノ如キ苛政
 アルノ日ニ至テハ自由ノ白刃ハ能ク壓制ノ堅城壁ヲ突墮スルヲ保
 證シ得サルハ喪心者ニ非スンハ能ク之ヲ辨セン云々ト記載シ右ハ
 當路ノ大臣ト雖モ百歳ノ後萬一壓制ノ政ヲ施行セラル、時ニ至テ
 ハ人民自由ノ權ヲ以テ水府十七士ノ伊井元老ノ首ヲ戢スル如キ舉

動ニ及フ事モアル可ク自分心中ニ於テ是等ノ事ヲ眞ノ自由ノ權利
 ト心得記載シタリ

右ニ付明治九年二月二十三日東京裁判所ニ於テ左ノ處斷ヲ申渡シタ

其方儀該社新聞第三十九號社説ニ前編輯長加藤九郎處刑ノ儀ニ付
 該犯口供甘結ノ何タルヲ辨ヘス妄ニ臆説ヲ附會シ顯ハニ刑律ニ觸
 レタル罪犯ヲ曲庇スルノ論ヲ爲シ同新聞第四十二號社説ニ人民自
 由ノ權利ヲ論シ百歳ノ後苛政アルノ日ニ至テハ自由ノ白刃ハ壓制
 ノ堅城壁ヲ突墮スル等ノ論説ヲ掲載スル右科ノ中新聞條例第十三
 條ニ依リ禁獄二年半申付ル

貞雄ニ於テハ右ノ處斷ヲ不法ナリトシテ明治九年三月四日大審院へ
 上告シタリ其旨趣左ノ如シ

罰文中第四十二號社説ニ人民自由ノ權利ヲ論シ百歳ノ後苛法アル
 ノ日ニ至テハ自由ノ白刃ハ壓制ノ堅城壁ヲ突墮スル等ノ論説ヲ揭
 載スル右科ノ中新聞條例第十三條ニ依リ禁獄二年半申付ルトアリ
 然ルニ自分素ヨリ此社説ハ櫻田ノ變及ヒ土耳其ノ事ヲ引證シテ之
 ヲ自由權利ノ壓制下ニ發現スルニ譬喩スト雖モ是定テ百歳ノ後ヲ
 想像スルノ論旨ニシテ決テ現在ヲ説クニ非ス故ニ末段ニ至テ方今
 我輩兄弟ノ爲ニ賀スヘキノ一事アリ云々ノ語ヲ以テ現今明治政府
 ノ賢明純良ニシテ決テ如此變事ノ憂ナキヲ確示ス然レモ百歳ノ後
 政府萬一賢明純良ノ跡ヲ絶チ壓制ノ所爲アルモハ彼ノ櫻田ノ擧ヲ
 發生セサルヲ得サルヲ論シ畢竟前車ノ顛覆スルヲ見テ後車ノ殷鑒
 トレ以テ預メ百歳ノ後ヲ警戒スルノ論意ナリ併シ訊問ノ末自分心
 中ニモ素ト憂國ノ赤念ヨリ出テ却テ世人ヲ教唆スルノ弊害ヲ提起

スルニ至ル旨竊ニ悔悟セル處計ラス第十三條ニ抵觸スルヲ以テ二
 年半ノ禁獄申渡サレ不服ノ至リニ堪ヘス右ハ第十二條教唆ニ擬律
 セラレテ然ル可クト自分確信ス且該社説ノ主意ハ百歳ノ後ニ在リ
 然ルニ法官現在ヲ以テ遠ク百歳ノ後ヲ責罰セラル、ノ權利ハ毫モ
 アラスト自分論理ノ上確信ス況ンヤ現今發行ノ條例中些少モ後世
 ヲ責罰スヘキノ意ヲ存在スル無キニ於テチヤ是等ノ件々自分不服
 ニ付此段上告ス

右ニ付大審院ニ於テ法律ニ照準シ辨明スルヲ左ノ如シ

貞雄ノ上告狀中ニ社説ノ趣意ハ百歳ノ後政府萬一賢明純良ノ跡ヲ
 絶チ壓制ノ所爲アルモハ彼ノ櫻田ノ擧ヲ發生セサルヲ得サルヲ論
 シ畢竟前車ノ顛覆スルヲ見テ後車ノ殷鑒トシ以テ預メ百歳ノ後ヲ
 警戒スルノ論意ナリ依テ新聞條例第十二條ニ擬セラレ然ルヘキノ

第十三條ニ依リ罰セラレタルハ不法ノ裁判ナリト申立レ其論説
 人ヲ教唆スルノ旨趣ニ之ナキニ付條例第十二條ニ擬ス可キノ罪ニ
 非ス政府ナル者一モ其國民ヲシテ自由ノ權利ヲ保全スル能ハサル
 ノ所行ヲ爲スルハ人々奮テ銀山ノ雲ト消へ波嶺ノ紅葉ト散リ南山
 ノ白露ト滅セシカ如キ舉テ學ハサルヲ得ス云々等ノ語ヲ掲載セシ
 ハ假令百歳ノ後ヲ警戒スルノ論意ナリト申立ルモ皇統連綿萬世一
 系統ノ帝國ナルヲ以テ方今ノ政府モ後來ノ政府モ同一ノ政府ナル
 ニ依リ東京裁判所ニ於テ條例第十三條ニ擬シ貞雄ニ申渡シタル裁
 判ハ不法ノ裁判ニ非ストス

判決

右ノ條理ナルヲ以テ明治九年二月二十三日東京裁判所ニ於テ貞雄ニ
 申渡シタル裁判ヲ破毀ス可キ理由ナシ因テ上告狀差戻ス者也

第貳拾八號

○判文(受寄ノ財産ヲ費用セシ件)明治八年八月十七日上告
 明治九年八月四日判決

青森縣管下陸奥國津輕
 郡第一大區一小區青森
 濱町五拾六番地商榷本
 六造物代理

吉田亮三

右亮三儀明治八年七月中青森縣ニ於テ原告平田健吉等ヨリ告訴ヲ受
 ケタルヲ并亮三ノ答辨シタルノ要旨如左

原告總代平田健吉申立ルニ津輕郡第四大區五六七八小區菊川村外
 二十二个村明治七年田畑貢米石代金ノ義榷本六造物代理吉田亮三へ
 談判取極メ繆ケ澤并水造ノ兩倉庫へ米六千拾九俵餘ヲ駄送シ石代

八二二

金上納方ハ亮三ヨリ納期無遲滯納ム可キ筈尤モ石代金皆納セサル
間ハ亮三方ニテ他ヘ運輸セサル旨ノ約定ヲ左ノ第一號第貳號ノ證
書ニテ結ヒ置キタリ

第一號證書

記

一米六千拾九俵壹斗壹升九合八勺

右ハ買請米正ニ預リ候納金ノ儀ハ御規則ノ通上納可仕候也

明治八亥一月廿八日

榎本六造印

五六七八小區

組頭御中

第二號證書

證

一米六千拾九俵也

右當四大區五六七八小區百姓中昨明治七年貢米石代金直段ヲ以
被仰付次第御規則通上納可仕有俵數丈皆金相渡不申内ハ鱈ヶ澤
并木造倉廩へ入置候米一切外方へ相渡不申約定仕候處相違無御
座候然ルニ鱈ヶ澤并ニ木造倉廩入米六千俵餘開拓使御買上米ナ
ル商會有米ノ部へ取結川村庫雄殿へ申上御封印ニ相成候得共前
書六千拾九俵餘ハ全ク石代金皆納不致内ハ百姓中ニテ預リ米ニ
相違無御座候爲後證如件

榎本六造代

明治八年三月廿日

三浦清之進印

第四大區五六七八小區

村々組頭御中

九二二

然ルヲ右ノ約定ニ違背シ石代金皆納前被告所有米ニ組込亮三ヨリ
 開拓使へ賣渡シタル由ニテ上納ノ期ニ至リ閉店シ石代金上納爲シ
 難キ旨申聞居リ難澁ニ堪エサルヲ以テ代金受取濟俵數差引殘預ケ
 米ハ被告ニ於テ石代金上納スル共又ハ預ケ米返戻スル共約定可遂
 様裁判ヲ願ヒタリ

被告榎本六造代理吉田亮三申立ルニ明治八年一月中石代相場ヲ以
 原告人所有米ノ内相對熟議ノ上米高六千拾九俵壹斗壹升九合八勺
 買請約定シ現俵數受取濟ニハ成ラサレ原告人ノ懇談ニ依リ原告
 申立ノ中ニ見ユル第一號ノ證書ヲ渡シタリ明治八年二月二日右米
 代總額ノ内金三千五百六拾七圓拾八錢九厘ヲ渡シ請取證書取置殘
 金モ上納期限無相違可渡ノ處約定ノ米數揃ハス旁選廻シタルニ付
 原告惣代平田健吉ヨリ催促中明治八年三月十八日閉店シタルニ付

右石代金渡ス可キ手段ナシ即日負債消却方ノ概算ヲ以寬典ノ處分
 ヲ縣廳へ願出テタルニ相對示談可及旨被申聞願書下渡ニ成リタリ
 而シテ示談行届カス遂ニ原告ヨリ出訴ニ及ハレタリ而シテ訴狀中
 石代金皆納セサル間ハ他へ運輸セサル約定ノ處自分所有品ト爲シ
 開拓使へ賣上タル云々ヲ申立ルト雖モ自分ニ於テハ右様ノ約條ヲ
 爲シタル覺ナシ果シテ右約定ヲ爲シタルナレハ原告申立中第壹號
 約定證書ニ其譯ヲ記載アル可キ筈ナルニ記載ナキヲ以テ判然タリ
 又第壹號證書中「預リ」ノ文字ヲ加ヘタルハ其時代價渡已前ニ係リタ
 ルヲ以テノ故ニテ假令預リ置タル品ナリモ其後内金ヲ渡シタル上
 ハ全ク自分買受タル品ニ相違ナシ畢竟價ヲ定メ内金ヲ渡シ殘金返
 濟ノ期限ヲ定メ現品受取リタル上ハ私有品ト見做スハ商賈ノ通情
 ナリ且原告申立中第二號ノ證書ハ元手代三浦清之進一己ノ專斷ヲ

以テ權外ノ處分ヲ爲シタルモノニテ清之進ハ總ケ澤入倉米監守ノ爲出張セシメタルヲニテ監守ノ外他ニ關係ス可キ權ナク且自分ヨリ委任セサルノ證ハ覆本ノ閉店ハ明治八年三月十八日ニシテ第二號ノ證書ヲ入レタルハ明治八年三月二十日ナレハ閉店ノ儀既ニ届出タルニ自分ニ於テ尙其私事ヲ自由ニスルノ權ナク而シテ尤モ疑フ可キハ右米ハ既ニ開拓使ヘ納濟ナルハ清之進監守ニテ知リナカラ空物ノ證ヲ納レ又右證書ヲ受取リタル村吏モ既ニ開店ノヲ知リナカラ總代理ノ自分ヨリ受取ラスシテ清之進ヨリ受取リタルナリ然レハ清之進ノ答ニ木造村ニ於テ各村吏ヨリ嚴談ヲ受ケ并六造手代森山善造ヨリノ談話モアルニ付不得止證書ヲ渡シタリト云ニテ右疑團モ氷釋シ并ニ權外ノ處分ニ出タルヲ判然タレハ右第二號ノ證書ハ其効ナキモノナリ

右ニ付青森縣廳ニ於テ明治八年八月十二日左ノ申渡シヲ爲シタリ
 其方儀菊川村外二十二个村總代平田健吉外三名ヨリ昨甲戌年貢米石代取組ニ六千拾九俵餘買受預リ米致シ右代金ノ儀ハ石代金納期都度戸長役場ヘ上納可致旨約定致シ初納金三千五百六拾七圓餘ハ已ニ納了スルト雖モ其後該米兼テ開拓使ヘ賣上米ノ口ヘ差向ケ同使ヨリ依頼ニ付派出スル當縣川村權少屬一己所有米ト申立倉庫ニ就テ檢査相受ケ引渡シ爾後仮令閉店致セバトテ石代金二三納期限ニ至リ六千三百五拾貳圓餘當初石代引受ケノ委託ニ違ヒ上納不致科雜犯律費用受寄財產條凡他人ヨリ財物畜産ノ寄托ヲ受ケ輒シ費用スル者ハ坐贓ヲ以テ論シ一等ヲ減シ罪徒二年半ニ止ルトアルニ擬シ懲役二年半申付候事
 但費用スル金六千三百五拾貳圓五拾九錢五厘代米ハ開拓使ヘ賣

上ル旨申立ルト雖於當縣川村權少屬緘封致置同使へ不引渡其儘現存スルニ付石代金未納分米二千五百貳拾七俵壹斗五升四合壹勺右鎖封米ノ内ヨリ直ニ追徴申付健吉外三人へ戻シ遣ス間其旨可心得事

亮三儀右青森縣ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治八年八月十七日大審院ニ上告シタル要旨如左

第一條 榎本六造幼稚ニ付自分總理ノ任ヲ受ケ明治八年一月中原被相對熟議ノ上原告人所有米六千拾九俵餘青森縣石代相場ヲ以其代金ハ上納期限ヲ期シ之ヲ買受原告申立中第一號證書ノ如ク約定シタリ即チ其品物ハ相對ノ賣買品ニシテ寄托物ニアラス其代金ハ買掛リ負債金ニシテ寄托財ニ非サルコトハ證書ニ於テ明晰ナリ又眞ノ寄托品ナレハ約定ノ米額其數備ハラサルノ道理ナク旁以商業賣

買品ナルコト判然タリ

第二條 原告申立中第一號ノ證書ハ代價渡已前ニ係ルヲ以テ預リノ文字ヲ加ヘタレモ明治八年二月二日ニ内金ヲ渡シタル上ハ私有ノ物品ト見做スハ商買ノ通情ニテ既ニ之ヲ使用スルノ權ヲ被告ニ有シタルハ原告ニ於テ内金ヲ使用スルノ權ヲ有スルト同一ナリ然レハ自分ニ於テハ使用スヘキ物品ヲ使用シタルニテ更ニ刑事ニ關スルノ理由ナシ

第三條 原告ニ於テハ明治八年二月二日ニ渡シタル内金額ニ相當スル米代ニ當テ之ヲ受取り其餘ハ預米ノ姿ヲ以テ事情ヲ裝飾シ申立タレモ總代額ノ内金ナルハ左ノ受取證書ニテ判然タリ

證

一金三千五百六拾七圓拾八錢九厘

右者第四大區五六七八小區村々貢米石代取組高六千百五拾俵壹
斗三升八勺代金ノ内書面之通正ニ受取候也

第四大區八小區副戸長

明治八年二月二日

中畑平次郎印

外二名

榎本六造殿

第四條 貢米代金期限ニ至リ戸長ヘ納ムヘキノ依頼ヲ受ルト雖
之ヲ以テ寄托財ト爲ス可ラス既ニ戸長ヘ渡シタル上ハ其金即チ原
告ノ財ニテ未ダ渡サ、ルハ被告ノ所有ナルヲ勿論ナリ且ツ賣主原
告人ハ村用掛ナリ其代價受取人ハ村吏ナリ殊ニ初ヨリ此約定ニ立
合ヒタル本人同等ノ村吏ヘ納ムヘキノ依頼ヲ受ケタル迎全ク他人
ニ渡スノ諾ヲ受ケシモノニ非ス

第五條 申渡書中ニ買受米ノ内開拓使ヘ賣上ノ分ハ現在スル云々
トアレ、右米ハ明治七年十月中開拓使ヘ賣上ノ節開拓使ヨリ青森
縣ヘノ依頼アルヲ以テ權少屬川村庫雄ヨリ達ニ付明治八年二月中
該米ハ青森縣ヘ上納シ置キ尙明治八年三月十七日右米封印検査ノ
爲ノ開拓使十三等出仕關常憲青森縣ヘ出張ノ處既ニ庫雄ニ於テ封
印ナリタル儀ナレハ最早上納濟ノ官有物ニシテ眞ニ現在スルノ私
有物ニ非サルヲ亮然タリ

第六條 明治八年八月八日口書讀聞ニ成リタルニ審判中申立ノ趣
意ト大ニ齟齬シタルニ付摺印爲シ難キ旨答タルニ口書改寫ノ上再
應ノ申付ニ任セ無據摺印致シタルニ付裁判申渡アリタレ、凡寄托
ノ財産ヲ費用スル者ハ被寄托人固ヨリ使用ス可キノ理ナキニ輒ク
消費スル者ヲ云該件ノ如キハ原被熟議ノ賣買品ニシテ但其買掛リ

代價破産閉店ノ不幸ヨリ負債ニ至リタルモノニテ曾テ費用受寄財
産條ニ擬ス可キ理由ナシトス

右ニ付大審院ニ於テ條理ヲ推シ辨明スルヲ左ノ如シ

第一條

吉田亮三ニ於テハ菊川村外二十二村ヨリ米六千拾九俵餘ヲ買受ケ
シトニテ寄托物ニアラサルヲハ證文ニ於テ明晰ナリト申立タリ然
ルニ其證文〔第壹號〕ニハ買請米正ニ預リ候納金ノ儀ハ御規則ノ通り
上納可仕候トアリ因テ其文意ヲ推究スルニ一枚ノ證書中ニ三箇ノ
條件ノ契約アリテ甲乙二箇ノ條件互ニ反對ヲ爲シ而シテ丙ノ條件
ハ甲乙二箇ノ條件ト關係ヲ爲サ、ル者トス如何トナレハ甲ノ條件
ハ買受米ノ契約ナリ〔買受米ノ明文ニ依ル〕乙ノ條件ハ預リ米ノ契約
ナリ〔正ニ預リ候ノ明文ニ依ル〕丙ノ條件ハ納金上納ノ契約ナリ〔納金

ノ義ハ御規則通り上納可仕候ノ明文ニ依ル〕因テ右ノ三箇ノ條件ノ
性質ヲ推窮スル時ハ甲ノ條件〔買米〕ナレハ亮三カ所有ノ米ナル故ニ
乙ノ條件〔預リ米〕ニ非ス乙ノ條件ナレハ亮三カ所有ノ米ニ非サル故
ニ甲ノ條件ニ非ス然ル時ハ甲ト乙トハ互ニ反對セル契約ナリトス
而シテ丙ノ條件ハ〔納金上納〕甲ノ條件ニ付テモ乙ノ條件ニ付テモ相
關係セサル一箇別段ノ條件ナリトス左スレハ右ノ甲乙丙ノ條件ヲ
三箇ニ分折シ一箇ツ、ニ付キ推窮スル所ハ契約ノ主旨ハ何ノ目的
ナリヤ之ヲ把定シ得ヘカラサルノ證文ナルニ因リ六千拾九俵餘ノ
米ハ果シテ寄托物ナリヤ寄托物ニ非サリシヤヲ確定シ得可ラサル
者トス

第二條

第一條ノ如クナルニ因リ契約證文〔第一號〕ヲ作りタルニ付テノ亮三

ト菊川村外二十二村ノ總代ナル平田健吉等カ申立ヲ取調フルニ左ノ如シ

平田健吉等云フ田畑貢米石代金ノ儀吉田亮三ニ談判取極メ繆ケ澤并木造ノ両倉庫ヘ米六千拾九俵餘ヲ駄送シ石代金上納方ハ亮三ヨリ納期無遅滞納ムヘキ筈尤モ石代金皆納セサル間ハ亮三方コテ他ニ運輸セサル旨ノ約定ヲ結ヒタリ

亮三云フ原告人〔平田健吉等〕所有米六千拾九俵餘青森縣石代相場ヲ以テ其代金ハ上納期限ヲ期シ之ヲ買受ケ第一號證書ノ如ク約定シタリ

右ノ雙方ノ申立ヲ以テ之ヲ證文ニ照スニ左ノ如シ
證文ニ納金ノ儀ハ御規則ノ通り上納可仕候ト記シアルヲ健吉等ニ於テ石代金上納方ハ亮三ヨリ納期無遅滞納ムヘキ筈ノ處ナリト云

ヘルハ證文ノ文意ニ適合セリトス亮三ニ於テ六千拾九俵餘ノ米ヲ石代相場ヲ以テ其代金ハ上納期限ヲ期シ買受ケシ約ナリト云ヘルハ證文ノ文意ニ適合セサル申立ナリトス

證文ニ買受米正ニ預リ候ト記シアルヲ健吉ニ於テ石代金皆納セサル間ハ亮三方ニテ他ニ運輸セサルノ約ナリト云ヘルハ預リ候ノ明文ヲ辨解セシノミニテ買受ノ明文ヲ辨解セサル者トス亮三ニ於テ代金ハ上納期限ヲ期シ之ヲ買受ケタリト云ヘルハ買受ノ明文ヲ辨解セシノミニテ預リ候ノ明文ヲ辨解セサル者トス

右ノ雙方ノ申立ニ依リ大審院ニ於テ買受ノ明文ト預リ候ノ明文トヲ辨明スルニハ右ノ辨明ヲ爲スヨリ前ニ先ツ納金上納ノヲ辨明セサレハ本件ノ米ハ亮三ニ於テ買受ケナリヤ預リ米ナリヤヲ確定シ得ヘカラサルニ付先ツ納金上納ノ明文ヲ辨明スヘシ抑納金上納

トハ何人ノ上納金ナリヤ菊川村外二十二村ノ貢納金即チ健吉等カ
 貢納金ニシテ亮三ノ貢金ニハ非サルナリ然ルモハ明治八年一月二
 十八日ニ第一號證文ヲ以テ榎本六造ノ代理ナル亮三ヨリ菊川村外
 二十二村ニ對シ契約セシ原因ハ健吉等ニ於テハ貢納金ヲ上納スル
 爲ニ米ヲ賣リ金ヲ得ント企望セシ情實ヨリ生セシコトハ明瞭ニシテ
 亮三ニ於テモ健吉等カ貢納金ノ爲ニ賣ル所ノ米ヲ買受ント企望セ
 レ情實ヨリ生セシコトハ明瞭ナリトス如何トナレハ亮三ト健吉等ト
 米ノ取引ヲ爲スノ證文ニ亮三ニ於テ納金ノ儀ハ御規則ノ通上納可
 仕候也ト書キ載スヘキ筋ナキニ亮三ニ於テハ之ヲ書キ載セタリレ
 明文アルニ依ルモハ其米ノ取引ノ原因ハ貢金上納ノ爲メナルコトハ
 明瞭ナリトス

第三條

亮三ト健吉等トノ間ニ取結ヒタル米ノ契約ノ原因ハ健吉等カ貢納
 金ノ條件ナルコト明瞭ナリシ上ハ第一條ニ辨シタル甲乙丙ナル三箇
 ノ條件中丙ノ條件ナル納金上納ノ事ヲ目的ト爲シ取結ヒタル契約
 ナル故ニ乙ノ條件ナル預リ米タルコト明瞭ナリトス如何トナレハ健
 吉等ニ於テ貢金ヲ上納セントスルニ當リ米ヲ賣リ金ニ換ヘサレハ
 金納ヲ爲シ得サルニ因リ健吉等ヨリ亮三ニ對シ米ヲ賣ルヘキノ約
 ナ爲スニ臨ミ貢金上納ノ期限ハ未タ來ラサルヲ以テ若シ米ヲ賣渡
 シテ金ヲ得サルモハ貢金上納ノ目的ヲ達シ得サルヲ以テ貢納金ノ
 全額ヲ完納セサル内ハ亮三ニ於テ受取リタル米ハ亮三ノ所有ナラ
 スシテ健吉等ヨリ預リタル米ナルコトノ契約ヲ爲シタルコトス夫故
 ニ第一號證文ニ買受米正ニ預リ候納金ノ儀ハ御規則ノ通上納可仕
 候ノ明文明瞭ニシテ健吉等カ石代金上納方ハ亮三ヨリ納期無遅滞

納ムヘキ管尤石代金皆納セサル間ハ亮三方ニテ他へ運輸セサル旨ノ約定ヲ結ヒタリトノ申立ニ適合セリトス若シ亮三カ申立ノ如ク其米ハ寄託物ニ非スト爲サハ正ニ預リ候ノ明文ハ他へ運輸スヘク他ニ賣渡スヘキノ約ト爲スヘキカ預リ米ハ亮三ノ所有ニ非サル故ニ他ニ運輸ス可ラス賣渡ス可ラサルヲ列然ナリトス

第四條

第三條ノ如クナル時ハ納金上納〔丙〕ト預リ米〔乙〕トノ兩條件ハ明瞭ナレトモ買米〔甲〕ノ條件ニ抵觸シ買受米ノ明文ニ反對スルノ疑アルヘレ然ルニ本件ノ取引ニ付事情ヲ思料シ條理ヲ推究スル所ハ決シテ抵觸チモ爲サス反對チモ爲サ、ルトス如何ントナレハ亮三ニ於テ三箇ノ條件チ一枚ノ證文ニ併記シテ取結ヒタル契約ノ原因ハ納金上納ノイナルニ因リ亮三ニ於テ納金上納ヲ爲サ、ル内ハ其米ハ證

文ニ記セル正ニ預リ候ノ明文ニ對シ他ニ賣渡スノ權利ナシトス左スレハ買受ケノ二字ハ普通ノ條理ヲ以テ之ヲ論スレハ賣買セシ物ハ賣買セシ雙方ノ承諾セシ時ニ所有ノ權ハ移ルヘキイナレトモ本件ノ如キハ買受ケノ文言ノ下ニ預リ候ノ文言アリテ其ノ預リ候ノ文言アル原因ハ貢金上納ノ事ナルニ付亮三カ證文中買受ノ意味ハ亮三へ買受米ノ取組ヲ爲スコトハ直ニ亮三ノ所有米ト爲スコトヲ雙方ニ於テ承諾セシニ非ス一先ツ米ヲ亮三方ニ預リ置キ貢金上納ノ期ニ至リ亮三カ健吉等ニ代リテ健吉等カ貢金ヲ上納シタル時ハ此米始テ亮三カ所有ト成ルヘシトノ契約ナルヲ明瞭ナリトス故ニ亮三カ上告書ニモ第壹號ノ證書ハ代價渡以前ニ係ルヲ以テ預リノ文字ヲ加ヘ云々ト申立テタリ左スレハ亮三ニ於テ買受米ノ三字アルノ證文ヲ以テ寄託物ニ非サルノ證ト爲スヲ得サルヲトス

第五條

亮三カ上告書第二條ニ於テ第壹號ノ證文ハ代價渡以前ニ係ルヲ以テ預リノ文字ヲ加ヘタレトモ明治八年二月二日ニ内金ヲ渡シタル上ハ私有ノ物品ト見做スハ商賈ノ通情ニテ既ニ之ヲ使用スルノ權ヲ被告ニ有シタルハ原告ニ於テ内金ヲ使用スルノ權ヲ有スルト同一ナリト申立ツルト雖モ亮三ノ所爲ニ於テハ原告ニ渡スヘキ代價ノ全額ヲ渡サ、ル内ニ預リ米ノ全額ヲハ之ヲ他人ニ賣渡シタリ左スレハ亮三カ預リ米ヲ他人ニ渡シタルハ代價未濟ノ米ト代價既濟ノ米トノ兩様ナリトス右ノ如キ事實ナルヲ原告ニ於テ内金ヲ使用スルノ權ヲ有スルモ同一トハ條理ニ悖ルノ辨解ナリトス如何トナレハ原告ニ於テ使用シ得ルノ金額ハ亮三ヨリ受取ル所ノ内金ノミトス然ルモハ亮三ニ於テモ内金ヲ渡シタル金額ニ相當スルタケノ米

額ヲ他人ニ賣渡スヘキ權利ヲ有スルマテニシテ全額ノ代價ヲ渡サ、ルニ全額ノ預リ米ヲ他人ニ賣渡シタルトハ原告カ受取リタル内金ヲ使用スルノ權ヲ有シタルト同一ノ條理ト見做スヲ得ス

第六條

鯨ヶ澤木造ノ兩倉廩ニ積込アル米ハ明治七年十月中亮三ヨリ開拓使へ賣切置キタルヲ以テ明治八年三月六日開拓中判官杉浦誠ヨリ青森縣權參事那須均へ書面ヲ以テ照會シ右兩倉廩ニ積込アル買上米悉皆封印スルヲ依頼アリタルニ青森縣廳ニテ之ヲ承諾シ幸ヒ權少属川村庫雄鯨ヶ澤港巡回中ニ付右開拓使依頼ノ趣ヲ縣廳ヨリ庫雄出張先へ通達シ庫雄檢査中尙開拓使ヨリ關常憲出張シ各所倉廩檢査トシテ鯨ヶ澤地方へ出向ノ處既ニ庫雄封印濟ノ上ナルヲ以テ兩人俱々立戻リシトナレハ右封印ハ即チ開拓使ニ於テ之ヲ爲シ

タルモノトス然レハ該米ハ青森縣ノ倉廩ニアリト雖モ開拓使ノ所
有タルヲ判然タルヲ青森縣ニ於テハ右ノ開拓使ノ所有米ヲ亮三ニ
向ヒ追徴ヲ申付シハ不條理ノ處分ナリトス又開拓使ニ於テハ初ヨ
リ其寄托米ナルノ事情ヲ知ラスシテ之ヲ買上ケシト故ニ今日ニ至
リ亮三ノ贓物タルヲ判然タルモ開拓使ニ於テハ公商公買ニ由リ買
取リタルモノナレハ追徴ヲ受クヘキノ法律ナキニ因リ青森縣ニ於
テハ之ヲ追徴スルヲ得ヘカヲサルモノトス

第七條

前數條ニ論スル如ク亮三カ菊川村外二十二村ヨリ請取リタル米ハ
寄托米ニシテ買受米ニ非ス其開拓使ニ賣切タルハ即チ寄托ノ物品
ヲ費用シタルヲ明白ナレハ亮三カ上告ヲ以テ青森縣ニ於テ雜犯律
費用受寄財産條ニ擬シ坐贓ヲ以テ論シ懲役二年半申付タルハ不適

當ノ裁判ニ非ストス又第六條ニ論スル如ク藤ヶ澤木造ノ倉廩ニ在
リシ米ハ公商公買ナル亮三ヨリ買取リタル開拓使ノ所有ナルチ青
森縣ニ於テ亮三ニ向ヒ右米ノ追徴ヲ申付ケタルハ不法ノ裁判ナリ
トス

判決

右ノ條理ナルヲ以テ明治八年八月十二日青森縣ニ於テ中渡シタル裁
判ヲ平翻スルヲ如左

雜犯律費用受寄財産條凡他人ヨリ財物畜産ノ寄托ヲ受ケ輒ク費用
スル者ハ坐贓ヲ以テ論シ一等ヲ減シ罪徒二年半ニ止マルトアルニ
擬シ贓金千圓以上懲役二年半

但寄托米ハ既ニ費用シタルニ付追徴ス可キナシ

〇判文賭博再犯ノ件明治九年四月廿七日上告
明治九年八月十二日判決

愛媛縣伊豫國桑村郡壬

生川村平民

古川 忠 次

右忠次儀明治九年四月二十日愛媛縣廳ニ於テ爲シタル口供ノ要旨如左

自分儀久米郡北方村重松繁太郎所持地芝居小家ニ於テ明治九年三月十六日夜花山新次郎外七名ノ者ト申合賭博シタルニ巡查入込新次郎外五名ノ者ハ捕獲セラレ自分外二名ノ者ハ逃亡シ各處徘徊中

明治九年三月二十六日久米郡南方村ニテ被捕獲事

右ノ口供ニ依リ明治九年四月二十四日愛媛縣ニ於テ左ノ裁判申渡ヲ爲シタリ

其方儀賭博ノ科ニヨリ已ニ處刑ヲ受クル身分猶心底ヲ不改本年三月十六日花山新次郎外七名ノ者ト金錢ヲ賭ケ博奕致ス科再犯加等罪例ニヨリ本罪ニ一等ヲ加ヘ懲役九十日ノ處捕吏ノ臨ムニ際シテ逃走スルニヨリ罪人拒捕條ニ照シ又二等ヲ加ヘ通シテ三等ヲ加ヘ懲役一年中付ル

愛媛縣二等警部武藤正休右ノ處斷ヲ不當ナリトシ明治九年四月二十七日大審院ニ上告シタル要旨如左

忠次ノ處斷ニ於ケルハ賭博條例再犯加一等ニ止ルモノニテ其捕吏ノ臨ムニ際シ逃走スルハ敢テ抗拒スルニ非スシテ徒ニ遁避スル耳固ヨリ罪人拒捕條ニ照依スヘキモノニ無之因テ該審判ハ不當ト見込ニ付破毀ノ上更ニ至當ノ裁判ヲ請求セリ

右ニ付大審院ニ於テ法律ニ照シ辨明スルヲ如左

罪人拒捕條ニ凡罪ヲ犯シテ逃走シ追捕ヲ拒ク者ハ各本罪上ニ二等
ヲ加フトアルハ其重ンスル所拒捕ノ上ニ在テ逃走トハ拒捕ヲ爲ス
ノ手續ヲ掲ケシコトス故ニ律文逃走ト拒捕トノ間ニ及ノ字ヲ加ヘ
サルヲ以テモ逃走ト拒捕ト二項ナラサルヲ見ルヘントス且各本罪
上ニ二等ヲ加フ云々ノ各ハ是又逃走拒捕ノ二項ヲ指スニアラス即
獄囚脱監條各本罪上ト同文例ニシテ強竊盜鬪毆犯姦等各自犯ス所
ノ本罪上ニ二等ヲ加フルナリ因テ逃走ノミニシテ拒捕セサルハ等
ヲ加ヘサルヲ以テ至當トス故ニ愛媛縣ノ裁判ハ法律ニ違フ者ナリ
トス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ愛媛縣ニ於テ忠次ニ申渡シタル裁判ヲ取消シ更
ニ大審院ニ於テ之ヲ平翻シ裁判スルヲ如左

雜犯律賭博條財物ヲ賭シ博戯ヲ爲ス者懲役八十日ノ處再犯ナルヲ
以テ一等ヲ加ヘ懲役九十日

第三拾號

○判文(賭博自首ノ件)明治九年四月廿八日上告
明治九年八月十二日判決

愛媛縣伊豫國伊豫郡灘

町平民

日 野 秀 吉

右秀吉儀明治九年四月六日灘町灘大藏方ニ於テ賭博ヲ爲シタル事件
明治九年四月十日自首シタルニ付愛媛縣ニ於テ審問ノ末明治九年四
月廿七日口供ノ旨趣左ノ如シ

自分儀同町灘大藏宅ニ於テ明治九年四月六日神東新吾外四名ノモ
ノト申合賭博ヲシタルニ巡查ニ被見咎直ニ其場ヲ逃走諸所潛伏ノ

處同類ノ者追々捕ニ就キタルヲ聞先非後悔明治九年四月十日愛媛縣第六大區巡查屯所へ自首シタリ

右ノ口供ニヨリ明治九年四月二十七日愛媛縣ニ於テ左ノ通裁判申渡シテ成シタリ

其方儀本月六日灘大藏宅ニ於テ同類申合何レモ財ヲ賭ケ博奕致ス際巡查ニ被見咎ナカラ其場ヲ逃ケ去ル科捕亡律罪人拒捕條ニヨリ賭博罪ニ二等ヲ加ヘ懲役百日ノ處其逃レ難キヲ覺リ自首スルヲ以テ名例律犯罪自首條官ノ捕獲セント欲スルヲ知テ自首スル者ニ擬シ本罪ニ一等ヲ減シ懲役九十日ヲ換ヘ杖罪九十申付ル

愛媛縣四等警部高橋成政右ノ處斷ヲ不當ナリトシテ明治九年四月二十八日大審院ニ上告シタリ其要旨如左

秀吉ノ犯罪ハ賭博犯罪ニ付自首スル者ナルヲ以テ犯罪自首條ニ照シ減一等ニ處ス可キモノニシテ其捕吏ヲ見ルニ際シ逃走スレバ拒捕條ニ照依ス可キ者ニ無之因テ該裁判ハ不當ト見込ニ付破毀ノ上更ニ至當ノ判決アラントテ請ト申立タリ

右ニ付大審院ニ於テ之ヲ成文律ニ照シ辨明スル如左

罪人拒捕條ニ凡罪ヲ犯シテ逃走シ追捕ヲ拒ク者ハ各本罪上ニ二等ヲ加フトアルハ其重ンスル所拒捕ノ上ニ在テ逃走トハ拒捕ヲ爲スノ手續ヲ揭ケシトス故ニ律文逃走ト拒捕トノ間ニ「及」ノ字ヲ加ヘサルヲ以テモ逃走ト拒捕トノ二項ナラサルヲ見ル可シトス各本罪上ニ二等ヲ加フ云々ノ各ハ是亦逃走拒捕ノ二項ヲ指スニ非ス即チ獄囚脱監條各本罪上ト同文例ニシテ強竊盜鬪毆犯姦等各自犯ス所ノ本罪上ニ二等ヲ加フルナリ由テ逃走ノミニシテ拒捕セサルハ等ヲ加ヘサルヲ至當トスルヲ以テ愛媛縣ノ裁判ハ法律ニ違フ者ナリ

トス

判決

右ノ條理ナルヲ以テ愛媛縣ニ於テ日野秀吉ニ申渡シタル裁判ヲ破毀
シ更ニ大審院ニ於テ之ヲ平翻シ裁判スルヲ如左

雜犯律賭博條財物ヲ賭シ博戲ヲ爲ス者懲役八十日ノ處聞捕自首ス
ル者ヲ以テ論シ改定律例第五十九條ニ照シ一等ヲ減シ

懲役七十日

日野秀吉

第三拾壹號

○判文〔賭博自首ノ件〕明治九年四月廿七日上告
明治九年八月十二日判決

愛媛縣伊豫國野間郡濱

村平民橫田爲次第瓦燒

渡世

橫田爲藏

同國同郡同村平民船乘

渡世

濱田清十郎

同國同郡同村平民瓦燒

渡世

小泉虎造

同國風早郡安居島平民

肴賣渡世

大堀愛吉

右ノ者共儀賭博事件ニヨリ愛媛縣ニ於テ審判ノ末明治九年四月二十
一日口供ノ要旨左ノ如シ

自分共儀明治九年三月十四日夜野間郡濱村港内ニ繋キアル松田又市船へ参リヒ處今岡喜三平外三名ノ者博奕取扱居リシニ付自分等モ共々博戯シタルニ巡查ニ入り込マレ逃走シタレ共迎モ捕獲ハ難逃ト存シ明治九年三月十八日巡查屯所へ自首シタリ

右ニ付明治九年四月二十四日愛媛縣ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡シタリ
其方共儀本年三月十四日今岡喜三平外三名ノ者ト申合セ金錢ヲ賭ケ博奕致スコ雜犯律賭博條ニ依リ懲役八十日ノ處捕吏ヲ見ルニ際シ逃亡スルヲ以テ罪人拒捕條ニ照シ二等ヲ加ヘ懲役百日ノ處其逃レ難キヲサトリ自首スルヲ以テ犯罪自首條聞捕自首スル者ニ擬シ本罪ニ一等ヲ減シ懲役九十日ヲ換ヘ杖罪九十申付ル

愛媛縣二等警部武藤正休右ノ處斷ヲ不法ナリトシ明治九年四月二十七日大審院ニ上告シタル要旨左ノ如シ

横 田 爲 藏

濱 田 清 十 郎

小 泉 虎 造

大 堀 愛 吉

右四名ノ處斷ニ於ケルハ賭博條ニ依リ犯罪自首條ニ照シ減等スヘキ者ニテ其捕吏ノ臨ムニ際シ逃走スルハ敢テ抗拒スルニ非スシテ徒ニ逃避スル耳固ヨリ罪人拒捕條ニ照依スヘキモノニ非ス因テ該審判ハ不當ト見込ニ付上告ス

右ニ付大審院ニ於テ條理ヲ推シ法律ニ照シ辨明スルヲ左ノ如シ

罪人拒捕條ニ凡罪ヲ犯シテ逃走シ追捕ヲ拒シ者ハ各本罪上ニ二等ヲ加フトアルハ其重シスル所拒捕ノ上ニ在テ逃走トハ拒捕ヲ爲スノ手續ヲ掲ケシトス故ニ律文逃走ト拒捕トノ間ニ「及」ノ字ヲ加ヘ

サルヲ以テモ逃走ト拒捕トノ二項ナラサルテ見ルヘシトス且各本罪上ニ二等ヲ加フ云々ノ各ハ是亦逃走拒捕ノ二項ヲ指スニアラズ即チ獄囚脱監條各本罪上ト同文例ニシテ強盜盜鬪毆犯姦等各自犯ス所ノ本罪上ニ二等ヲ加フルナリ由テ逃走ノミニシテ拒捕セサルハ等ヲ加ヘサルヲ以テ至當トス故ニ愛媛縣ノ裁判ハ法律ニ違フ者ナリトス

判決

右ノ條理ナルヲ以テ愛媛縣ニ於テ爲藏外三名ニ申渡シタル裁判ヲ破毀シ更ニ大審院ニ於テ之ヲ平翻シ裁判スルヲ左ノ如シ

雜犯律賭博條財物ヲ賭シ博戯ヲ爲ス者懲役八十日ノ處開捕自首ヲ以テ論シ改定律例第五十九條ニ照シ本罪ニ一等ヲ減シ

懲役七十日ツ、

- 横 田 爲 藏
- 濱 田 清 十 郎
- 小 泉 虎 造
- 大 堀 愛 吉

第三拾二條

○判文(贓物追給ノ件)明治八年十二月二日上告
明治九年八月廿六日判決

東京第六大區七小區本
所吉岡町二十二番地寄
留愛知縣士族

石 原 重 道

右石原重道儀疊町三番地原竹次郎ヨリ青筵ヲ質物ニ預リタル一件ニ付明治八年十一月二十四日東京裁判所ニ於テ左ノ裁判申渡ヲ受ケタ

其方儀原竹次郎ヨリ抵當ニ取置青筵ハ不正ニ付取上ル被欺取金ハ平林定次持去リ同人行先不相分間其旨心得ヘシ
右東京裁判所ノ裁判申渡ニ服セス明治八年十二月二日大審院ニ上告シタル要旨左ノ如シ

第一條 元來青筵質取シタルハ深川安宅町住鈴木彌助ヨリ依頼ニテ彌助ヘ尋問シタルニ聊不正品ニアラス是迄神田豐島町貳丁目住澁井鐵五郎方ヘ質入置キタルニ期限ニ至リ返金ノ術ナク依テ自分方ヘ質替トナシ金九百圓借受ケ度旨申ニ付承諾セシニ明治八年九月四日前債主鐵五郎儀船三艘ヘ青筵積入護送シ來ルニ依リ現品檢査ノ上雙方立會ニテ金九百圓貸渡シタレハ即チ面前ニ於テ竹次郎ヨリ鐵五郎ヘ元金七百五拾圓ニ利子ヲ加ヘ相渡レ殘金ハ竹次郎持

歸リタリ然ルニ明治八年十月十八日自分名代加藤嘉庸東京裁判所ヘ被呼出タレモ詳細取糾モ無カリシニ突然金ハ平林定次持去リ行先不相分間其旨心得可レト被申渡タルハ承服シ難シ
第二條 明治八年九月四日金九百圓貸渡シ明治八年十月三日ヲ期限ト定メタルニ其期ニ至リ再三催促スルモ受戻サス依テ證書ニ基キ賣却ス可キ旨申送リタルニ暫時可待吳旨竹次郎來談ニテ右談判中竹次郎親族山本新次郎佐藤吉左衛門兩名申聞クルニハ右青筵ハ齊藤辰四郎所有品ナルヲ竹次郎買取り鐵五郎ヘ質入金七百五拾圓借受右ノ内金六百圓手金トシテ辰四郎ヘ渡シタルニテ現今我等取扱中ナレハ竹次郎身分ハ總テ可任吳旨賴談ニ付身分預證書取置其請ニ任セタルニテ辰四郎ヘ入レタル手金六百圓ハ鐵五郎ヨリ借受ケタル内金ナル事判然タリ

第三條 東京裁判所ノ申渡ニ付齊藤辰四郎へ問合セタルニ辰四郎ニ於テ竹次郎ヨリ手金千六百圓受取リタルハ相違ナシト雖も右金悉皆渡邊治右衛門へ返償ス可シトノ裁判申渡ハ心得難ク其故ハ竹次郎ノ治右衛門ヨリ金圓借受ケタル年月日ト手金受取タル年月日ト異同アレハ治右衛門へ金圓悉皆相渡ス儀アルヘカラスト辰四郎苦情申居然レハ竹次郎ヨリ辰四郎へ入レ置キシ千六百圓ノ内六百圓ハ鐵五郎ヨリ借受ケタル金ヲ以テ渡シタルニ相違ナク而シテ自分儀ハ鐵五郎ヨリ置替ニ成リタル現今ノ債主ナレハ右六百圓自分へ返償アラハ至當ノ事ト申立タリ

右ニ付東京裁判所審判ノ始末ヲ取調ルニ其要略如左

東京新櫻田町拾九番地寄留大分縣士族齊藤辰四郎儀大分縣產物青廷ヲ取寄富田町壹番地村田新右衛門藏ニ預ケ置ク處疊町三番地原

竹次郎ハ兼テ右新右衛門ト懇意ナルヨリ同人ト竊ニ相謀リ右青廷ヲ取出シ明治八年五月五日明治八年六月十三日兩度ニ本材木町壹丁目一番地渡邊治右衛門方へ質入レト爲シ合金貳千四百圓借受ケタル所行發覺シ荷主辰四郎ヨリ訴出ントスルヲ知リ明治八年八月一日竹次郎ヨリ警視分廳ニ自首シタルニ付東京裁判所ノ取調ト成リタリ是ヨリ先キ明治八年七月二十八日當時行衛未知蠣殼町三丁目平林定次儀前文ノ新右衛門藏ニ辰四郎ヨリ預ケアル青廷七百三拾九束ヲ取出シ竹次郎ヲ請入ト爲シ豐島町貳丁目拾七番地澁井鐵五郎へ質入ニシテ金七百五拾圓借受ケ明治八年八月三十日ヲ期限トシタルニ右期限ニ至リ受戻方難出來ヨリ明治八年九月四日竹次郎儀借主トナリテ鐵五郎ヨリ本所吉岡町二十貳番地石原重道へ質替シ金九百圓借受ケ所々へ遣ヒ拂ヒタルヲ發露シタリ

右重道カ竹次郎ヨリ質物ニ預リタル青蕪ハ明治八年七月十三日竹次郎儀齊藤辰四郎ヨリ買取ノ約ナシ并ニ明治八年八月三十日迄ニ代金ノ皆濟ヲ爲サ、ル時ハ竹次郎カ買取ノ約ハ消滅スヘキノ約ヲモ爲シ置タル貳千五百束ノ内ニシテ明治八年八月三十日ヲ過キ竹次郎ニ於テハ代金ノ皆濟ヲ爲サ、リシナリ

右ノ重道ノ上告ト東京裁判所ノ取調トニ依リ大審院ニ於テ法律ニ照準ニ辨明スルヲ左ノ如シ

重道上告第一條ニ竹次郎へ貸與シタル九百圓ハ直チニ竹次郎ヨリ鐵五郎へ前借金七百五十圓ニ利子ヲ加へ渡シタル旨申立ルハ事實ニ於テ相違ナレトス其第二條ニ竹次郎儀鐵五郎ヨリ金七百五十圓借受ケ右ノ内六百圓ヲ辰四郎へ手金トシテ渡シタル旨申立ルト雖モ竹次郎ヨリ辰四郎へ手金ヲ渡シタルハ明治八年六月廿二日明治

八年七月三日同十三日ニシテ鐵五郎へ質入シタルハ明治八年七月廿八日ナレハ竹次郎ヨリ辰四郎へ手金ヲ渡シタルハ竹次郎カ青蕪ヲ鐵五郎へ質入レシタルノ已前ニ係ルニ依リ其事有ル可キノ道理ナレトス又第三條ニ於テモ辰四郎ノ答辨ヲ引証ニシ竹次郎ヨリ辰四郎へ入置キタル手金千六百圓ノ内六百圓ハ鐵五郎ヨリ借受ケタル金ヲ以テ渡シタルニ相違ナク而シテ自分ハ鐵五郎ヨリ置替ニ成リタル現今ノ債主ナレハ右六百圓ハ自分へ返償アリテ至當ナリト申立ルト雖モ是亦第二條ト同ク時日相前後シタルニ因リ申立相立タス矧ヤ辰四郎ノ答辨ハ辰四郎ト治右衛門トノ間ニ關係シタルノ事柄ニシテ重道ニ關係シタル事柄ニ非サルニ付キ第二條第三條ノ申立ハ採用ス可キノ理由ナシトス而シテ第一條ノ申立ハ首項ニ言フ如ク判然タル事件ナリト雖モ明治八年九月四日重道ノ竹次郎ヨ

リ質ニ取リタル青筵七百三拾九東ハ明治八年七月十三日ニ竹次郎ノ長四郎ト買取ノ約ヲ定メ明治八年八月三十日ヲ限り代金皆濟ノ管ナルニ其期限ヲ過去リ皆濟セサルニ付右青筵所有ノ權ハ再ヒ辰四郎ニ戻リテ竹次郎ニ於テハ其權ヲ失ヒタリトス既ニ所有ニ非サル品ヲ私ニ重道へ質入シタル上ハ右青筵ハ乃チ贓品ニシテ其不正品ヲ以テ欺テ借受ケタル九百圓モ亦盜贓ナリトス然ル時ハ改定律例第五拾八條凡盜贓ヲ以テ舊債ニ抵償スル者ハ債主情ヲ知ラスト雖モ仍ホ追徴シテ本主ニ給ス若シ已ニ費用スル者ハ追徴スルコト勿レトアルニ依リ鐵五郎ノ手ニ入リタル七百五拾圓餘ヲ追徴スヘキニ東京裁判所ニ於テ右鐵五郎ヨリ追徴スヘキ取調ヲ爲サシテ重道カ欺キ取ラレシ金ハ平林定次カ持去リシト裁判セシハ事實ニ相違セシ不適當ノ裁判ナリトス

判決

右ノ條理ナルヲ以テ東京裁判所ノ申渡シタル裁判ヲ取消シ更ニ大審院ニ於テ裁判スル如左

重道儀原竹次郎ヨリ抵當ニ取置青筵ハ不正ニ付取上ル被欺取金圓ノ内七百五拾圓餘ハ澁井鐵五郎ノ手ニ入ルト雖モ鐵五郎ヲ取調ヘシニ右金ハ既ニ費用シタリト申立ルニ付追徴ス可キナシ

第三拾三號

○判文得遺失物ノ件明治九年五月十一日上告
明治九年八月十六日判決

東京第六大區四小區御
船藏前町十三番地借店
商古銅鉄渡世

○七二

右之者儀平素行跡正シカラス探索中ノ處明治八年十一月八日本所相
生町壹丁目十七番地質渡世伊藤孫右衛門ヨリ兼テ品觸似寄ノ品質入
ニ持參セシ旨警視分署へ訴出タルニ付取調タル處即チ前夜松井町壹
丁目十六番地高橋力藏方へ強盜押入り奪取リタル物品ニ相當セルヲ
以テ音吉ヲ捕縛拘引シ警察官ニ於テ一應取調へタル音吉供狀ノ要旨
左ノ如シ

自分儀兼々賭博ヲ好ミ所持ノ衣類ハ勿論妻子ノ衣類ニ致ル迄悉皆
質入シ一時家業取績キシ處質出シ期限ヲ失シ度々催促ヲ受ケタレ
共請戻ス金圓ナク困窮ノ餘盜心ヲ生シ先年中遠藤但馬守夫卒勤役
中求メ置キタル短刀及ヒ短銃ヲ携へ而休テ手拭ニテ隠シ明治八年
十一月八日午前第一時頃本所松井町壹丁目十七番地土方職高根澤
新太郎方裏口ヨリ押入拔刀シ新太郎母(キミ)ヲ威シ金子可差出様申

聞家内ノ様子ヲ見受ケタル處職人休ノ男兩三人モ打臥シ居タルニ
付財ヲ得ス其儘立去リ同町十六番地春米渡世高橋力藏宅裏口ヨリ
押入り短銃及ヒ拔刀ニテ申威シタル處貯金無之趣申ニ付側ニアリ
タル葛籠内ヨリ衣類六品奪取リ内壹品本所相生町壹丁目十七番地
質渡世伊藤孫右衛門方へ代金壹圓貳拾五錢ニ質入セシエリ捕縛ニ
就キタリ

右ノ如ク音吉ノ犯狀明白ナル旨ヲ以テ證憑ヲ添へ明治八年十一月十
九日警視第六分廳ヨリ東京裁判所へ音吉ヲ送致シタリ
右證憑ノ要領即チ左ノ如シ

音吉所持品

一脇差

一短銃

壹本

壹挺

一短銃ノ玉藥

六發

明治八年十一月八日日本所松井町壹丁目十七番地土方稼高根澤新太郎母幾代ヨリ警視第六分廳へ差出シタル告訴狀ノ要旨

明治八年十一月八日午前第一時頃私儀小用ニ參ラント裏口雨戸ヲ明ケタル處中脊ニテ年齢凡四拾位士族体ノ男黒キ切レニテ面体ヲ包ミ黒キ羽織ヲ着シ紺足袋麻裏ヲハキ立居リ心妙ニ可致ト聲掛ケ立入金子差出スヘク様中聞ケタルニ驚キ當惑セル内二階ニ臥居リタル土方職人共大勢ノ物音センニ付右賊ハ速ニ裏口ノ方へ逃去リタルヲ以テ財物ハ奪ハレサリシ

明治八年十一月九日日本所松井町壹丁目十六番地春米渡世高橋力藏ヨリ警視第六分廳へ差出シタル始末書ノ要旨

明治八年十一月七日午後第九時頃家ノ表裏共締リテ付相臥シ十一

月八日午前第三時頃不圖目ヲ覺シタル處勝手ノ方ニ人音シタルニ付怪敷存シタル内障子ヲ細目ニ明ケ短銃ヲ私へ差向ケ心妙ニスヘク旨申脇差ヲ抜キ金子差出ス可シト申聞ケタルニ付金子ハ無之間何ナリトモ有合ノ品持去ルヘク旨答ヘシニ側ニアリタル葛籠ニ入置キシ衣類等六品奪取裏ノ方へ立出逃去リタリ

明治八年十一月二十五日高根澤新太郎母「キヨ」ヨリ東京裁判所へ差出シタル始末書中盜犯ノ人相書左ノ如シ

- 一年齡四拾年位
- 一中文中肉 其外相分ラヌ
- 一木綿綿入同半纏ヲ着ス 但編柄其外相分ラヌ
- 一脇差 長サ壹尺三寸位

明治八年十一月二十七日高橋力藏ヨリ東京裁判所へ差出シタル始末

四七二

書中盜犯ノ人相書左ノ如シ

- 一 丈低ク瘦形年齡凡四拾年位
- 一 顔細面 其外相分ラス
- 一 黒切レニテ面体ヲ包ム
- 一 黒キ半纏ヲ着ス
- 一 鼠小紋ノ様ナル脚半ヲ付ク
- 一 紺足袋麻裏草履ヲハク
- 一 脇差長サ壹尺貳三寸位
- 一 短銃長サ七八寸位

明治八年十一月二十五日山名音吉妻(ミナ)ヨリ東京裁判所へ差出シタ

ル始末書ノ要旨左ノ如シ

私夫音吉儀明治八年十一月七日午後第八時頃近邊寄セへ參ル趣私

へ申置何レへ歟參リ同夜二時頃ト覺ル頃歸宅セシニ付延刻ノ子細
ヲ承リタル處鳥ノ町へ參リタル趣申聞ケ其外ノ儀一切私へハ隠シ
居リタルニ付更ニ委細ノ次第相分ラス尤家ヲ出シ節ハ衣類木綿藍
微塵綿入唐絲織鉄御納戸綿入半纏ヲ着シタルノミコテ外ニ持參ノ
品ハ心得ス

音吉儀東京裁判所ニ於テ審問ノ末明治九年三月四日摺印シタル口供
ノ旨趣左ノ如シ

一 自分儀明治八年十一月七日俗ニ云フ鳥ノ町へ參詣同夜二時過ト
覺へ歸宅ノ途中本所大口横町西光寺ノ脇ニテ御召縮緬小袖外四品
風呂敷ニ包ミアル儘拾ヒ取リ其筋へ届出ス内太織羽織一枚十一月
九日本所相生町壹丁目質渡世伊藤孫右衛門方へ壹圓貳拾五錢ニ質
入シ右金ハ活計ノ爲メ費用シ其餘ハ所持セル處捕縛セラレ右ハ七

五七二

日夜本所松井町一丁目高橋力藏方ニテ奪取ラレタル品ノ旨承知驚入タリ

一兼テ成規モ有之處短銃壹挺私ニ所持罷在ル段恐入タリ

一右拾ヒ取ル品今般代積金四圓八拾八錢ニナリタリ

右口供ニ依リ明治九年三月十九日東京裁判所ニ於テ左ノ處斷ヲ申渡シタリ

其方儀本所大口横町ニ於テ代金四圓八拾八錢ニ當ル衣類拾ヒ取り官ニ送ラサル科得遺失物條ニ依リ坐賍ヲ以テ論シ懲役十日ノ處私物タルニ付一等ヲ減シ減シ盡シテ科無シト雖モ短銃私ニ所持スル科銃砲取締規則ニ依リ品取揚ケ過料金五拾錢申付ル

但右衣類ノ内伊藤孫右衛門へ質ニ入ル、分ハ取揚ル間質代金同入へ償フヘシ

東京裁判所詰權中檢事山根秀介右ノ處斷ヲ不法ナリトシ明治九年三月二十九日東京上等裁判所詰權大檢事岡内重俊ニ具狀シタル要旨左ノ如シ

音吉ノ犯狀ニ付明治八年十一月十九日警視第六分廳ニリ強盜ノ始末東京裁判所ニ彈告シタル處該所ニ於テ明治九年三月十九日衣類ハ得遺失物條ニ依リ短銃ハ銃砲取締規則ニ依テ處分宣告シタリ抑警官ニ於テ該犯ヲ強盜ナリト認メタルハ贓品ハ勿論短銃並ニ刀等ニ至ル迄悉ク事主ノ供狀ト符合スル所ノ確證アルヲ以テナリ然ルニ判官別ニ其證ヲ取消スヘキ程ノ證憑ヲモ得スノ該犯ノ口供而已ニ依リ前顯ノ通り處斷セルハ裁判不法ト存スルニ付明治九年司法省第三拾號布達ニ基キ右書類ヲ送致シ至當ノ處分ヲ請フ

右ニ付東京上等裁判所詰權大檢事岡内重俊ヨリ明治九年三月三十日

司法卿ニ具申シタル要旨左ノ如シ

東京裁判所詰權中檢事山根秀介ヨリ差出シタル書類檢閲シタルニ
少警視江口高確ヨリ明治八年十一月十九日東京裁判所刑事課へ送
遞ノ文書ト東京裁判所ニ於テ甘結ノ口供ト齟齬ノ甚シキ而已ナラ
ス事主ノ供狀及ヒ其他ノ顯跡等ニ於テ強盜ノ所業明白ナル者ト見
ヘタレハ鞫問訊糺ノ未タ盡サ、ル者ト見込ニ付明治九年第七號布
達ニ基キ具中ス

明治九年五月一日大審院詰大檢事岸良兼養司法卿ノ旨ヲ受ケ右書類
ヲ以テ大審院ニ處分ヲ求メタリ

右ニ付大審院ニ於テ警視廳ヨリ東京裁判所へ送致ノ文書ト東京裁判
所ニ於テ結案ノ口供ト同裁判所ニ於テ審問ヲ爲シタルノ條件トナ東
京裁判所へ問合セタル要旨左ノ如シ

第一條

警視廳口書ニ音吉事兼々賭博ヲ好ミ所持ノ衣類ハ勿論妻子ノ衣類
迄悉皆質入シ一時家業取續キシ處質出シ期限ヲ失シ度々催促ヲ受
ケタレ共請戻ス金圓無之トノ申立アレハ貧窮困迫ノ態概知スヘシ
此ノ如キ際ニ在テハ日用ニ切ナル妻子ノ衣類ヨリハ先ツ無用不益
ノ物品ハ質物ニ入ル、カ賣拂フヘキ事當然也然ルニ音吉古鎖買ヲ
渡世トシテ其無用不益ニ属スル短銃脇差ヲ差置キ日用ニ切ナル妻
子ノ衣類ヲ質入レスルハ不審ナリ

第二條

音吉妻ニナ口書ニ音吉カ宅ヲ出ルハ十一月七日午後八時トアレハ
其時節ニテ推考スレハ大凡夜成ノ半刻ナリ深川御船藏前町ヨリ鷺
ノ宮迄ハ路程近シト云フヘカラス若シ歩行ニテ參詣スレハ先方ニ

到着スル頃ハ宮ハ閉扉シ市ハ人ノ散スル時ニ當ルヘシ都人ニシテ此路程ヲ知り時間ヲ計レハ參詣ヲ起意スヘカラサルノ時ニ似タリ不審ナリ

第三條

警察取調口書ノ節何ノ譯柄アリテ強盜セシト白狀シタルヤ何ノ證アリテ遺失物ヲ拾ヒタリトノ白狀ハ實ヲ供スルモノト審定アリシヤ不審ナリ

第四條

音吉カ短銃脇差等ヲ愛玩セシハ何年間ナリヤ

第五條

音吉カ嚴重ノ吟味ヲ受ケシト云フ一ハ何様ノ嚴重ナル吟味ナリシヤ且嚴重ノ吟味トハ箇様々々ト答ヘシ一ナレハ共事柄ヲ警察官吏

ニ對シ引合ノ掛合ヲ爲シ音吉ノ申立ト比較セシヤ如何

東京裁判所ヨリ回答ノ要旨左ノ如シ

第一條

音吉平素賭博ヲ好ミ隨テ困迫ニ及ヒ妻子ノ衣類迄典却セル位ナレハ先ツ今日無用ノ物品典却スヘキニ其無用不益ニ屬スル短銃脇差等ノ如キハ却テ其儘ニ差置シ段不審ノ旨詰問セシ處舊遠藤但馬守家來輕卒ニテ元々右銃劔等ハ取扱ヒ愛玩ノ品ニ付典賣セスシテ所持セル旨申立タル事

第二條

音吉宅ヲ出ルハ十一月七日午後八時頃ト申立タリ左スレハ其時節ハ大体成ノ刻過キニ付家ヲ出テ參詣ノ刻限ニハ餘程後レ居ルハ如何ノ次第ニテ早刻ヨリ不出ヤト詰問セシ處同日ハ外ニ用事アリタ

ルニ付右刻限ヨリ鳥ノ町へ參詣ノ上都合ニ依テハ賭博ヲモスヘキ
合ニテ參詣シタル處最早參詣人モ歸散後ニテ僅ノ人アリタル位ノ
トニ付歸リ掛ケタル處共途中拾ヒ取ル云々申立參詣ノ實否外ニ證
據モ無ク彼ヨリ申立タル迄ノトニテ今日ニテハ不審モ有之事

第三條

警察官取糺シ口書ノ節強盜ヲ犯シタルト供出シタルハ嚴重ノ吟味
ニ堪兼一時ノ枉服コテ後日裁判官ノ審問ニ實ヲ陳セント欲スルノ
申立ニテ是迄警察官ニモ其弊ナキトモ難申手因テ枉服ノ者ニモ可
有之ヤト見込ミタリ然レトモ遺失物ヲ得ル節傍認シタル者ノ證據
ハ無之事

第四條

短銃脇差ヲ愛玩スルノトハ何年ニ始リ尙今日迄モ愛玩スルヤノト

ハ糺サ、リシ事

第五條

嚴重ノ吟味ヲ受ケタルト申立タルハ鞭撻ヲ受ケタル旨申立タリ鞭撻
ヲ受ケタル旨申立タレトモ更ニ警察官吏へ引合ノ掛合等ハセサリ
シ右ハ一々可及照會ハ當然ノトナレトモ囚人ハ受ケタルト云ヒ官吏
ハ不加ト云フハ必然ト考へ照會セサリシ事

右ニ付大審院ニ於テ條理ヲ推究シ辨明スルト左ノ如シ

第一條

音吉平素賭博ヲ好ミ隨テ困迫ニ及ヒ妻子ノ衣類迄典却セル位ニテ
銃劔等ハ愛玩セシハ如何ナル理由ナルヤ詳密ニ審問ヲ盡スヘキト
トス

第二條

音吉鳥ノ町參詣ノ歸途遺失物ヲ得タル云々ハ全ク彼ヨリ申立タル迄ノコトニテ外ニ證據モナク今日ニ在テハ裁判官ニ於テモ不審アルトノコトナレハ是亦詳密ニ審問ヲ盡スヘキコトス

第三條

警察官取糺シ口書ノ節強盜ヲ犯シタルト供出シタルハ嚴重ノ吟味ニ堪兼一時ノ枉服云々音吉ノ申立ノミニ依テ之ヲ枉服ト認メタルハ裁判官ノ想像ノミニテ證據ナシトス又遺失物ヲ得タルト云フモ音吉ノ申立ノミニ依テ遺失物ヲ得タル者ト認メタルモ裁判官ノ想像ノミニシテ證據ナシトス

第四條

一家内ノ衣類ヲ典スルニ至リシ赤貧人ニシテ愛玩スル短銃脇差ナレハ短銃脇差ヲ愛玩スルコトノ年數及ヒ其裝飾ト鍛鍊トノ精麗并ニ

作者ノ巧拙トニ依リ衣類ヨリモ愛玩スヘキヤ否ヲ取糺シ且又右ノ銃劍ヲ得シ先方ヲモ取糺スヘキニ其義ナキハ審問ノ未タ盡サ、ルモノトス

第五條

音吉警視廳ニ於テ鞭撻ヲ受タル上ハ更ニ警察官吏ヘ引合ノ掛合ヲ爲スヘキハ固ヨリ當然ノコトナリトス然ルニ其掛合ヲ爲サ、リシハ審問ノ未タ盡サ、ルモノトス

判決

右ノ如ク盡スヘキ審問ヲ盡サスシテ申渡シタル裁判ナルヲ以テ明治九年三月十九日東京裁判所ニ於テ音吉ニ申渡シタル裁判ハ聽斷ノ定規ニ乖ク者ナリトス依テ右裁判ヲ破毀シ更ニ神奈川裁判所ニ於テ審判スヘキ旨同裁判所ニ達シタルニ依リ檢事ニ於テハ音吉一件ハ更ニ

六八二 神奈川裁判所ニ求判スヘシ
第三拾四號

○判文[拘留中逃走ノ件]明治九年四月廿九日上告
明治九年八月廿八日判決
愛媛縣伊豫國伊豫郡内
ノ子村平民直次長女

山坂キヨノ

右キヨノ儀捕縛拘留中逃亡シタルノ科ニ依リ愛媛縣裁判所ニ於テ審問ノ末口供甘結シタルヲ以テ明治九年四月二十六日處斷申渡シタリ其要旨左ノ如シ

口供

自分儀本年三月十九日内ノ子村商中田留太郎方ニテ白米借受翌二十日右代價拾錢六厘持參シ再ヒ米貳升借受度旨頼ミタル處承知イ

タシ吳レサルヨリ不計盜心ヲ生シ右拂ヒ置キタル金員ノ内拾錢盜ミ取逃亡イタル處翌二十一日途中ニ於テ巡行ノ巡查ニ取押ヘラレ屯所拘留中透ヲ窺ヒ逃走シ松山へ往キ淺生田宗迎寺邊漂泊レ歸村スル途中三月二十八日内ノ子村ニテ捕縛セラレタリ

處斷

其方儀中田留太郎方ニテ金拾錢ヲ盜取科賊盜律竊盜條ニ依リ懲役五十日ノ處拘留中逃走スルヲ以テ捕亡律責付内ニ逃走スル者ニ擬シ本罪ニ一等ヲ加ヘ懲役六十日申付ル

右ノ處斷ヲ愛媛縣五等警部横山政輔ニ於テ不法トナシ明治九年四月二十九日大審院ニ上告ス其要旨左ノ如シ

七八二 [キヨノ]儀ハ屯所拘留中逃走スル者ニ付捕亡律責付内逃走ニ比擬スヘキモノニ無之脱監越獄逃走ニ準スヘキモノトス故ニ該審判ハ不

當ト見込タリ

右ニ付大審院ニ於テ法律ニ照シ辨明スルコト左ノ如シ

「キヨノ儀」巡查ニ於テ其盜タルヲ認メ収捕シテ拘留スルヲ逃走シタルモノニシテ未ダ監獄ニ囚禁セストイヘ既ニ屯所ニ拘置シ巡查ノ監護スルモノナレハ凡人ニ責付中逃走スルモノト比較スヘカラス尙ホ脱監越獄シテ逃走スル者ニ同シトス然ルヲ愛媛縣裁判所ニ於テ捕亡律責付内ニ逃走スル者ニ擬シ處斷シタルハ適當ノ裁判ニアラス横山政輔ニ於テ之ヲ不當ノ裁判ト爲シ上告シタルハ其當ヲ得タリトス

判決

右ノ理合ナルヲ以テ明治九年四月廿六日愛媛縣裁判所ニ於テ山坂キヨノニ申渡シタル裁判ヲ平翻スルコト左ノ如シ

賊盜律竊盜條贓金壹圓以下懲役五十日ノ處拘留中逃走スルヲ以テ捕亡律獄囚脱監逃走條凡罪ヲ犯シ囚禁セラレ脱監シテ逃走スル者ニ擬シ本罪ニ二等ヲ加ヘ

懲役七十日

第三拾五號

○判文〔竊盜ノ件〕明治九年一月五日上告
明治九年八月廿八日判決

大坂府下攝津國東成郡

北平野町六丁目岡田菊

方同居平民

ス エ

右スエ儀竊盜ノ科ニ依リ明治八年十月十七日捕縛ニ就キ明治八年十月廿七日大坂裁判所ニ於テ取調ノ上スエ口供ノ旨趣左ノ如シ

一自分儼二十年以前早竹虎吉ノ妻アリシニ虎吉存生中離別テ受ル
 ノ後手許赤貧ニ付右ノ縁故ヲ以テ明治二年十月某日虎吉遺跡早竹
 龜吉方ニ赴キ龜吉祖母久ト申ス者ニ自分貧困ノ次第物語リ往昔ノ
 縁故ヲ以何分ノ世話致シ吳レベキ旨只管依頼セシ處許諾致シ給金
 等ハ少シモ受取ラズ雇人ノ名義ヲ以テ寓居セリ然ルニ戸主龜吉ハ
 幼弱龜吉ノ姉キシハ魯鈍ヒサハ老衰ニ付ヒサノ指令ヲ以テ家事向
 世話致シ居ル内明治六年七月頃ヒサハ盲目トナリ爾後一層家事向
 取締リ居ル處不圖惡心ヲ萌シ明治六年八月十六日密ニ戸主龜吉ノ
 家屋敷ヲ書入レシ證書ヲ作り龜吉ノ實印ヲ竊捺シ惣町四丁目川島
 新兵衛方ニテ金百圓借受ケ右金圓ハ自分借財ノ方ニ悉皆消費シ明
 治八年五月ニ至リ新兵衛ニ返金督促ヲ受ケ辨償ノ術ナキヨリ尙
 ホ又前證書ニ記載セシ地券ヲ密ニ持出シ債主新兵衛ニ預ケ置シ事

一明治七年十二月頃戸主龜吉ノ叔父東京神田明神町ニ寓スル福松
 事二代目早竹虎吉ヨリ龜吉ニ向ケ金貳百圓ヲ郵送セシニ付右金額
 ノ内ヲ以テ品代等ニ費用シ殘額九拾七圓ハ封金ノマ、欄キアルヲ
 知り居リ尙又不良心ヲ生シ右金圓ヲ密ニ取出シ事情説明サス内貳
 拾五圓ハ天王寺村平井龜吉ニ貳拾圓ハ天王寺村廣畑仁三郎ニ貳拾
 圓ハ吉右衛門肝煎地吹田龜吉ニ拾圓ハ高津町三番地井戸田三五郎
 ニ拾貳圓五拾錢ハ上木町貳丁目森淺次郎ニ貳圓ハ住所知レサル咲
 次郎ニ貸渡シ殘七圓五拾錢ヲ以テ大浦團三帖敷浦團一帖買取リ前
 顯平井龜吉妻梶ニ貸渡シ前書夫々ニ貸渡セシ金子ノ内淺次郎分ハ
 戸主早竹龜吉宛ノ證書ヲ取リ北堀江上通三丁目照井重兵衛ニ預ケ
 置キ自餘ハ無證書ノ處右兩條露顯ニ及ヒ掛ケシニ付一大事ト思ヒ
 明治八年八月十三日該家ヲ出テ所々漂泊中取押ヘラレシ事

右入質セシ家屋代積金百三拾八圓拾貳錢五厘惣計貳百七拾五圓拾貳錢五厘ニ成リシ事

右ノ口供ニ依リ明治八年十二月二十七日大坂裁判所ニ於テ左ノ處斷ヲ申渡シタリ

其方儀早竹龜吉方ニ住居召仕ハレ中密ニ龜吉ノ家屋ヲ書入レシ證書ヲ作り剩ヤヘ戸主ノ實印ヲ捺シ川島新兵衛ヨリ金百圓借受ケ私用ニ消費セシ後新兵衛ヨリ返金ヲ促サル、迎右書入レタル家屋ノ地券ヲ竊取シ債主ヘ渡シ加之戸主ノ金九拾七圓ヲ盜取ス右贓金合セテ貳百七拾五圓餘ノ科竊盜ヲ以テ論シ懲役十年申付ル

スエハ右ノ處斷ヲ不法ナリトシ明治九年一月五日大審院ニ上告ス其要旨左ノ如シ

口供ニ川島新兵衛ヨリ金百圓借受ケ自分借財ノ方ヘ悉皆消費シ云

トアリ右ハ百圓ノ内三拾五圓ハ平井龜吉方ヘ貸渡シ其ノ證書ハ自分懇意ナル北堀江照井重兵衛ヘ預ケ置ケリ殘金六拾五圓ハ養育入用ニ消費セシニ付固ヨリ證書ナシ且又川島新兵衛ヨリ返金督促ヲ受ケ右地券ヲ持出シ預ケシ義ハ戸主龜吉ハ幼年祖母ヒサハ老態ニテ自分萬事引受ケ居リシ故誰ニモ相談セヌ自分ニ取計ヒタリ又口供ニ戸主龜吉叔父東京住早竹虎吉ヨリ龜吉ヘ郵送セル金貳百圓ノ殘額九拾七圓ノ内八拾九圓五拾錢ハ天王寺村平井龜吉外六人ヘ貸渡シ殘金七圓五拾錢ヲ以テ大浦團三帖敷蒲團壹帖買受ケ云々トアレモ右ハ九拾七圓ノ内拾貳圓五拾錢ハ森淺次郎ヘ貸付ケ此證書モ前顯照井重兵衛ヘ預ケ置ケリ尤吹田龜吉ヘ貳拾圓井戸田三五郎ヘ拾圓廣畑仁三郎ヘ貳拾圓平井龜吉ヘ貳拾五圓貸付シ分ハ何レモ無證文ナレモ右貸先取調ヘアヨハ金高ハ一々符合スヘシ又惣町堺

屋ト申ス質屋ニテ蒲團四帖代金七圓ニテ買入平井龜吉方へ預ケ置キシ所此度裁判所ヨリ取揚ケ戸主早竹龜吉へ渡サレタリ外ニ咲次郎ト申ス者へ金貳圓五拾錢貸渡セシ處該仁ハ當今行方知レヌ右ノ次第ニテ全ク私用ニ消費セシ金ハ壹錢モ之ナシ然ルニ贓金貳百七拾五圓餘ノ科ニ依リ懲役十年ノ刑ニ處セラレタリ右ハ戸主龜吉ヨリ竊盜ト申立テシ由ナレモ自分ニ於テハ竊盜セシ覺へ絶テナク且金高モ大イニ相違セリ故ニ先般獄庭ニ於テ口供讀ミ聞カセノ節不得意ノ廉アルニ付今一度讀ミ聞カセノ義願ヒ出セシ處採用ナク老婆汝ヲ目ガ見ヘスバ唯ダ手ヲ出セトアリテ強テ摺印サセラレ其時モ又申出ントセシヲ聞入ナク下ガレトノ叱リヲ受ケ止ムヲ得ヌ退イテ終ニ監倉へ入レラレタリ依テ更ニ本院ノ審判ヲ請フト

大審院ニ於テ之ヲ法律ニ照シ辨明ヲ爲ス一左ノ如シ

第一條

上告狀ニ川島新兵衛ヨリ借用シタル金百圓ノ内三拾五圓ハ平井龜吉へ貸シ渡シ證書ヲ取置キタル旨申立シ處右ハ全ク偽リニシテ決シテ他へ貸シ渡シタルニ之ナキ段明治九年五月廿七日スエヨリ改メテ申出タリ又殘金六拾五圓ハ早竹龜吉方ノ養育料ニ消費シタル旨申立ルト雖モ右遺拂ノ廉々證據ナキ上ハ此申分ハ立チ難シ

第二條

右金子借用方自儘ニ取計ヒタル儀ハ戸主早竹龜吉ハ幼弱祖母ヒサハ老態ニテスエ家事向萬端引受ケ居リシ故都テ獨斷ヲ以テ處分シタル旨申立ルト雖モ早竹龜吉ノ届書ニ依レハスエ貧困ノ餘リ身元依頼ニ付給金ヲ渡サス日雇ノ名義ヲ以寓居ノ際祖母ヒサノ指令ニ依リ家事向ハ世話致サセタレモ戸主龜吉並祖母ヒサヨリ家屋財物

等チスエヘ勝手ニ進退スヘント申聞ケタルト絶ヘテ之ナキ上ハ此
申分モ立チ難シ

第三條

戸主早竹龜吉並祖母ヒサ兩人ヨリノ届書ニ東京住早竹虎吉ヨリ戸
主龜吉ヘ郵送セル貳百圓ノ殘額九十七圓チスエニ封シサセ封印押
サスシテ姉キシカ受取り直チニ帳簿筒ニ入レ錠ヲ下シ錠ハヒサ所
持シ居リ明治八年九月十二日ニ至リ右金入用ニ付ヒサキシ兩人立
合ヒ開封セシ處金札ハナクシテ塵紙五枚三ツ折リニシテ入レ換ヘ
アリタルニ付始メテ驚愕シ至クスエノ所爲ナルトチ知リタル旨申
立テスエニ於テモ右金額九十七圓ハ封緘シ他用ニ遣ハズ預ケ置ク
旨ヒサヨリ申付ケタルヲ擅マニ右九十七圓ヲ以テ平井龜吉外五名
ヘ貸渡シ及ヒ私用ニ遣拂ヒシニ明治八年七月ノ頃ヒサニ認メラレ

不審ヲ受ケタルコ付貸先へ督促ニ及フト雖モ償却ノ立ツベキ目的
モナク心痛ノ際前條地券證ヲ以テ川島新兵衛方人渡シ置キタル儀
モ露顯ニ及ヒタルニ付ヒサヨリ至急右地券證ヲ取戻ス手段スヘキ
旨申付ケラレタレト兩條共運ヒ難ク面目ヲ失ヒタルニ付止ムヲ得
ス明治八年八月中該家ヲ立チ出所々漂泊中龜吉ヨリ出訴セラレ遂
ニ捕縛ニ就キタル段明治九年五月二十七日スエヨリ改メテ申出タ
ル上ハ右金九拾七圓ハスエノ竊取シタルニ之ナシトノ申分ハ立チ
難シ

第四條

前條ノ次第ヲ以テ推究スレハスエニ於テハ戸主早竹龜吉方寓居中
ハ龜吉所有ノ家屋財物悉皆スエノ勝手ニ進退スヘントヒサヨリ許
可委任セシ證據ナキ上ハ前兩項ノ金百九拾七圓ハスエノ賍金ナル

ニ相違ナシトス右竊取スル所ノ贓金百二拾圓以上ナルヲ以テ改定
律例七贓例圖竊盜百貳拾圓以上懲役十年ト云フノ律ニ擬シタルハ
不當ノ裁判ニ非ストス

第五條

大坂裁判所ノ裁判申渡書中贓金高差誤ノ廉アレモ右ハ刑名上ニ相
違ナキヲ以テ上告ノ筋ニ關係セサル者トス

判決

右ノ條理ヲ以テ大坂裁判所ノ裁判ヲ破毀スヘキ理由ナシトス因テ上
告狀下戻ス者也

第三拾六號

○判文〔送籍ヲ遲延セシ件〕明治九年四月七日上告
明治九年八月廿八日判決
愛媛縣伊豫國喜多郡喜

多山村百八番屋敷平民

大塚 五郎 一

右五郎一儀明治九年三月三十日愛媛縣ニ於テ口供シタル其旨趣如左
自分儀明治七年六月次子卯平ヲ同郡常盤町四丁目郡田小太郎方へ
養子ニ可遣トノ縁約ヲナシ其際卯平ノ送籍狀ヲ戶長役場ニ請受シ
タル處後チ事故アリテ縁談解約セシニ付送籍狀ハ直ニ戶長役場ニ
還附シ復籍可申立ヲ忘失シ數月ヲ經テ卯平ノ落籍ヲ覺擧シ待罪書
ヲ以村役場ニ自首シタリ
右ノ口供ニ依リ明治九年四月一日愛媛縣ニ於テ左ノ裁判申渡シヲ爲
シタリ

其方儀明治七年六月他家へ差遣タル次男卯平ノ送籍券ヲ願ヒ受ケ
ナカラ自儘ニ手元ニ留置送籍セサル科雜犯律違式ノ輕ニ問ヒ懲役

〇〇三

一十日贖ヲ聽シ贖罪金七拾五錢申付ル

愛媛縣四等警部高橋成政右ノ處斷ヲ不法ナリトシテ明治九年四月七日大審院ニ上告シタリ其要旨如左

五郎一ノ處斷ニ於ル事未タ發露セサル際自ラ覺舉シ待罪書ヲ出シ從テ入籍ヲ申請スル者ナレハ自首律ニ照シ全免ヲ與フ可キモノト思考ス依テ該審判ハ不當ト見込ニ付破毀ノ上更ニ至當ノ判決アラソクヲ請フ

右ニ付大審院ニ於テ法律ニ照準シ辨明スルヲ如左

送籍ヲ爲スノ順序タル縁組轉籍等總テ本人若クハ戸主ノ情願ニ任セ甲區ノ役場ヨリ其送籍狀ヲ願人ニ渡シ願人之ヲ乙區ノ役場ニ収メレ上初メテ送籍ノ整頓シタルモノナリ然レニ大塚卯平ノ送籍ニ於ルモ縁約中途ニシテ破談シタルヲ以テ未タ乙區ニ差出サ、レハ

卯平ノ身分ハ無論甲區ノ在籍ニシテ之ヲ落籍ト看做ス可キモノニアラス然レモ五郎一ニ於テハ送籍狀ヲ戸長役場ニ請受シタル後淹留數月ヲ彌リタル怠リアリト雖モ素ヨリ送籍日數ニ定規ナキ上ハ式ニ違フ者ヲ以テ論ス可キニ非ス依テ該件ノ如キハ送籍ノ効ナキ者ナレハ五郎一ニ於テ罪ヲ問フヘキノ理由ナシトス

判決

右ノ條理ナルヲ以テ愛媛縣ニ於テ明治九年四月一日大塚五郎一ニ申渡シタル違式ノ裁判ヲ取消シ大審院ニ於テ之ヲ裁判スルヲ如左

無罪

第三拾七號

〇判文官吏ヲ讒毀セシノ件 明治九年三月五日上告
明治九年八月廿八日判決

東京第壹大區八小區檢

一〇三

屋町七番地采風新聞假

編輯長熊本縣士族

矢野駿男

明治九年二月廿七日東京裁判所ニ於テ矢野駿男カ自カラ調印シタル
口供ノ全文左ノ如シ

一自分儀采風新聞第四拾六號寄書ノ部ニ東京府士族宮本千萬樹寄
書中雖在纏紳中非其罪也新聞記者等ノ文字有之ハ目下各種ノ新聞
記者ノ讒謗律新聞條例ニ抵觸シ數年ノ禁獄多分ノ罰金等ニ處セラ
ル、ヲ目撃シ右憫然ノ情ヲ以テ普ク歐米各國ノ記者ヲ相包子右處
刑ヲ蒙リシ記者ノ如キ素ヨリ其中ニ相含ニ筆記セシ儀ト則チ同意
ノ心得ニテ掲載致シ候事

一同新聞第五拾五號ノ雜報中ニ先日弊社ノ假編輯長云々纏紳ノ一

件ハ是非投書家ノ名前ヲ取調ヘテ差出セトノ御談シ云々早速取調
ヘノ上御届チスルト忽チ其投書家愛知縣士族宮本無妻氏サノ御
呼出シニナリ檢事ノ本山サンガ出テ上ノ御威光ヲ見ロト言ハヌ計
リノ勢ヒテ御糺問ナサル、云々イヤハヤ本山サンハ直ニ御引込ニ
ナリマダツレニ替リテ御出マシタハ同檢事ノ山根サンガコン度ハ
己レタト言ハヌ計リノ顔ツキテ高設ラシク御糺問ナトナサレト
同クマダグルヤトヤツ、ケラレタガ云々事ノ有無ニ拘ハラスト
イフ亂暴律ヲ押ヘラレルトイフ譬ヘモアルカラ議論ニ勝テモ負テ
モ賢明ノ官員サンカ熱クナツテ壓制ヲ流シテ御調ヘナサルカラ等
云々ノ語ハ專ラ右宮本下調ノ模様等一己ノ想像ヲ以テ全ク該時ノ
兩檢官ト併テ讒謗律ヲ指シタル心得ニテ下調中ノ儀チモ不顧記載
致シ候事

一前文同檢事山根サント記セシハ月形サント記載スヘキヲ誤書致シ候事

一宮本千萬樹ハ東京府士族ノ處不案内ヨリ愛知縣士族ト記載致シ候事
明治九年二月二十七日

右ノ通相違不申上候以上
右ノ口供ニ依リ明治九年二月二十九日東京裁判所ニ於テ左ノ言渡ヲ爲シタリ

東京京橋槍屋町七番地
采風新聞社假編輯長熊
本縣士族

矢野 駿 男

其方儀該社新聞第四拾六號寄書ノ部へ東京府士族宮本千萬樹ヨリ

雖在縲絏之中非其罪也新聞記者等ノ文字ヲ筆記セシ寄書ヲ掲載シ同第五拾五號雜報中へ右宮本千萬樹下調ノ摸倣ヲ記載シ尙同文中譏謗律ヲ亂暴律ト指稱シ小檢事月形潔ヲ山根檢事ト誤書致シ殊ニ同檢事並ニ九等出仕本山元卓ヲ譏毀スル科二罪俱發ヲ以テ論シ譏謗律第四條官吏ノ職務ニ關シ譏毀スル者ニ擬シ禁獄十ヶ月罰金百圓申付ル

明治九年三月五日矢野駿男ヨリ大審院ニ上告スルノ要領左ノ如シ

第一條

一宮本千萬樹寄書雖在縲絏之中非其罪也新聞記者ハ現今縲絏中ニ在ル所ノ新聞記者ヲ直指セシ者ニ非ス則周ノ歐土各國ノ形勢ヲ想像セシ者ニ佛國路易拾四世ノ時限及近世ニノハ那拿倫第三世李國維廉第一世ノ初年皆新聞記者ヲ禁逐シ或ハ其罪ニ非スノ在縲絏

中者比々有之而ルヲ想像ノ起ル所現今新聞記者之陸續罪ヲ得テ以テ直ニ日本現今ノ新聞記者ヲ含蓄スル者トシテ條例ニ抵觸スルトセハ敢テ以テ承服難致者アリ

第二條

譬ヘハ當時ノ操觚者歐米諸州之政理ヲ討議シ法令ヲ論辨シ以テ各新聞紙上ニ掲載スル者豈徒ニ之ヲ爲シヤ必ス其意ノ存スル處悉ク現今ノ政理法令ニ寓シテ想像ヲ起發セサルナシ然ルニ偶々類似スル者アルヲ以テ英政ヲ論スル者ヲ把リテ直ニ現今ノ政體ヲ論スルト見倣シ佛法ヲ駁スルヲ以テ現法ヲ駁スルト見倣シ皆條例法律ヲ執リテ以テ之ヲ待タハ原文ヲ翻譯シテ以テ掲載スル者ト雖モ罪ヲ免ル、能ハサルヘシ

第三條

今此雖在縲紲之中非其罪也新聞記者ノ語ト雖モ亦何ソ彼ノ政理法令ヲ論駁シテ意ヲ現今ニ寓スル者ト何ソ異ラシテ而シテ彼ニシテハ明治政府及賢明政府ノ字面ヲ用ヒス全篇ヲ終ルニ當リテハ政府ヲ誹議ストセズ獨リ該寄書ニ於テ何ソ罪セン

第四條

且ツ新聞記者ナルモノ獨リ皇國ノ專有スル所ニシテ各國ノナキ所ナレハ則可ラシ共意中現今新聞記者ヲ含蓄スルヲ以テ歐土各國ヲ顧ミテ直ニ皇國ノ現今ヲ評スル者トシテ處刑有之ニ於テハ見倣ノ裁判ト愚考シ敢テ再審ヲ請ハサルヲ得サルナリ

第五條

縱令ヒ直ニ現今ヲ評スル者トスルモ亦其ノ所行作爲ノ上ニ於テ其罪ニ非ストスル者ニ非ス新聞記者ノ志其元讜議以テ世ヲ裨益スル

ニ在リ故ニ縲綽中ニ在リト雖モ其志ヲ論スレハ則其罪ニ非ラサルナリ

第六條

若シ該刑二罪俱發ヲ以テ論シ宮本千萬樹ノ寄書ハ科スル所ニ非ス
特リ讒謗律第四條官吏ノ職務ニ關シ讒毀スル者ニ擬スルトセハ禁
獄十ヶ月罰金百圓未タ嘗テ罰ニ於テ不當トセサルヲ得ス
右ニ付大審院ニ於テ法例ニ依リ判決スルヲ左ノ如シ

矢野駿男カ上告書中ヲ推究スルニ宮本千萬樹寄書雖在縲綽之中非
共罪也新聞記者ハ現今罪ヲ得ルノ新聞記者ヲ直指スル者ニ非スト
云ヒ第一條ニ佛國路易第拾四世及ヒ那拿倫第三世李國維廉第一世
等ノ時限新聞記者ヲ禁逐シタル云々等ノ事跡ヲ引證シ並ニ第二條
ヨリ第五條ニ至ル數條ニ於テ皇國ノ現今ヲ評セシトニ非スト縲々

陳述ニ及ト雖モ既ニ明治九年二月廿七日駿男ガ東京裁判所ニ於テ
自ラ調印シタル口供ニ於テ目下各種ノ新聞記者ノ讒謗律新聞條例
ニ抵觸シ數年ノ禁獄多分ノ罰金等ニ處セラル、ヲ目撃シ憫然ノ情
ヲ以テ普子ク歐米各國ノ記者ヲ相包子右處刑ヲ蒙リシ記者ノ如キ
素ヨリ其中ニ相含ミタリト記シアル上ハ當時ノ記者ヲ直指ヒサレ
モ含蓄セシ文ニ相違ナシト自己ニ於テ既ニ明言スル上ハ皇國ノ現
今ヲ評セシニ非ストノ申分ハ相立タストス第六條ニ至リ若シ該刑
二罪俱發ヲ以テ論シ宮本千萬樹ノ寄書ハ科スル處ニ非ス特リ讒謗
律第四條官吏ノ職務ニ關シ讒毀スル者ニ擬スルトセハ禁獄十ヶ月
罰金百圓未タ嘗テ罰ニ於テ不當トセサルヲ得スト上告スレモ右東
京裁判所ニ於テ二月二十七日駿男カ調印シタル口供ニ依ルニ讒謗
律ヲ亂暴律ト記シタル事月形檢事糾問ノ景況ヲ記シ讒毀セシ事本

山九等出仕糾問ノ景況ヲ記シ讒毀セシ等ハ乃チ二罪以上俱發スル者ニシテ讒謗ノ罪ヲ犯セシ者トス然ルニ禁獄十ヶ月罰金百圓ノ刑ヲ受ルチ不當ナリト申立ルト雖モ既ニ讒謗ノ罪ヲ犯シ而シテ讒謗律第四條ニ適當スル上ハ其處分上ニ於テ禁獄ノ月數ト罰金ノ多寡トハ其裁判官ノ權内ニ在ルコトニシテ他ヨリ論辨可否スルチ得ス故ニ讒謗律第四條官吏ノ職務ニ關シ讒毀スル者ニ擬シ禁獄十ヶ月罰金百圓ノ處斷ニ及ヒタルハ大審院ニ於テ之ヲ破毀スヘキノ理由ナシトス

判決

右之條理ナルチ以テ東京裁判所ノ處斷ハ讒謗律ニ適當ナリトス依テ上告狀差戻ス者也

第三拾八號

〇判文(裁判不執行ノ件)明治九年二月十八日上告
明治九年八月廿八日判決

奈良縣下大和國添上郡

奈良後藤町平民

中山潤道

伊勢國多氣郡東黒部村幸治三右衛門ヨリ同村世古傳四郎ニ對シ貸金七拾圓償却延滞ノ儀ニ付舊度會縣廳へ出訴シタルニ依リ傳四郎總理代人中山潤道舊度會縣ニ於テ調印シタル口供ノ要領如左

伊勢國多氣郡東黒部村幸治三右衛門等ヨリ同村世古傳四郎へ對シ貸置キタル年貢手尻金七拾圓延滞ノ義度會縣へ出訴シタルニ付自分儀傳四郎ヨリ總理代人ノ委任ヲ受ケ追々答辨ノ末明治八年六月二十九日度會縣ニ於テ右金圓被告傳四郎ヨリ原告人へ償却ス可キ旨裁判申渡サレタルニ不服ノ件アルヲ以テ縣廳へハ不届出明治八

年七月十二日大坂上等裁判所へ控訴シタルニ控訴手續ニ照準セサルヲ以テ受理セサル旨被申聞ニ付明治八年九月十三日訴狀ヲ願下ケ明治八年九月十四日大坂上等裁判所檢事局へ出訴中明治九年一月七日度會縣ヨリ傳四郎呼出サレタル旨申越シタルニ付自分儀代人トシテ出應シタリ縣廳ニ於テ右一件既ニ控訴ノ期限モ過去シ控訴狀モ願下ケタル上ハ初審裁判ノ如ク執行スヘク且ツ縣廳へ届ケナク控訴シタル始末書出スヘク旨申聞ルト雖モ一体右裁判ニ於テハ不法ノ事アルニ因リ大坂上等裁判所檢事局ニ出訴シタレハ假令控訴ノ期ヲ過ルモ初審裁判執行爲シ難キ旨答辨シタルニ其始末書可差出旨申聞ケラル、モ畢竟主任官ノ私曲ヨリ出テタルト想像シテ始末書ハ出サス主任官ヲ相手取り更ニ判事ノ審判ヲ請求シタルニ付刑事課へ廻サレ厚ク理解アリタルニ依リ熟考スルニ右ハ追

マ布告アリタル義ニテ想像ヲ以テ漫ニ主任官ヲ相手取り不都合ノ書面等差出シタル段今更發覺明悟致シタリ
右ノ口供ニ依リ明治九年二月九日舊度會縣ニ於テ左ノ裁判申渡ヲ爲シタリ

其方儀世古傳四郎ノ総理代人トナリ答辨ノ末初審ノ裁判申渡ス所裁判不服ニテ一旦及控訴モ其訴狀ハ自ラ却下ヲ請ヒ既ニ控訴ノ期限ヲ經過スルモ仍初審裁判ノ執行ヲ拒ム科雜犯律違令重ニ問ヒ懲役四十日ニ換へ答四十申付候事

但無届ニテ控訴スルハ違令輕ニ問ヒ懲役三十日自己ノ臆斷ヲ以テ當該官ノ私曲ナリト訴フルハ不應爲輕ニ問ヒ同三十日ノ罪ハ各輕ニヨリ除棄ス

潤道儀右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治九年二月十八日大審院ニ上告シ

四一三

タル要旨如左

第一條 明治九年一月七日傳四郎呼出ニ付自分總理代人トシテ出
廳シタリシニ關係ナキ其方出廳シタルハ如何ト詰問ニ付總理代人
タル上ハ何方迄モ出ツヘキ旨答ヘタリ

第二條 初審裁判申渡シヨリ九十日ヲ過ル時ハ裁判執行ス可キ旨
被申聞ト雖モ九十日ノ間ニ控訴スレハ控訴ノ權ヲ失ハサルモノナ
ル可ク且ツ控訴時間中ハ妄ニ本人ヲ呼戻スコトヲ得サルモノト思料
セリ

第三條 初審裁判所へ届モナク何ノ手續ニヨリテ控訴シタルノ尋
問ニ付右ハ大坂上等裁判所ニ於テモ尋問アリタルコトニテ其節自分
儀控訴ノ手續未ダ了解セズ偏ニ初審裁判ニテ實際ノ處分アリタキ
旨申立ルモ採用ナク唯々勝手ニスヘキトノ申聞ニ依リ不得已控訴

セシ旨申立テシニ上等裁判所ヨリ人民一般ニ控訴スル時ハ其旨ヲ
初審裁判所ニ届出ルヲ定規トス然シ直訴マテ爲セシ事ニ付取上遣
ス可シト申サレ且上等裁判所ノ處斷不服ナル時ハ七日内ニ其旨可
届出旨等段々申論アリシ儀吉田氏ニ具述シタルニ右ハ大坂上等裁
判所ノ懇切ナリト申捨ラレタル末無届控訴ノ始末書可差出旨申聞
ケラレタリ

第四條 該官前日ノ裁判了解セサルニ付明治九年一月八日判事臨
席實際處分アランコト願ヒタルニ其儘斷獄課へ廻サレ該掛リ後藤
氏ノ申聞ニハ該官ヲ相手取り判事ノ審判ヲ願ヒ又無届ニテ控訴シ
タル旨ヲ以テ入獄セシムルトノ趣ナレモ該官不法ノ事アレハ之ヲ
相手取り判事ノ審判ヲ願フハ法ノ許ス處ト思考セリ

第五條 明治九年一月九日自分被呼出後藤氏ノ申聞ニ控訴ノ期限

五一三

テ過去リタルニ初審裁判ノ執行ヲ拒ミ直ニ大坂上等裁判所檢事局
 へ出訴シタル等其罪ニ服シタルヤノ旨ニ付右ハ大坂上等裁判所民
 事課ノ申諭ニ因リ檢事局へ出訴シタルモノニテ且ツ檢事局へ出訴
 シタルハ明治八年九月十四日ノフニテ期限ヲ過キタルトハ申シ難
 シ又該官ヲ相手取りタルハ其罪ニ服シタルヤノ旨申聞ケラル、モ
 右ハ法ノ許ス所ニシテ度會縣ノミ之ヲ許サ、ルハ解シ難シ

第六條 他府縣ニ於テハ訴訟人トモ該官ノ審問ニ服セサレハ判事
 ノ審判ヲ受ケ又判事ノ審判ニ服セス自論申募ル時ハ假令留置カ
 ルトモ總テ監倉入被申付旨傳承セリ然ルニ自分ニ於テハ初ヨリ三
 十三日間入獄被申付タル上又違令ニ處セラレタルハ解シ難シ

第七條 該官吉田氏多記氏ニ於テ大坂上等裁判所へ一應ノ照會モ
 ナク控訴人ヲ呼出シタルハ過誤ニシテ自分控訴手續ニ背辰シタル

等ノ過誤ト其罪同一ナル可キニ自分ノミ入獄ノ上處刑申渡サレシ
 ハ解シ難シ

第八條 大坂上等裁判所へ出訴中滋賀縣ヨリ控訴シタル者アリテ
 其代言人峯木與平儀審問中自儘ニ本人ヲ歸國サセ其後自身モ呼出
 ナ受ケナカラ無届ニテ十八日間出參セサルト雖モ違式輕ニ問ヒ贖
 金七拾五錢被申付タル迄ナリ自分ニ於テモ其權衡異ナラサルカト
 思考セリ

右ニ付大審院ニ於テ法律ニ照シ條理ヲ推シ辨明スルヲ如左

第一條

潤道上告第一條ニ於テハ判事審問ノ手續ヲ申立タル迄ニテ上告ノ
 理由ニ關係ナキノ事件トス

第二條

初審裁判申渡ヨリ九十日內ニ控訴スレハ控訴ノ期限ヲ失ハサル定規云々又控訴中舊度會縣ヨリ大坂上等裁判所へ照會モナク直ニ控訴人ヲ呼出シタルハ掛リ官吏ノ過誤ト申立ルモ潤道控訴ヲ爲スノ時ニ方リ度會縣ニ届出サルハ控訴上告手續第六條ノ規則ニ違ヒタル迄ニテ未タ定規九十日ヲ經過セサル上ハ控訴ノ權ハ失ハスト雖明治八年九月十三日ニ自ラ控訴狀ヲ願下ケタルニ至リテハ潤道ニ於テ自ラ控訴ノ權ヲ拋棄シタリトス又舊度會縣ヨリ潤道ヲ呼出シタルハ明治九年一月七日ニシテ初審裁判申渡セシ明治八年六月二十九日ヨリ算スレハ既ニ控訴期限ヲ過キ尙ホ裁判ノ如ク執行ヲ爲サ、ルニ付度會縣ニテ上等裁判所へ照會セス直ニ呼出シタルハ相當ノ處分ナリトス

第三條

大坂上等裁判所ノ說諭ヲ援キ同裁判所ニ於テ控訴ノ趣意ハ取上遣ハスヘシト申サレタリト申立ルモ自分ニ於テ該訴ハ自カラ願下タル事ヲ口供セシ上ハ同裁判所ニテ控訴ヲ受理シタルトナキハ論ヲ待タサルナリ

第四條

掛官吏ヲ相手取り判事ノ審判ヲ請求シ又無届ニテ控訴シタル進入獄申付ケラル、ノ覺ナシト申立ルモ掛官吏ヲ相手取りタルトテ不應爲輕ニ問ヒタル罪ト無届ニテ控訴シタルトテ違令輕ニ問ヒタル罪トハ舊度會縣廳ニ於テ之ヲ除棄シタルコト故ニ潤道ニ於テハ既ニ除棄サレタル罪ノ上告ヲ爲スヘキ筋ナシトス又タ入獄ヲ申付ケラレタリトテ之ヲ以テ初審裁判ヨリ執行ヲ命シタル公令ニ違ヒタル罪ヲ破毀スルノ理由ト爲スコトヲ得ス

第五條

控訴ノ期限ヲ過去リ初審裁判ノ執行ヲ拒ミ直ニ大坂檢事局へ出訴シタル等服罪セシ哉ノ旨申聞ラル、モ檢事局へ出訴シタル時ハ未ダ控訴期限ハ經過セサル旨申立ルモ第二條ノ辨明ノ如ク一旦控訴ヲ願下ケ既ニ九十日ヲ過キタル上ハ縱令嘗テ期限内ニ檢事局へ出訴シタリ逆既ニ願下ケヲナシタル上ハ是ヲ以テ期限ヲ經過セスト爲スヲ得ス是レ則チ裁判官ノ直ニ呼出タルハ當然ノ事タル所以ナリ

第六條

判事ノ審判ニ服セス自論申募ルト雖モ監倉人被申付旨傳承セリ然ルニ入獄ノ上又違令ニ處セラレタルハ何ノ條理ナルヤ解シ難シト申立ルモ獄入或ハ監倉入リヲ申付シタルハ皆審判中ノ處分ナルニ因

リ是ヲ以テ違令ノ罪ニ處ラレタルノ破毀ヲ求ルノ理由ト爲スヲ得ス

第七條

掛官吏ノ大坂上等裁判所へ一應ノ照會モナク控訴人ヲ呼出シタルハ過誤ニシテ自分控訴手續ニ背戻シタルノ過誤ト同罪ナル可キ旨申立ルモ第五條ノ辨明ノ如ク既ニ控訴ヲ願下ケ又控訴ノ期限ヲ過キタル上ハ之ヲ呼出スニ方リ固ヨリ大坂上等裁判所ニ照會スヘキノ理由ナクシテ掛官吏ノ過誤ニ非ストス

第八條

峯木與平ノ處刑ヲ引キ自分ノ犯罪ニ於テモ其權衡相均シキヲ申立ルト雖モ萬一同罪異刑ナラシムルモ他人ノ刑ニ比較シテ自分ノ刑ノ破毀ヲ求ムル理由ト爲スヲ得ス

判決

右ノ條理ナルヲ以テ舊度會縣ノ裁判ハ法律ニ適シタル者トス依テ上
告狀差戻者也

第三十九號

○判文賭博三犯ノ件明治九年五月廿九日上告
明治九年九月一日判決

堺縣管下河内國第壹大

區四小區石川郡大夕塚

村農

大伴與平

右大伴與平儀賭博ノ件ニ因リ明治九年五月二日捕縛セラレ堺縣廳ニ
於テ審問シタル處再犯ノ趣口供スルニ依リ明治九年五月二日杖九十
ノ處刑ヲ申渡シ既ニ決行シタルノ際其實三犯ナルヲ發覺シ警部ヨリ

狀ヲ具シ求刑シタルニ付該縣廳ニ於テ復タ推問シタルニ明治九年五
月二十四日口供ノ要旨左ノ如シ

口供

自分儀明治二年二月中賭博ノ科ニ因リ大坂府ニ於テ徒刑二百日ニ
處セラレ明治七年十一月十八日又賭博ノ科ニ因リ當縣ニ於テ處斷
ノ際前大坂府ニテ處刑ヲ經タル事ヲ隱シ初犯ノ旨申立ルニ依リ杖
八十ノ刑ニ處セラレタリ而シテ又賭博ノ科ヲ以テ明治九年五月二
日當縣ニ於テ復タ審問ヲ受ル處前科有体申立レハ三犯トナリ如何
体ノ刑ニ處セラレハキヤト恐怖ノ餘往年當縣ニ於テ處刑ヲ受ケタ
ル事ヲ押隱シ大坂府ニテ處刑ヲ經タルヲ申立タリ然ルニ即今
露顯シ乃チ右ノ通相違ナキ旨申上ルナリ

右ニ付明治九年五月廿四日堺縣廳ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡シタリ

其方儀囊ニ當縣ニ於テ賭博ノ科ニ因リ處刑ヲ受ル節大坂府ニ於テ同科ニ因リ處刑ヲ受ケタル義ヲ押隠スノミナラス猶又當縣ニ於テ同科ニ因リ處分ノ際前當縣ノ處決ヲ隱藏スト雖而既往ニ係ルヲ以テ答ノ沙汰ニ及ハス

堺縣二等警部弓削森嚴等ニ於テ右ノ裁判ヲ不法トナシ明治九年五月二十九日大審院ニ上告ス其要旨左ノ如シ

該犯大伴與平儀本年五月二十四日賭博再犯ノ處斷ヲ決行セシ際尙ホ前犯ヲ隱藏スルヲ發露スルニ因リ三犯不盡ノ罪ヲ彈告シ裁判ヲ求メシニ當縣ニ於テ隱藏ノ罪既往ニ係ルヲ以テ答メニ及ハスト申渡シタリ凡犯數ニ計ヘル前科皆既往ナラサルハナシ然ルチ既往ヲ以テ不問ニ置ク時ハ或ハ實ヲ吐ク者ノ罪重ク虛ヲ構ユル者其罪輕キニ過キ權衡太々不妥ヲ覺ヘ該犯處斷ノ如キハ改定律例第二百六

十九條ニ反スル者ト爲サ、ルヲ得ス依テ破毀ヲ求ムルナリ

右ニ付大審院ニ於テ法律ニ照シ辨明スルヲ左ノ如シ

大伴與平賭博三犯ノ罪ノ發覺セシハ明治九年五月廿四日ナリトス而シテ其第一次ノ犯ハ明治二年二月其第二次ノ犯ハ明治七年十一月第三次ノ犯ハ明治九年五月ナリトス因テ之ヲ改定律例舊惡減免例圖ニ照シ其既往ニ係ルヲ以テ減免スヘキヤト否サルヤト推究スルニ賭博初犯ノ罪ハ懲役八十日ニ該リ例圖中三年ヲ歷テ發覺スレハ其罪ヲ全免スヘキ者ナリトス左スレハ其三犯タルヲノ發覺シタル明治九年五月ヨリ其初犯ノ明治二年二月ニ遡リ其年數ヲ計算スレハ七年前ニ在リテ全免ノ例ニ係ルニ因リ全免例ニ係ルノ初犯ヲ以テ之ヲ三犯中ニ算入スルヲ得サル者トス右ニ付キ弓削森嚴等ニ於テ堺縣廳ノ處分ノ法律ニ違ヒシト思考シテ上告シタリシ

ヲ推究スルニ堺縣廳ニ於テ明治九年五月ノ賭博第三次ノ犯罪ハ明治七年十一月賭博第二次ノ犯罪ニ對シ舊惡減免ニ係ラサル故ニ再犯ノ罪ナルヲ明治九年五月二十四日ノ判文ニ之ヲ既往ト爲シ再犯中ニ算入セザリシハ依ル時ハ弓削森嚴等ガ不法ノ裁判ナリト上告セシハ其當ヲ得タリト雖モ改定律例第二百六十九條ニ依リ賭博三犯ノ求刑ヲ爲シタルハ舊惡ニ付全免スヘキ明治二年二月中ノ初犯ヲ三犯中ニ算入シタルノ求メニ付其當ヲ得サル者ナリトス

判決

右ノ理合ナルヲ以テ大審院ニ於テ明治九年五月二十四日堺縣廳ニ於テ大伴與平ニ申渡レタル裁判ヲ平翻スルヲ左ノ如シ
大伴與平儀明治九年五月ニ犯シタル賭博ノ罪ハ賭博律ニ依リ懲役八十日ノ處明治七年十一月ニ犯シタル賭博ノ罪ノ再犯ナルヲ以テ

一等ヲ加ヘ

懲役九十日

明治二年二月ノ犯罪ハ改定律例舊惡減免例圖ニ依リ算入セス

第四拾號

○判文(重典賣ノ件)明治九年二月十二日上告
明治九年九月二日判決

東京第三大區九小區四

ッ谷南伊賀町九番地平

民

牧野 幾之助

三 右牧野幾之助儀翁藏市兵衛家作二重賣ノ證人ニ立タルニ依リ東京裁判所ニ於テ推問ノ末明治八年十一月十二日口供甘結シタルヲ以テ明

治九年二月九日處斷ヲ申渡シタリ其要旨左ノ如シ

口供

自分儀明治七年十一月中東京第三大區九小區麴町十三丁目五番地
 寄留平民翁藏市兵衛方へ家業向キ手傳トシテ參リ居明治七年十二
 月二十七日市兵衛所有家作ヲ價百圓ニテ麴町十三丁目六番地原田
 吉兵衛ニ賣渡ス節其證人ニ立チ其後明治八年一月四日市兵衛尙又
 右ノ家作ヲ價百貳拾五圓ニテ市ヶ谷仲町四拾六番地中川與津へ二
 重ニ賣渡シ復タ其證人ヲ頼ムニ付二重賣ノ廉ヲ以テ再三斷リタレ
 此追テ買戻ノ約定ユエ調金次第取戻ス趣ヲ以テ只管頼ム故遂ニ又
 其證印ヲ爲シタリ

明治八年十二月廿八日市兵衛蒲團百八拾三枚ヲ數ケ所へ抵當ニ差
 出シアル儀ハ心附四谷傳馬町壹丁目小島源右衛門外貳ケ所へ賣拂

ヒ遣レ右ニ付金圓配分ヲ受ケタル事ナシ只手間料トシテ負債四拾
 五圓ヲ償却致シ吳レタリ

處斷

其方儀翁藏市兵衛已ニ加藤市次郎へ賣渡ス家作ヲ重子テ原田吉兵
 衛外壹人へ賣却スル情ヲ知ツテ證人ニ相立賍金百貳拾五圓ノ科重
 典賣田宅條ニ依リ竊盜ニ準シテ論シ懲役十年ノ處情法ヲ酌量シ五
 等ヲ減シ懲役二年

幾之助ニ於テハ右ノ處斷ヲ不法ナリトシ明治九年二月十二日大審院
 ニ上告ス其要旨如左

賍金百貳拾五圓ノ科トアレモ實此金員ニ於テハ壹錢壹厘モ配分ヲ
 受ケサルナリ且又明治七年十二月二十七日市兵衛家作ヲ原田吉兵
 衛ニ賣渡ス節右家作ハ其前明治七年十二月十九日赤坂表貳丁目壹

番地加藤市次郎へ價百圓ニテ既ニ賣渡シタルモノタルヲ知ラスシ
テ吉兵衛ノ頼ニ因リ證人ナクテハ不都合故證人ニ立チ吳レ度後日
迷惑ヲ掛ケスト切ニ頼談セシニ付情ニ於テ止ムヲ得ス原田吉兵衛
ニ對シタル證印ヲ爲シタルナリ

中川與津へ賣渡ス節ニ於テハ猶更ノ事ニテ容易ニ證人ニ立チ難キ
ノミナラス該家作ハ已ニ原田吉兵衛ニ賣渡シタルモノナル故之ヲ
斷ハリタル處其事情ハ委細承知セリ決シテ迷惑ヲ掛ケサル故何分
證人ニ立チ吳レト與津ヨリ固ク頼ムニ付證人ニ立チタリ尤吉兵衛
與津ノ兩人ヨリ皆返リ證文ヲ取置證人ニ立チタルナリ且金子遣
リ取リノ節如何様ノ取扱シタルヤ曾テ承知致サス然ル處與津ニ於
テハ市兵衛自訴シタルヲ以テ該家作ハ夫々借財方へ配當トナルニ
付右證文渡シ吳レト達テ頼ミアリ乃チ本年一月下旬與津へ右證文

差遣シタリ

右ニ付大審院ニ於テ法律ニ照シ辨明スルノ如シ

幾之助ニ於テ贓金百二拾五圓ノ内壹錢壹厘モ配分ヲ受ケスト申立
レモ既ニ二重賣ノ情ヲ知リテ證人ニ立チ因テ本犯市兵衛ニ於テ金
圓ヲ得共得タル所ノ金圓ヲ贓ニ計ヘ竊盜ニ準シテ本犯ノ罪ヲ論ス
ルモノナレハ其證人タル者ハ則チ戸婚律重典賣田宅條牙保情ヲ知
ル者犯人ト同罪ト云ノ明文ニ依リ本犯市兵衛ト同ク該金員ヲ計ヘ
竊盜ニ準シ其罪ヲ論スヘキモノニシテ其科タルハ金圓配分ノ有無
ニアラスシテ其證人ニ立チタル廉ニ在ルヲ以テノ故ニ配分ヲ受ケ
サルヲ以テ罪ニ非ストノ申分ハ相立タス且市兵衛ヨリノ頼ミヲ受
ケタリトテ二重賣ナルヲ以テ容易ニ證人ニ立チ難キト自ラ其不都
合ナル情實ヲ知ルコ於テハ之ヲ拒ムヘキハ當然ノ條理ナリトス然

ルテ之ヲ許諾シテ證印シタルハ躬自ラ法律ヲ犯シタルモノニシテ
 他ノ頼ミヲ受ケタリトノ申分ハ此亦立チ難シトス抑幾之助カ情ヲ
 知リテ證人ニ立チタル事實ハ原田吉兵衛ニ賣渡ス節其證人ニ立チ
 既ニ吉兵衛ニ賣渡レタル事ヲ知リナカラ中川與津ニ二重賣シタル
 時ニ當ツテ復タ其證人ニ立チタル事件ナルコトハ口供上ニ明瞭ナレ
 且其前加藤市次郎ニ賣渡シタル事件ハ幾之助ニ於テ關係セシコトハ
 口供中ニ陳述ナキヲ以テ幾之助ニ於テ關カラサルコト明瞭ナリトス
 然ルヲ東京裁判所ニ於テ翁藏市兵衛已ニ加藤市次郎ニ賣渡ス家作
 ナ重子テ原田吉兵衛外一人へ賣却スル情ヲ知ツテ證人ニ相立ツト
 ノ申渡シヲ爲シタルハ口供ノ事實ニ齟齬シタル裁判ナリトス且右
 賍金ノ數ハ市兵衛ヨリ東京裁判所へ出シタル書面及ヒ中川與津へ
 入レタル證書等ニハ金百拾貳圓五拾錢トアリ東京裁判所ノ取調ニ

ハ百貳拾五圓トアリテ金員適合セシテ刑ノ輕重ヲ生スルニ依リ
 明治九年二月二十日東京裁判所ニ相尋子タルニ明治九年二月二十
 七日左之通罰文引直シ宣告シタル旨明治九年五月三十日東京裁判
 所ヨリ届出タリ其罰文左ノ如シ

其方儀重典賣田宅條ニ依リ賍金百貳拾五圓本罪十年ヨリ五等ヲ
 減シ懲役二年申付置候處右者賍金百拾圓以上ナルヲ以テ本罪懲
 役七年ヨリ五等ヲ減シ更ニ懲役一年半申付ル

右ノ宣告ニテ賍金ノ一邊ハ適當ノ計算ヲ得タリト雖モ尙ホ明治九
 年二月ノ判文ニ加藤市次郎ニ賣渡ス家作ヲ重子テ原田吉兵衛外壹
 人へ賣却スルトノ文ハ事實ニ齟齬シタル判文ニシテ適當ノ裁判ニ
 非ストス

判決

四三三

右ノ理由ナルヲ以テ明治九年二月九日并ニ明治九年二月二十七日ノ
兩度東京裁判所ニ於テ牧野幾之助ニ申渡シタル裁判ヲ破毀シ幾之助
ノ翁藏市兵衛ノ爲ニ家作ニ重賣ノ證人ニ立ナシ事件ハ神奈川裁判所
ニ於テ審判スヘキ旨ヲ明治九年九月二日該裁判所ニ達シタルニ付幾
之助ニ於テハ神奈川裁判所ノ審判ヲ受クヘキモノ也

第四拾壹號

○判文[新聞條例犯則ノ件]明治九年五月廿七日上告
明治九年九月十四日判決

東京第五大區三小區神

田宮本町乙二番地平民

日報社元假編輯長

甫喜山 景 雄

明治九年二月廿二日東京裁判所ニ於テ甫喜山景雄カ自カラ調印シタ

ル口供ノ要旨左ノ如シ

一自分儀明治九年一月十九日東京日々新聞紙社説へ左ノ論文ヲ掲
載ス

一完全ノ治ヲ施サント欲シテ抑壓ノ政ニ陥ルノ大患ハ吾曹先ニ既
ニ之ヲ略説セリ[本月十五日]今ヤ吾曹ハ又更ニ一步ヲ進メ世上論者
ト共ニ此ノ抑壓ニ陥ルノ原因ヲ推究セサル可カラス

一其ノ民政ヲ改正スルニ當リ實地ヲ明知スルニ非サレハ利害ノ判
然タラサル者アルモ權官ハ得意ノ果斷ヲ以テ命令ヲ發シ敢テ地方
官ノ意見ヲ問ハス地方官ハ權官ノ意ヲ奉承シテ之ヲ履行シ又敢テ
人民ノ得失ヲ顧ミス官吏ノ目的ハ固ヨリ不利不便ヲ人民ニ與フル
ノ企ニ非サルモ亦竊ニ思ヘラク此ノ民政ノ釐正ハ實ニ文明ナル佛
國ノ制度ヲ摸擬シタルナリ開化ナル日耳曼ノ規則ヲ真似シタルナ

五三三

リ其ノ他年ニ便利ヲ現ハスハ必定ナルヘント思ハル目前ノ得失ニ
 嗚々スル者ハ蠢爾タル頑愚ノ平民ト外ナラスナコ夫レシキノ事
 ナ拘フ者カ地方官ハ人民ヨリモ賢ク大政府ハ又地方官ヨリ賢キ者
 ニ相違ナシ速カニ之ヲ決行セシムルニ若カスト是レ豈官吏カ自己
 ノ才智ニ誇ルニ非ラスシテ何ソヤ
 一斯ノ如キ政府ノ權官ハ概テ武功榮譽ヲ以テ威望ヲ繫クノ功臣ニ
 非サレハ必ス才智敏捷ノ政事家タルニ付キ其眼中ニ於テハ己レヲ
 棄テ復一人ノ英雄ナキカ如ニ自惚ヲ起シ偏ク學識アル士ヲ招テ我
 ガ爪牙ト成シ羽翼ト成シ以テ我志ヲ逞ウスルノ要具ニ備ヘ或ハ少
 シク人望アルノ紳士アレハ彼奴ヲ民間ニ置テハ小面倒ナリト思ヒ
 官祿ヲ以テ之ニ餌シ名利ヲ以テ之ヲ釣リ忽ニ我カ籬藩ノ内ニ繫キ
 込ムノ權道ヲ行ヘリ於此カ權官ノ意ハ益々盈テ天下復一人ノ我カ

心事ヲ妨碍スヘキ者ナシイザイザ去テハ我カ平素ノ考案ヲ舉行シ
 我國ヲシテ文明開化ノ最上國ト成シ我ト「ビスマルク」トナシテ永ク
 歴史上ニテ千九百年間ノ兩傑ト稱譽セシメン者ト期シ愈々完全ノ
 治ヲ求メテ愈々抑壓ノ政ニ流ル○若シ甲カ某件ヲ不可スルアレハ
 則チ曰ク彼レ學才ノ我ニ勝ルアルモ我經歷アルニ若カス其說ヤ理
 論ニ偏シテ實際ニ潤シ取ルニ足ラサルナリ○乙カ某議ニ抗抵スル
 アレハ又則チ曰ク彼カ說ヤ實地ノ經驗ニノミ由リテ更ニ理非ノ如
 何ヲ顧ミス頑固ニ流レテ時勢ニ適セス更ニ取ルニ足ラサルナリト
 ○輿論ノ云々スルニ遇ヘハ則チ曰ク是レ書生論タルニ出テス上等
 社會ナド、唱フレテ固ヨリ世上ヲ動搖スヘキノ勢力ナシ決シテ輿
 論ト見倣ニ足ラス良シヤ輿論ニセヨ太ダ畏ル、ニ足ラサルナリト
 物議ノ漸ク紛々スルヲ見レハ又則チ曰ク奴輩生意氣ノ論ヲ發シ敢

テ乃公ノ事ヲ妨ケント欲スルカ小僧カナ然ラハ乃公カ威
 權ヲ以テ汝ヲ束縛シ復タ一言シテ乃公カ見込タル國安康福ノ計圖
 ヲ妨ケンメサル可シト凡百ミナ然リ嗚呼コレ豈ニ復タ政府ハ其ノ
 威權ヲ特ニ官吏ハ其ノ才智ヲ誇ルニ非スシテ何ソヤ
 一斯ノ如キ政府ハ興隆ノ盛運ニ當ルモ猶其ノ壓制ノ爲ニ國計ヲ謬
 ラサルヲ無キヲ得ス況ンヤ全國疲弊シテ人民生ヲ聊セス世道頹壞
 シテ人情治ニ倦ムノ時ニ遭フニ於テチヤ吾曹イマ十數年前ヲ回顧
 スレハ家茂將軍幼ニシテ宗家ヲ嗣キ井伊大老カ政ヲ攝スルノ日ニ
 於テ抑壓ノ政ヲ極メタレ其志ヲ問ヘハ實ニ完全ノ政ヲ求メサル
 ニ非ルナリ當時正議ノ士ハ發論ノ端倪ヲ世上ニ現ハシ侃々ノ言ヲ
 以テ政務ノ是非ニ論及セシニ或ハ之ヲ捕縛シテ碧血ヲ刑場ニ潑キ
 或ハ之ヲ禁錮シテ辱恥ヲ縲紲ニ蒙ラシメ盡ク論者ノ口ヲ鉛ンテ以

テ策ノ宜ヲ得タル者トセリ然ルニ幕吏ノ某君ハ此事ヲ愛ヒ論者ノ
 舌ノ根ヲ止メタルハ國家ノ慶事ニアラサルナリ天下ノ抗議ノ爲ニ
 覇業ヲ瓦解スルハ必ラス今日ヨリ釀萌スヘシト建言セシヲアリキ
 般鑑ハ我國ニ於テ尤モ近キニ在リト云ハサル可ケンヤ

一右ハ汎ク政府ノ形況ヲ理論セシ者ニテ律例抵觸ノ廉モ無之ト相
 心得記載致候處今般御調受ケ前後ノ文勢現ニ日本政府ヲ指シ候モ
 ノニ有之段御申聞ニ相成長リ候事

右之通相違不申上候以上 明治九年二月二十二日

右ノ口供ニ依リ明治九年五月十七日東京裁判所ニ於テ左ノ言渡ヲ爲
 シタリ

其方儀日報社假編輯長致シ居ル中本年一月十九日東京日々新聞紙
 社説へ完全ノ治ヲ施サント欲シ政府ノ威權ト規則トヲ以テ之ヲ世

○四三

話シ其成跡ノ上ニ於抑壓ノ政ニ陥リ國家ヲ謬リ人民ヲ害ス云々等
ノ語ヲ以テ暗ニ我政府ノ所置ヲ誹毀スル科新聞條例第十四條成法
ヲ誹毀スル者ヲ以テ論シ禁獄三ヶ月申付ル

明治九年五月廿七日甫喜山景雄ヨリ大審院ニ上告スルノ要領左ノ如
シ

第一條

一明治九年二月中東京裁判所檢事課於テ明治九年一月十九日東京日
々新聞紙社説へ完全ノ治云々ノ一篇ハ何等ノ意ニテ記載候哉ヲ尋
テラレ即右ハ後世少年政事學ニ從事スル徒ノ爲メ少シシ裨益スヘ
シト考へ政理ヲ想像スルノ一斑ヲ記スル旨ヲ答ニ及ハリ

第二條

一同月中同所於テ鎌田七等判事ヨリ同伴ヲ尋テ尋テ尋テ尋テ尋テ尋テ尋
テ尋テ尋テ尋テ尋テ尋テ尋テ尋テ尋テ尋テ尋テ尋テ尋テ尋テ尋

ヒシ處右ハ今ノ政府ヲ諷規スル等ノ意ハ無之哉トノ尋ニ候得共素
ヨリ右宏遠ノ深意ハ無之間斷然無之旨答ニ及ヘリ扱退テ勘考候處
該論文ハ編者草スル意ト法官ノ觀ル所ト主意背馳旁午シ自ラ岐ヲ
做シ其カ爲メ徒ラニ法庭ヲ煩ハスハ無益ノ儀ト考候間右社説每條
辨明シテ早川中檢事へ呈閱ス

第三條

一同月廿二日本日別ニ訊問モ無之口供讀ミ聞カセニ相成リ追テ判決
可申渡趣ニテ退散ス爾來日夜引領焦心苦慮命ヲ待ツヲ實ニ八十有
餘日則五月十七日ニ至リ罪名宣告ニナリタリ

第四條

一右文中暗ニ政府ヲ誹毀スル云々トハ如何ノ譯合ニ候哉竊ニ惟ニ暗
トハ無形無痕曖昧模糊ノ謂ナラスヤ右様無臭無聲ノ暗ノ一字ヲ以

一四三

テ舞文羅織シ明白ノ罪名ヲ科セラル、ハ承伏致シ難シ抑該篇ノ如キ編者ハ卑キニ居テ眼力高遠ノ點ニ上ラス只理ノ起伏スル所ヲ論スルニ過キス何ソ我政府ノ處置ヲ詳悉シテ之ヲ記スルニ暇アラシヤ然ルニ法官ハ其身上ニ在リ我カ政府ノ處置ニ就キ別ニ自ラ見ル所アリ編者不知ノ境ニ透入シテ論シ以テ不肖トセス恐ラクハ彼亦知テ斯文ヲ竄シタデアロウト思像セラル、モノナラハ實ニ難有迷惑ト申スヘキ儀ナリ何トナレハ遂ニ之ニ根據シテ今日暗ニ云々ノ文ヲ結フニ至レハナリ扱思像ノ禁シ難キハ尊卑トナク一ナリ現ニ口供ノ末文ニ景雄ハ汎然ト政理ヲ論スルトシ法官ハ現ニ日本政府ヲ指シタルト見込ムト申聞ラル意旨ノ異ナル互ニ強ルヲ能ハサル知ヘシ依テ案ルニ全ク法官ノ眼中ニ最初ニ遮ルモノアリテ牽強附會シテ曾テ編者ノ知ラサル地ニ達シ此案ヲ落スルニハ非サルヤ否

萬々一然ルカ如キハ景雄カ服ト否トハ啻ニ一身上ニ止ラス無ヲ以テ有トシ虚ヲ以テ實トシ其影響ハ我カ日本政府ヲモ累スルノ譯ニテ實以テ云フニ忍ヒサル次第ニ候右ノ理田ナルニ依リ宣告文中暗ニ我政府ノ處置ヲ誹毀スル云々ハ不服ニ候因テ嚴威ヲ冒瀆シ謹テ上告セリ

明治九年二月十七日甫喜山景雄カ東京裁判所檢事局へ差出シタル辨明書ヲ明治九年六月一日本院ニ差出シタル其立論ノ要略左ノ如シ
立論ノ大趣意ハ政治ノ抑壓ニ陷ルノ原因ヲ推究シ政府ハ其威權ヲ恃ミ官吏ハ其才智ニ誇ルニ生スルノ理論ヲ講明スルニ在リ決シテ日本政府ヲ暗指スル者ニ非サルナリ

全編ヲ分テ八節ト成ス其論意ハ即チ如左

第一節ハ完全ノ治ヲ施サント欲シテ抑壓ノ治ニ陷ル原因ニ推究ス

ルノ冒頭ニシテ以下ノ諸節ヲ喚起ス

第二節ハ凡ソ官吏カ汲々トシテ人民ノ爲ニ最上ノ都合ヲ謀ルモ其適度ニ超ル時ハ期スル所ニ違フテ國ヲ謬リ民ヲ害スルニ至ルノ理ヲ講シ再ヒ第三節ヲ喚起ス

第三節ハ右ノ期スル所ニ違フハ何ニ生スルカヲ推究シテ即チ政府

ハ其威權ヲ恃ミ官吏ハ其才智ニ誇ルノ二短所ニ生スルノ理ヲ論ス

第四節ハ第三節ノ説明ニ屬シ政府ハ完全ノ治ヲ施サント欲シテ其

威權ヲ恃ムニ陥ルノ状態ヲ想像シ其理ヲ講シテ此節ノ局ヲ結フ

第五節ハ同レシ第三節ノ説明ニ屬シ官吏ハ完全ノ治ヲ施サント欲

シテ其才智ニ誇ルノ状態ヲ想像シ其理ヲ講シテ此節ノ局ヲ結フ

第六ハ上ノ兩節第四第五ヲ結合シ更ニ威權ト才智トノ二者ヲ併使スル

ニ陥ルノ理ヲ講シテ同シク此節ノ局ヲ結フ

第七節ハ以上三節ニ講シタル論理ヲ明カニセシカ爲メ徳川氏末世ノ事蹟ヲ引證ス

第八節ハ全編ノ論理ヲ包括シテ大結局ト成ス然レモ萬一該者カ謬テ此論文ハ日本政府ヲ諷規スル者ナランカト思ハントヲ恐レ爲ニ結末ノ一轉ヲ成ス

右ニ付大審院ニ於テ法例ニ依リ判決スルコト左ノ如シ

南喜山景雄カ上告書中ノ數條及ヒ辨明書ヲ推究スルニ東京日々新聞社説へ完全ノ治云々ノ一篇ヲ記載候ハ即チ後世少年政事學ニ從事スル徒ノ爲メ少シク裨益スヘシト考ヘ政理ヲ想像スルノ一斑ヲ記スルモノナリト申立レモ景雄カ東京裁判所ニ於テ甘結シタル口供中ノ社説一篇ノ第三項中竊ニ思ヘラシク此ノ民政ノ釐正ハ實ニ文明ナル佛國ノ制度ヲ摸擬シタルナリ開化ナル日耳曼ノ規則ヲ真似

シタルナリ其他年ニ便利ヲ現ハスハ必定ナルヘシト思ハル云々第
 四項ニ斯ノ如キ政府ノ權官ハ概テ武功榮譽ヲ以テ威望ヲ繫クノ功
 臣ニ非サレハ必ス才智敏捷ノ政事家タルニ付云々又我國チシテ文
 明開化ノ最上國ト成シ我ト「ビスマルク」トヨシテ永ク歴史上ニ千九
 百年間ノ兩傑ト稱譽セシメン者ト期シ愈々完全ノ治ヲ求メテ愈々
 抑壓ノ政ニ流ル云々第五項吾曹今十數年前ヲ回顧スレハ家茂將軍
 幼ニシテ宗家ヲ嗣キ井伊大老カ政ヲ攝スルノ日ニ於テ抑壓ノ政ヲ
 極メタレモ其志ヲ問ヘハ實ハ完全ノ治ヲ求メサルニ非サルナリ云
 々夫レ佛國日耳曼及ヒ「ビスマルク」等云々ノ事ヲ記載スル此ノ如シ
 而シテ第五項ニ至リ德川氏末世ノ事跡ヲ引證セシハ即チ明治九年二
 月十七日東京裁判所ノ檢事局ニ出シタル辨明書ニ第七節ハ以上三
 節ニ講シタル論理ヲ明カニセンカ爲メ德川氏末世ノ事蹟ヲ引證ス

ト云ヘルノ論ナリトス然ルニ德川家茂ノ將軍タルヤ安政五年ニシ
 テ其薨スルハ慶應二年ニ係リ其政治タルヤ三百年來因襲ノ政體ニ
 據ル「」ニテ曾テ歐洲各國ノ政體ヲ摸擬セシ「」無シ是ニ由テ之ヲ推
 セハ何事ヲ以テ德川氏末世ニ在テ文明ナル佛國ノ制度ヲ摸擬シタ
 ルナリ開化ナル日耳曼ノ規則ヲ眞似シタルナリ云々「」比照スヘキ
 原因ト爲スヤ况ヤ又斯ノ如キ政府ノ權官ハ概テ武功榮譽ヲ以テ威
 望ヲ繫クノ功臣云々我ト「ビスマルク」トチシテ永ク歴史上ニ「」千九
 百年間ノ兩傑ト稱譽セシメン者ト期シ愈々完全ノ治ヲ求メテ愈々
 抑壓ノ政ニ流ル云々トハ德川氏末世ニ在テ何人ヲ以テ武功榮譽ノ
 權官ト指稱シタルヤ景雄ニ於テハ政理ヲ想像スルノ一斑ヲ記ルス
 ト中立ルモ其想像中ノ事柄ニ於テ我國チシテ文明開化ノ最上國ト
 成シ「ビスマルク」ト兩傑ト稱セラレシト期シタルトハ德川氏末世ニ

於テ何人ト想像セシヤ抑又明治年中ニ爲シタル李佛戰爭ノ前ニ於テ德川氏ノ末世ナル權官カ何年代ニ於テ「ビスマルク」ト并ヒ稱セラレシヤ抑又德川氏ノ末世ナル權官カ何年代ニ於テ佛國ノ制度ヲ摸擬シタル「ア」ト景雄ハ想像ヲ爲シタリシヤ此等ノ條件ニ就テモ景雄カ申立ニ於テハ時勢懸隔事實齟齬曾テ首尾照應スルノ跡ヲ見ス既ニ首尾照應セサルハ右一篇ノ社説ハ明ニ當時ノ政府ノ處置ヲ誹毀セスシテ暗ニ之ヲ誹毀スル者トス然ルニ上告中ニ暗ニ政府ヲ誹毀スルトハ如何ノ譯合ナルヤ暗トハ無形無痕曖昧模糊ノ謂ナラスヤ右様無臭無聲ノ暗ノ字ヲ以テ舞文羅織シ明白ニ罪名ヲ科セラルハ承服シカマシト申立レル上文ニ辨明セシ如ク暗ニ政府ノ處置ヲ誹毀セシ上ハ假令ヒ口供ニ現ノ字アリトテ其ノ實ニ暗ニ政府ヲ誹毀セシ以上ハ東京

裁判所ノ處分ノ舞文羅織ニ非サルハ判然ナリトス

判決

右ノ條理ナルヲ以テ東京裁判所ノ處分ハ新聞條例ニ適當セル裁判ナルニ因リ取消スヘキノ理由ナキヲ以テ上告狀下展ス者也

第四拾貳號

○判文(喚出遲參ノ件)明治九年七月十九日上告
明治九年九月廿二日判決

東京府下第五大區四小

區神田仲町壹丁目拾五

番地平民日雇稼

村上 辨藏

右村上辨藏儀明治九年五月中東京裁判所第四支廳民事課ニ於テ訴訟審理中出頭スヘキ時限ヲ無届ニテ遲參スルニ依リ該支廳刑事課ニテ

○五三

喚問シタル處明治九年七月十一日口供ノ旨趣左ノ如シ
自分儀金澤町拾貳番地關根シゲヨリ掛ル約定金淹滞ノ訴訟事件ニ
付明治九年五月十二日原告ト對決ノ上訟庭ニ於テ來ル五月十五日
出頭スヘク旨御請イタシ原被連印ニテ御請書差出シ置十五日ニ至
リ午後一時ニ出頭シタル處原告ニ於テハ被告不參ノ趣ヲ届ケ既ニ
退廳スルヲ以テ自分遲參ノ廉御訊問アレモ自分ニ於テハ十五日何
時出頭可致トノ御請ハイタサヌ午前八時ヨリ午後二時迄ノ御開廳
中ニサヘ出頭セハ可然ト心得居ル段申立タル處右ハ東京府ヨリ明
治九年甲第拾號布達ノ趣モ有之旨被申聞タリ去レモ右布達ハ裁判
所ニ於テ裁判受理中出頭刻限ヲ指示シタルモノニ無之ト心得居レ
リ然ルニ出頭刻限モ右布達ニ準スヘキモノナレハ遲參ニ相當リ恐
レ入候

明治九年七月十七日該支廳刑事課ニ於テ左ノ處斷ヲ申渡シタリ
其方儀當廳ヘ出頭申付シ期日無届遲參スル科違式輕ニ問ヒ懲役十
日ノ贖罪金七十五錢申付ル
辨藏儀右ノ處斷ヲ不法トナシ明治九年七月十九日大審院ニ上告ス其
要旨左ノ如シ

一五三

自分儀東京裁判所第四支廳ノ刑事訟庭ニ於テ訊問ヲ受ケタル時該
裁判官吏カ宜ヘラル、趣ハ東京府布達明治九年甲第拾號ヲ以テ所
管ノ人民ヘ觸示セル者ハ東京裁判所各東京裁判所支廳ヘ向フモノ
、出頭時刻ニ定メアル所以ヲ告知セルノ一令ニシテ其文意ニ午前
第九時可差出トアルハ出頭時限ヲ指スニ當ルナリ然ルモ右ノ定
限ニ依遵スヘキ筈ナルヲ午後第一時ニ出頭スルハ固ヨリ遲參ニ相
當ルナリト判斷セラレヨリ犯罪人ノ列ニ加ハリ贖金ヲ科セラル

、ニ至レリ抑東京府布達ノ旨趣ハ東京府権知事カ所管ノ人民ニ向
 ヒ東京裁判所各東京裁判所支廳ハ明治九年四月二十四日ヨリ裁判
 理事ヲ其時ニ始メ其時ニ終ル則前日ノ時刻ト異ナルモノナレハ訴
 訟其他諸願等総テ其時ニ可差出旨該廳ヨリ通知アリタリト所管人
 民便益ノ爲ニ一令ヲ降セルノ布達ナルヘシ警ヘハ工部卿カ鐵道發
 車ノ時刻ヲ變更セル時全國人民便益ノ爲ニ其布達ヲ頒行セラル、
 ニ等キ者ニシテ若シ其發車定限ノ時刻ヲ誤リ鐵道場ニ到ル者アル
 モ其乗車ニ遭ハサルノ不幸ノミニ止ルモノナレハ訴訟其他ニヨリ
 定限ノ時刻ヲ誤リ東京裁判所各東京裁判所支廳ニ到ル者アルモ其
 日ノ受理ヲ斥ケラル、ノ不幸ノミニ止マルモノナルヘシト思料シ
 其布達ノ本旨ハ人民カ訴訟其他ノ舉行ニ付自ラ進ム時ノ一徑ニ限
 リ標準トセルマテノモノナリト決念セリ苟モ裁判官吏ノ受理セラ

ル、以上ノ者ハ出頭刻限ノ如キモ亦該官吏ノ命令スル所ニ歸スハ
 勿論ニシテ東京府布達ノ旨ニ遵フニ限ラサルヲ以テ當然ト認メタ
 リ殊ニ明治九年五月十二日原被連署ノ請書ヲ呈進セシ如キハ訴訟
 人民ト裁判官吏ト直接ノ引合ニシテ則東京府布達ノ効用ハ既ニ離
 レタルモノナリ其既ニ離レタル布達ヲ強テ比况援引セラル、ハ公
 正ノ法律ニ適從セルモノト認メ難シ右ニ付更ニ公正ノ御判斷被成
 下度奉願候

石ニ付大審院ニ於テ法律ニ照シ辨明スルヲ左ノ如シ

村上辨藏カ東京裁判所第四支廳訟庭へ出頭遲參シタルヲ該支廳ニ
 於テ明治九年四月二十日東京府甲第拾號布達ノ旨ニ犯觸シ遲參ニ
 該ルモノナリト裁判シタル廉ヲ推究スルニ右東京府布達ノ文意ハ
 明治九年四月二十四日ヨリ東京裁判所各支廳ノ官員午前第八時出

頭午後第二時退出トナルニ付訴訟其他諸願等總テ午前第九時限可
 差出トアルノミニシテ訴訟審理ニ係リ呼出ヲ受ル者該時限ニ出頭
 スヘキトノ旨ヲ明載シタル布達ニ非ルニ付該布達ヲ以テ訴訟ノ審
 理ヲ受クヘキ出頭刻限ヲ示シタル布達ト看做スチ得ヘカラストス
 明治七年十二月二十日司法省甲第二十一號布達裁判所取締規則第
 九條改正ノ文ニ刻限呼出ヲ受タル者若シ無届ニテ遅參致ス者ハ斷
 獄課ニ廻シ違式ノ輕重ニ問ヒ相當ノ罰金ヲ科ス可キトアルハ即チ
 遅參ヲ爲シタル者ヲ罰スルノ原規則ナリトス今辨藏ノ口供ヲ閱ス
 ルニ來ル五月十五日出頭スヘキ旨請書差出シタリトアリ又裁判申
 渡シニモ出頭申付シ期日遅參トノミアリテ出頭刻限ノヲ言ハサ
 ルニ依レハ辨藏ニ於テ該日何時ニ出頭ス可シト裁判官ノ申付チ受
 ケタルヲ無キノ證ナリトス左スレハ辨藏ノ出頭遅參シタル廉ハ右

裁判取締規則ニ犯觸シタル者ニ非サルニ依リ違式ノ輕重ニ問フチ
 得サル者ナルチ該支廳ニ於テ無届遅參ノ科ニ處シ違式輕ニ問ヒ懲
 役十日ノ贖罪金七拾五錢申付タルハ法律ニ適當セサルノ裁判ナリ
 トス

判決

右ノ理合ナルヲ以テ大審院ニ於テ明治九年七月十七日東京裁判所第
 四支廳ニ於テ村上辨藏ニ申渡シタル裁判ヲ平翻スルヲ左ノ如シ

無罪

村上 辨藏

第四拾三號

○判文(警察官ノ手先ト詐稱セシ件)明治九年三月廿五日上告
 明治九年九月廿二日判決

愛媛縣伊豫國新居郡澤

津村農熊吉弟

右網平儀明治九年三月二十二日愛媛縣ニ於テ爲シタル口供ノ要旨如左

自分儀詐偽ノ科ニ依リ兩度處刑ヲ受ケタル身分尙心底ヲ不改本年一月二十日西條東町妻島幸吉方ニ於テ同郡大保木山村ノ内黒瀬山工藤文五郎ナル者同村伊藤純藏ヘ掛リ預金催促ノ儀出訴ニ可及哉ノ趣承リ折柄文五郎儀幸吉方ニ來會セシニ付自分此ノ差縫ノ件可取扱ト文五郎ヘ申聞ケタル處右差縫ノ金員五拾圓悉皆受取ルニ至レハ謝禮トシテ金七圓五拾錢可與旨申聞ケシニ依リ直チニ右純藏方ヘ參リ西條警察出張高橋成政ノ手先ニテ探索ニ出タル小野辰三郎ト詐リ文五郎ニ對スル預金一件相對示談ヲ遂ケス若シ出訴ニ及ハル、トハ其方ハ必定監倉入ニ可相成左スレハ惘然ニ付速ニ返却

ス可キ旨申聞ケタルニ却テ純藏ヨリ右差縫ノ始末流ル、如ク辯解セラレ到底自分ノ力ニ不及且ツ詐偽ノ露顯セシテ恐レ尙鑑考ス可キ旨申置キ其儘幸吉方ヘ立戻リ右ノ首尾文五郎ヘハ何トモ不申聞罷在リタルニ二月二日被召捕候事

右ノ口供ニ依リ明治九年三月二十二日愛媛縣ニ於テ左ノ處斷ヲ爲シタリ

警察出張ノ手先ト詐リ求爲スル所アルモノ詐稱官律見任官ノ子孫弟姪家令等ト詐稱シテ求爲スル所アル者ハ懲役九十日犯ス所輕キ者ハ懲役三十日ト云ニ比擬シ懲役三十日ヲ換ヘ答罪三十

愛媛縣二等警部武藤正休右ノ處斷ヲ不法ナリトシ明治九年三月二十日大審院ニ上告シタルノ要旨如左

三五七 網平ノ刑ハ詐偽律詐稱官條第一項ニ可照依モノニテ其四等警部高

橋成政手先小野辰三郎ト詐稱スルハ即無官ニレテ有官ト詐稱スルニ類似シ且官司ノ差遣ト詐稱セルヲ判然ナレハ第二項見任ノ子孫弟姪家令等ト詐稱スルモノニ非ス尤比擬シトアレハ律ニ明文アル以上ハ他ニ比擬スル理由無ク若又情ヲ量リ輕減セシナレハ本犯詐僞ノ科再三ニテ其情ヲ酌メハ第一項懲役七十日モ尙輕シ依テ該審判ハ不當ト見込ニ付更ニ至當ノ審判アリタシ

右ニ付大審院ニ於テ法律ニ照シ辨明スルヲ如左

綱平ノ犯罪ヲ案スルニ其求ムル所他人ノ預金ヲ取戻シ其謝金ヲ得ルニ在リテ警察出張ノ手先ト詐リタルハ右取戻談判ニ付キ一箇ノ役名ヲ假リ其事ヲ遂ケントシタル迄ニテ右手先ノ者ハ最前愛媛縣下ニ於テ人民互稱シタル警察附屬人ノ舊名ニシテ警察官ニテ雇入タル者等ニ非サレハ愛媛縣ニ於テ詐僞律詐稱官條第二項見任官ノ

子孫弟姪等ニ擬シ處斷シタルハ法律ニ違ヒタルモノトス又武藤正休ノ上告ニ於テハ詐稱官條第一項ニ可照依云々申立ルモ警察官ノ手先ハ前述ノ如ク縣廳或ハ警察官ニテ雇入ル、モノニアラサルニ付官等中ニ斑ス可キモノニモ非サル旨同縣警察官ヨリノ申立アリタレハ固ヨリ無官ニシテ有官ト詐稱スル者ニ比擬ス可キモノニモ無之且詐僞律詐稱官條第一項ニ所謂官司ノ差遣ハ元是犯人拿捕上ノ事件ニシテ綱平ノ取戻談判ヲ爲スハ仲裁ノ取扱ヲ爲シ謝金ヲ得ルノ目的ニシテ他人ヲ捕縛スルノ目的ニ非サルニ付官司ノ差遣ニ擬セントスルモ是亦不當ノ事ナリトス左ノ上告ノ旨趣モ適當ノ見込ト爲ステ得ス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治九年三月二十二日愛媛縣ニ於テ綱平ニ申渡

〇六三

シタル裁判ヲ取消シ綱平ノ犯罪事件ハ高知裁判所ニ於テ審判ス可キ旨ヲ明治九年九月二十二日該裁判所ニ達シタルニ因リ綱平ニ於テハ高知裁判所ノ審判ヲ受ク可キモノ也

第四拾四號

〇判文〔竊盜囚犯ノ件〕明治九年六月八日上告
明治九年十月九日判決

堺縣下大和國宇陀郡別

所村平民

松 田 德 松

右德松儀明治九年五月二十三日堺縣ニ於テ爲シタル口供ノ要領如左

一明治七年七月二十八日於舊奈良縣逃亡及ヒ竊盜ノ科ニ依リ杖八十ニ處セラレ

一明治八年二月十三日於三重縣竊盜再犯及責付中逃走ノ科ニ依

リ懲役八十日ニ處セラレ

一明治八年八月二十七日於舊奈良縣竊盜三犯ノ科ニ依リ懲役十年ニ處セラレ

一自分儀右ノ處刑ヲ受ケ吉野郡和田村天和鑛山ニ服役中明治九年三月六日午前八時頃看守人ノ透ヲ窺ヒ逃走セリ

一逃走ノ後所々徘徊中盜心ヲ萌シ明治九年三月七日吉野郡枋尾村河村芳藏方ニ忍入ル際御渡ノ碎槌壹挺拾置鉈壹挺外二品盜取リ

一同日同村保田和平方ニ忍入ル際前顯芳藏方ニテ盜取タル三品ハ拾置キ白縮緬六尺計リ外五品盜取右盜品ノ内木綿拾壹枚同襦絆壹枚小倉男帶ハ着用シ御仕着ノ單法被并綿入法被ハ同所ニ脱キ拾白縮緬外二品ハ名住所不知者へ代金貳圓五拾錢ニ賣却シ不殘費用

一六三

着用セシ盜品ハ當時所持シアリ

一其後所々徘徊中明治九年三月十四日吉野郡田原村ヨリ白鳥居村ノ路上ニ於テ柴ニ狹ミアル鎌壹挺拾取當時所持シアリ

一今般糺問ノ上盜品代積リ金三圓拾錢官物棄毀代積リ金三拾貳錢得遺失物代積金貳錢五厘惣計三圓四拾四錢五厘相成候事

右ノ口供ニ依リ明治九年六月六日堺縣ニ於テ左ノ裁判申渡ヲ爲シタリ

其方儀於舊奈良縣竊盜三犯ノ科ニ依リ懲役十年服役中外役先ヨリ逃走シ加之河村芳藏方外壹ヶ所ニ忍入物品盜取又ハ仕着セノ法被外壹品投棄或ハ徘徊中物品拾ヒ取り官ニ届出サル科二罪ノ重ニ從ヒ竊盜四犯財ヲ得ル者ヲ以論シ竊盜條例仍ホ懲役人逃ル條ニ依リ棒鎖二日ノ上懲役終身申付ル

德松ニ於テハ右ノ裁判ニ服セス明治九年六月八日大審院ニ上告シタルノ要旨如左

明治七年七月二十一日村内ニ於テ博奕シタルニヨリ奈良縣ヨリ捕縛セラレ同月二十八日杖八十ニ處セラレ明治七年十月七日松坂村川屋町蘿谷藤九郎方ニテ金拾三圓盜取勢州津迄行キ三重縣ヨリ捕縛セラレ明治八年一月八日杖七十ニ處セラレ可キニ同囚ノ破獄セントスルヲ報知シタルニ依リ二等減ヲ以答五十ニ處セラレ明治八年八月廿七日別所村北礮八方ニテ金壹圓五拾錢盜取此時竊盜三犯ナルヲ以懲役十年ニ處セラレタル處竊盜ハ二犯ナルヲ以取調中大和國天和鑛山ニ服役中明治九年三月六日脱走シ吉野郡初尾村安田和平方ニテ衣服六品盜取別所村へ歸途明治九年三月十五日奈良縣ヨリ捕縛セラレタルニ該縣廢止ニ付堺縣へ引渡サレ明治九年六月

六日堺縣ヨリ竊盜四犯ニ付懲役終身ト申渡サレタレモ右手續ノ通竊盜三犯外ニ博奕一犯合シテ四犯ナレモ竊盜罪ハ三犯ノ外ニ無之一廉相違ノ疑惑ヲ免レヌ不服ニ付此段上告セリ

右ニ付大審院ニ於テ法律ニ照シ辨明スルヲ如左

德松上告ノ本旨ハ竊盜三犯ニシテ四犯ニ非ナルヲ論シ明治七年七月二十八日ノ處刑ハ博奕ノ科ニシテ其後ノ三犯ノミ竊盜罪ナリト申立ルト雖モ舊奈良縣ニ於テ當時取調タル節ノ書類ニ就キ之ヲ見ルニ明治七年七月二十八日ノ處斷ハ賭博竊盜親屬盜逃亡ノ四罪俱發ニシテ一ノ重キニ從ヒ逃亡條ニ依リ杖八十ニ處分シタル事ニテ曾テ賭博ノ一罪ノミヲ以テ處斷シタル事ニ非ストス凡竊盜犯數ヲ算スルニ假令初犯ニ於テハ他罪ノ重ニ依リ科斷セラレタリト雖モ既ニ竊盜罪モ犯シタル以上ハ其後ノ盜罪ヲ再犯トシ從テ三犯四犯

ヲ數フルハ勿論ノ事トス故ニ右明治七年七月以後德松ニ於テ明治八年二月十三日舊奈良縣ニテ竊盜再犯ニ處セラレ又明治八年八月廿七日ニ舊奈良縣ニ於テ竊盜三犯ニ處セラレタルハ總テ最前明治七年七月廿八日初犯ノ盜罪ヨリ起算シ來リタル事ニテ德松ニ於テ再犯三犯共皆之ヲ甘受シタリ而シテ四犯ノ刑ヲ受クルニ及ヒ不服ヲ以テ大審院ニ上告シ上告書中ニ舊奈良縣ニ於テ懲役十年ニ處セラレタル處竊盜ハ二犯ナルヲ以テ取調中云々ト申立ルモ當時奈良縣ノ書類ニ就キ調査スルニ同縣ニ於テ明治八年八月二十七日附ヲ以懲役十年ノ刑名宣告シタルヲ判然タレハ右ノ申立ハ採用ス可キ理由ナク而シテ堺縣ノ裁判ハ不適當ノ裁判ニ非ストス

判決

右ノ條理ナルヲ以テ堺縣ノ處斷ヲ取消スヘキ理由ナキニ依テ上告狀

差戻者也

三六六

第四拾五號

○判文門鑑遺失ノ件明治九年十月廿二日上告
明治九年十月廿八日判決

東京上榎町九番地平民

田中清兵衛

東京麴町壹丁目拾番地

陸軍中尉和智重任雇人

富田岩吉

右二名ノ者陸軍省教導團ノ門鑑ヲ遺失シタルニ付明治九年九月東京
裁判所ニ於テ改定律例第一百一條ニ依リ懲役十日ノ贖罪金七拾五錢申
付ケタリ

大審院詰大檢事岸良兼養右裁判ヲ不法ナリトシ明治九年十月十二日

大審院ニ上告シタルノ要領如左

明治九年四月太政官第四拾八號布告ヲ以テ職制律廢セラレタル上
ハ其罪ヲ問フ可キ者ニ無之ニ付破毀ヲ求メタリ
右ニ付大審院ニ於テ法律ニ照シ辨明スル左ノ如シ

檢事上告申立ノ如ク明治九年四月第四十八號ノ公布ヲ以テ職制律
ヲ廢サレタルハ向後門鑑遺失スル者ハ罪ノ問フ可キナシ然ルニ東
京裁判所ニ於テ違式輕ニ問ヒタルハ既ニ廢弄シタル法律ヲ執リ刑
ヲ無罪人ニ擬シタルモノニテ法ニ違ヒタルノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ東京裁判所ノ裁判ヲ取消シ更ニ大審院ニ於テ裁
判スルヲ如左

三六七

無罪

第四拾六號

○判文(闘毆ノ件)明治九年八月廿六日上告
明治九年十月三十日判決

東京第壹大區九小區澁

山町二番地平民懲役人

根 岸 清 吉

右根岸清吉儀懲役場ニ於テ同囚石川善四郎ヲ毆傷スルニ由リ東京裁判所ニ於テ審問シタル處明治九年八月十四日口供ノ旨趣左ノ如シ

一明治五年十一月三日於東京裁判所竊盜ノ科ニ依リ准流十年ニ處セラル

自分儀同囚石川善四郎トハ兼テ懇意ナル處善四郎入用有リトテ頼ムニ付自分所持ノ蓑入レ一ツ并ニ手拭一筋貸遣シ工錢受取次第返却ノ約定シタルニ約定期限ニ至リ右品返却セサルニ因リ兩三度催

促ニ及ヒタレモ曖昧ノ返答致スノミナラス無キ物ハ致シ方無シ無理ナル申聞ケ杯ト申シタルヲ以テ一時憤怒ノ餘傍ニ有合セシ柴斧ヲ以テ善四郎頭上ヲ毆キ疵ヲ負ハセタリ

明治九年八月二十五日東京裁判所ニ於テ左ノ處斷ヲ申渡シタリ

其方儀竊盜ノ科ニ依リ處刑中ノ身分同囚石川善四郎へ貸與ヘシ物品返却遅延ニ及フヲ憤リ柴斧ヲ以テ同人ヲ傷スル科闘毆條人ヲ刃傷スル者ニ依リ原役滿限ノ上加役二年申付ル

右ノ處斷ヲ東京裁判所詰舊中檢事早川勇ニ於テ不法トナシ明治九年八月二十六日大審院ニ上告ス其要旨左ノ如シ

見今懲役人根岸清吉儀明治九年三月四日出役先ニ於テ石川善四郎ト闘毆ノ末善四郎ニ傷負ハセタルハ柴斧ヲ以テセリ抑柴斧ハ鎌刀
菜刀ト同ク尋常器用ヲ以テ論スヘシ兵器ノ腰刀鐵鎗等ト同ク論ス

ヘカヲサルハ言ヲ須タス故ニ該犯柴斧ヲ以テ傷スルコ依リ改定律
例第二百十四條鎌刀菜刀ト同ク論シ懲役七十日ヲ加役スヘキ者ニ
シテ刃傷ヲ以テ論スヘキ者ニ非ス假令眞ノ刃傷トスルモ加役ノ法
ニ於ル三年以下一年以上ノ犯罪ハ後犯ノ年限ヲ折半スヘキヲ律例
ニ明瞭タリ然ルニ今不折半原役滿限ノ上懲役二年ヲ全科スルハ彼
此裁判不當ナリトス

明治九年八月二十八日東京裁判所ニ於テ改テ左ノ處斷ヲ申渡シタリ
其方儀竊盜ノ科ニ依リ處刑中ノ身分同囚石川善四郎ヘ貸與ヘシ物
品返却遲延ニ及フヲ慣リ柴斧ヲ以テ同人ヲ傷スル科闘毆條人ヲ刃
傷スル者ニ依リ改定律例第四十三條ニ照シ後犯ノ罪ヲ折半シ加役
一年申付ヘキ處誤テ加役二年ノ處斷ニ及フニ付右處斷ヲ改正シ原
役滿期ノ上加役一年申付ル

右改正ノ處斷ヲ東京裁判所諸舊中檢事早川勇ニ於テ尙ホ不法トナシ
明治九年八月二十八日再ヒ大審院ニ上告スルノ要旨左ノ如シ

根岸清吉裁判不當ノ儀ニ付明治九年八月二十六日上告ニ及フ處八
月廿八日東京裁判所ニテ貼斷ヲナシタリ就テハ右加役折半ノ廉ハ
其當ヲ得タレモ刃傷ノ廉猶不當ト存シタリ

大審院諸大檢事岸良兼養ニ於テ左ノ意見ヲ附シタリ

根岸清吉ノ石川善四郎ヲ毆傷スルヤ柴斧ヲ以テシ他ノ兵器ノ類ニ
非ス且善四郎ノ傷痕モ不日ニシテ全癒シタレハ其傷亦輕シトスヘ
シ故ニ該犯ノ如キ輕ニ從ヒ論スヘシ

右ニ付大審院ニ於テ法律ニ照シ辨明スルヲ左ノ如シ

根岸清吉カ石川善四郎ヲ毆傷セシニ付懲役署醫局取締村上真正ヨ
リ差出シタル醫案ニ依ルニ其創ハ顛頂骨左后部ヲ弓形狀ニ長サ三

寸五分表皮ヲ斜ニ二寸剛キタリ治療縫合三針繃帶ヲ施用シ十日間ニシテ全癒セリ其器ハ柴斧コレテ斧縦經六寸三步横經三寸二分厚サ三分柄鉄コシテ長四寸三分幅八分ナリトス然ル時ハ創ハ輕ク器ハ鎌刀菜刀ニ類セリトス舊中檢事早川勇ニ於テ改定律例第二百十四條鎌刀菜刀ト同ク論スヘク刃傷ヲ以テ論スヘキ者ニアラスト上告シ大檢事岸良兼養ニ於テ柴斧ヲ以テ傷瘻モ不日ニシテ全癒シタルハ輕ニ從ヒ論スヘシト意見ヲ附シタルハ皆其當ヲ得タルモノトス然ルニ東京裁判所ニ於テ鬪毆條人ヲ刃傷スル者ニ依リ改定律例第四十三條ニ照シ後犯ノ數ヲ折半シ加役二年ノ處斷ヲ申渡シタルハ法律ニ適當セサルノ裁判ナリトス

判決

右ノ理合ナルヲ以テ明治九年八月二十八日東京裁判所ニ於テ根岸清

吉ニ申渡シタル裁判ヲ平翻スルニ左ノ如シ

改定律例第二百十四條凡鬪毆人ヲ傷スルニ鎌刀菜刀等ヲ用ヒ傷輕キ者ニ依リ之ヲ改定律例第四十三條ニ照シ

加役七十日

第四拾七號

○判文「不應爲ノ件」明治九年十月十二日上告
明治九年十一月一日判決

東京第一大區拾三小區

元柳町五番地平民

松本孝七

右孝七儀明治九年六月二十七日東京裁判所第四支廳ニ於テ爲シタル

口供ノ要旨如左

三七三 自分儀深川北松代町三丁目尾口彌八本所松井町二丁目福原孝兵衛

三人申合明治八年九月中ヨリ中橋座芝居金主ト相成タルニ同年十一月月中多分ノ損失ニテ仕拂方ニ差支彌八孝兵衛ヘモ相談及フト雖取敢吳不申然ルニ右芝居ハ自分後見イタスニ付諸拂方ノ儀總テ自分一人ヘ催促テ受質以致方無之場合彌八儀兼テ所持ノ衣裝ヲ淺草聖天町森川喜三郎名前ニテ右芝居ヘ差出居ルニ付右品差押置キタレハ自然同人ヨリ拂方ス可シト存シ衣裝品數百八拾八品差止タルニ因リ喜三郎彌八ヨリモ掛合有之ニ右勘定相立テタレハ速ニ可差戻旨申聞置タル末金策ニ差迫リタル折柄右彌八モ金主一列ノ者ニハ右品差向ケ金子借用スルモ差支ハ有之間敷ト心得違彌八ヘハ不申聞五郎兵衛町千葉勝五郎方ヘ右品抵當トシ明治八年十二月三十一日南鞘町梅村宣雄ヲ受人ニ相立金百八拾圓借受ケ夫々拂方處分中明治九年一月二十二日右彌八ヨリ喜三郎ヘ掛リ衣裝取戻ノ儀

勸解願出喜三郎ヨリ前書ノ始末申立タルニ依リ終ニ喚出ニ成リ懇々説諭有之處明治九年四月五日彌八喜三郎ヘハ固ヨリ支應ヘモ不申上自儘ニ金貳百圓ノ書替證書ニ改メ古證文ハ取消シ候事
右ノ口供ニ依リ明治九年七月六日支應ニ於テ左ノ申渡ヲ爲シタリ
其方儀中橋座劇場興行中尾口彌八福原孝兵衛俱々金主相成ル處多分ノ損失ヲ受ル迪彌八ヨリ森川喜三郎名前ニテ差出シ置シ衣裝ヲ同人共ヘ無斷抵當トシテ金圓借用スル科雜犯律不應爲輕ニ問擬シ懲役三十日可申付ノ處情法ヲ量リ贖罪金貳圓貳拾五錢申付ル
孝七ニ於テハ右裁判ニ服セス明治九年七月十二日大審院ニ上告シタルノ要旨如左

明治八年一月澤村座廢業ニ付跡中橋座ト改メ組合持ニ相成小笠原甫三郎師岡貞春森清右衛門森省吾尾口彌八堀口文藏自分七名ニテ

三木正吉ヲ名前人ニ立テ同人幼少ニ付組合ノ者申合自分後見ノ名義ヲ以テ興行セシ處明治八年九月尾口彌八福原孝兵衛自分三人へ明治九年九月迄満壹箇年ノ間組合ノ者ヨリ劇場事件都テ委托セラレ約定書爲取替ノ上三名ニテ引受右興行ニ付テハ損益共三分ニ割合各々引受ケ可キ約ヲ定メ明治八年十月興行シタルニ格外不入ニテ多分損耗ヲ生シタリ尤興行前彌八孝兵衛兩人共出金不足ニテ金圓調達シ難ク興行初日前可渡金圓差支タルニ付無據自分百方奔走シ他ヨリ借入開場シ右ニ付興行中ヨリ仕拂等都度差支兩人共即今融通シ難ク落後勘定可致トノ依頼ニ任セ拂方ノ儀ハ自分ヨリ立替置落後ニ至リ總勘定ノ義數度申送り立替金モ催促セシ處兩人共外出或ハ旅行セシ趣ニテ更ニ立寄不申明治八年十一月ヨリ今日ニ至ル迄打捨置クヲ以テ自分壹人苦心シ家財迄賣拂既ニ身代限リニモ

立至リ困難スルモ可差出金圓ハ其儘捨置今般却テ彌八ヨリ衣裝取戻ノ義東京裁判所第四支廳へ勸解願出タリ元來三名ニテ前約定モ有之ニ付右衣裝ハ彌八出金分不足ニ付申合ノ上是迄衣裝損料致居ル森田屋ナル者ハ相斷彌八儀ハ元來衣裝損料渡世ニ付彌八衣裝ニテ三十日間興行シ損料代金貳百九拾圓ト取極同人出金分ノ内へ差加ヘタリ然ルニ今般森川喜三郎ナル者へ衣裝ハ預ケタルニ付彌八ノ自儘ニ爲シ難キト申立ルハ甚不都合ノ儀ニテ元來喜三郎へ預ケ置キタル品ナレハ同人出金分ニ差加フルハ有之間敷ト思考セリ然ルニ都合ノ節ハ自分ノ所有品トシ不都合ノ節ハ他人へ預ケ置タル品ナリト申ハ甚曖昧ノ儀ニテ元來喜三郎儀ハ衣裝方ノ職人ニテ彌八ノ雇人ニ有之處彌八ノ衣裝ニ爲スルハ前件ノ云々モ有之取戻シ難キヨリ喜三郎代言人牧野直徳ト申合手續取扱ヒ今般第四支廳

へ勸解願出タリ尤明治八年十二月中第一支廳へ喜三郎衣裝ノ趣ヲ以テ藤吉善七へ係リ勸解願出タルニ彌八所有ノ品タル事判然シタルニ付支廳ニテ採用無之其後又々東京裁判所刑事課へ同様出訴シタルニ是亦喜三郎所有ノ品ニ非サルヲ判然タルニ付不條理ノ旨理解アリテ喜三郎ヨリ願下タリ斯ノ如ク不都合ノ儀ヲ又々今般彌八所有ノ品ニテ喜三郎へ預ケ置キタルニ喜三郎不差戻趣取捨へ願出自分引合トシテ出應レタリ然レモ元來彌八ノ所有物ニシテ彌八出金ノ換リトシテ出シタル衣裝ニ付彼是相拒ミ取戻ヲ請求スルノ理決テ有之間敷畢竟損分精算ノ上平等ニ出金セハ自然衣裝ハ彌八ノ手ニ戻ルヲ勿論ナリ且彌八幸兵衛自分ハ同ノ組合中ヨリ委任ヲ受興行セル劇場ニ付彌八ノ衣裝ヲ用ルハ他人ヨリ借入タル衣裝ヲ用テ戻サ、ルトハ事實相違シ既ニ興行中モ彌八幸兵衛出金不足ニ付

右衣裝ヲ抵當ニシ三名連印ニテ千葉勝五郎へ右衣裝ヲ抵當ニシ至急金百二十圓借用シ一時辨シ置キ暫時ノ期限ニ至リ右金償ヒタリ其後興行落後多分損耗ニテ處々ヨリ嚴ク催促有之劇場家作家税金百圓延滞ノ分ハ善七引受ニテ家作主へ右滯金差入ル、迄衣裝預ケ置度旨善七申聞ルニヨリ善七俱々彌八へ右ノ趣相斷リ家作主へ差入置明治八年十二月三十日ニ至リ諸方ヨリ拂殘ノ催促有之自分壹人ニテ引受不行届ヨリ梅村宣雄ヲ保證人ニシ右衣裝ヲ千葉勝五郎へ抵當トシ金百八十圓借受内金百圓ハ家作主へ渡シ殘リ八十圓ハ所々へ遣拂ヒ興行落後ヨリ追々金七百八十圓餘殘拂イタシ家財モ賣拂タルニ彌八義當今ニ至リ喜三郎へ預ケ置キタル品ニ有之様裝作シ出金不足ノ分ハ不差出衣裝ノミ取戻ノ儀ヲ訴出タルハ太々不條理ノコトナリ畢竟彌八ノ心底ニハ興行ニ付テハ有益必然

ト考察シタルニ不科ノ損失ヲ生シ目的齟齬セシヨリ衣裝ハ引戻シ
 自分ノ立替分ハ其儘ニ踏倒スヘキ見込ト思想セリ自分ニ於テハ右
 事件ニ就キ殆ト身代限ノ困難ニ陥リタレトモ最前ノ條約ヲ履行シ
 交際ノ義務ヲ盡シ度答辨スルモ採用ナク明治九年七月六日第四支
 廳ニテ前記ノ裁判ヲ受ケタリ右罰文中俱々金主相成ル所ト記載ア
 レトモ滿壹今年三名ニテ組合ヨリ進退引受タルニテ金主ト成リタ
 ルコトナク又多分ノ損失ヲ受ル進彌八ヨリ森川喜三郎名前ニテ差
 出シ置ク衣裝ト記載アレトモ三名ニテ持受進退セシ劇場ナレハ他
 ヨリ損失ヲ受ケシモノニ無之利益ヲ失ヒ共ニ損敗ヲ受ケタルナリ
 又喜三郎名前ニテ差出シタル衣裝損料ヲ彌八出金分ニ差出ス謂レ
 コレナクモ喜三郎名前ノ衣裝ナレハ同盟外ノ衣裝ナリ同盟外ナ
 ル者ノ衣裝ヲ無證據ニテ與行中貸出ス謂レナク又損料金二百九拾

圓ト定タル約定書モ喜三郎方ニ無之ハ現ニ同盟ナル彌八ヨリ出金
 分ニ換テ差出シタル衣裝故ニ別ニ證書ヲ不入ナリ左スレハ彌八出
 金分ニ換テ出シタルハ判然タリ右ハ自分ニ於テハ奸曲彌八孝兵衛
 ハ實直ノ者ト見做サレ同人共口供ノニ採用ニ成リ自分申立ハ毫モ
 採用ナク趣意相違ノ判決ト思考セリ尤明治九年六月二十三日舊第
 四支廳ヨリ呼出シニ付出席シタルニ別段取調モ無ク直ニ嚴責ヲ受
 ケ辨解不屈拘留被申付同二十七日口書ハ摺印可致旨ニテ讀聞カセ
 アリタルニ其趣意彌八ヘ對シ差引勘定有之進同人衣裝引留タルハ
 心得違ニテ恐入候トノ口書ニ付不服ナレトモ摺印セサルハ再ヒ
 拘留可相成景況ニ付平生多病身命ニ換ヘ難ク威權ニ壓セラレ不得
 止摺印イタシ七月六日裁判申渡サレタリ右七月六日千葉勝五郎呼
 出ニテ自分ヨリ抵當ニ入置キタル衣裝ハ不正品ノ名義ヲ以テ取揚

ニ成リタレトモ右保證人梅村宣雄ハ中橋座開場前ヨリ關係ノ者ニシテ實際覺知致居リ且彌八出金額ノ償ニ同人衣裝ヲ抵當トシ費用ニ供シタルハ前文陳述ノ通ニシテ自分一存ニテ之レヲ爲シタリト雖モ最前彌八連印ニテ右勝五郎ヨリ金圓借受ケタル例ニ從ヒ彌八出金分ノ不足ヲ補ヒタル義ニテ謂レナク他人ノ所有物ヲ不正ニ抵當ニ入レタルコトニ非ス然ルコト今般不正品ノ處分アルハ解シ難キニ付至當ノ裁判ヲ請求セリ

右ニ付大審院ニ於テ條理ニ照シ辨明スルヲ如左

孝七ノ上告ニ於テ彌八ヨリ出金分ニ充テ出シタル衣裝ヲ抵當ニシ共出金分ノ不足ヲ補ヒタルヲニテ當然ナリト申立ツルト雖モ上告中彌八儀ハ衣裝損料渡世ニ付彌八衣裝ニテ三十日間興行シ損料代金貳百九拾圓ト取極同人出金分ノ内ヘ差加ヘタリト云ヒ又孝七ノ

上告狀ニ添ヘ憑據トシテ出シタル計算書ニ彌八出金分貳百九拾圓ノ口ヘ衣裝損料代出金分ニ換ルト記載アリタレハ彌八ニ於テハ衣裝ノ損料金ヲ以テ出金分ノ一部ニ充テタルヲ判然タリ左スレハ最前劇場興行ノ節三十日間右衣裝ヲ用ヒタル上ハ彌八ヨリ出金スヘキ金額ノ内貳百九拾圓ノ一部ハ右衣裝ノ損料金ヲ以テ既ニ其義務ヲ盡シタルヲ故ニ右ノ衣裝ニ於テハ最早出金ノ金額ニ關係セサルモノナレハ孝七ニ於テ之レヲ押ルノ權利ナシトス然ルニ孝七ニ於テ彌八カ出金ノ金額ニ不足アリトテ損料ヲ以テ出金金額ノ一部ニ充テタル衣裝ヲ押ヘタルハ不正ノ所爲ニ非スト爲スヲ得ス如何ノトナレハ孝七ニ於テ彌八カ出金スヘキ金額ヲ欠キ不足金ヲ出サ、ルヲ以テ彌八カ所有ノ衣裝ヲ押ヘント欲セシナラハ彌八カ出金不足ノ證據ニ據リ之レヲ裁判所ニ訴訟シ其不足ヲ請求スヘキ條理ナ

リトス而シテ右ノ訴訟ノ裁判ニテ孝七ガ直者ト爲リシニ彌八ニ於テ出金スヘキ全額ヲ出シ能ハサル時ハ孝七ニ於テ彌八ノ所有スル衣裳ハ勿論其他ノ物品ニ至ルマテ出金スヘキ全額ニ滿ルマテハ裁判上ノ手續ニテ請求スヘキ條理ナリトス然ルヲ孝七ニ於テハ右ノ訴訟ヲ爲サスシテ自分一己ノ存意ニ從ヒ彌八ノ所有物ヲ彌八ノ承諾ナキニ質入レヒシニ因リ不正ナリトノ處刑ヲ受ケサルヲ得サルトトス其理如何トナレハ衣裳ノ損料ヲ以テ出金ノ一部ニ充テタルトハ彌八ヨリ孝七ニ對シタル契約上ヨリ成リ立タル義務ナレトモ彌八ヨリ孝七ニ對シ出金ノ不足アルトキハ衣裳ヲ以テ他ニ質入シ出金ノ不足ヲ補フヘシトノ契約アラサレハ孝七ニ於テハ彌八ノ所有物ヲ彌八ノ承諾ナクシテ自儘ニ質入レヌルヲ得サルヲ以テナリ故ニ東京裁判所舊支廳ニ於テ右衣裳ヲ追徴シタルハ相當ノ處分ニ

シテ孝七上告ノ旨趣ハ採用ス可キノ理由ナシトス

判決

右ノ條理ナルヲ以テ東京裁判所舊第四支廳ニ於テ尾口彌八ノ衣裳ヲ千葉勝五郎ヨリ追徴セシハ法律ニ適シタルモノトス依テ上告狀差戻者也

第四十八號

○判文〔贓物追給ノ件〕明治九年三月廿八日上告
 明治九年十一月十四日判決
 大坂府下第壹大區十二
 小區高麗橋二丁目廿六
 番地三井組西村虎四郎
 總理代人長崎縣平民

立花敬一郎

六八三

右原告敬一郎儀公債證券買入ノ事件ニ付明治九年一月二十五日柴田嘉七へ係リ岡山縣へ出訴シ明治九年三月二十日岡山縣ニ於テ被告柴田嘉七へ裁判申渡シタル際敬一郎へ申渡シタル左ノ如シ

其方儀柴田嘉七へ係ル事件右申渡ノ通心得可シ

右ニ付嘉七ノ口供罰文ヲ取調ルニ如左

自分儀明治七年八月中松坂西町水本徳兵衛ナル者松坂三井組ヨリ公債證券買入トシテ飾磨縣下へ出張セシニ付自分モ徳兵衛ヲ助ケ周旋イタシ其際飾磨ノ隣縣岡山管下ハ公債證券百圓ニ付證券ノ分六十五圓現金ナレハ八十五圓合併ノ分七十五圓ノ相場ニテ買入レ相成ルニ付明治七年九月十三日三井組大阪店ニテ目代席勤マル西村虎四郎方へ往キ右相場合ヲ示談シ大阪三井組ヨリ出金アレハ右買入ノ周旋可致左スレハ利益高十分ノ三チ松坂店

七八三

十分ノ七チ大阪店へ可納旨依頼シ置キ明治七年九月十七日右買入方ノ約定書ヲ記スルニ方リ是迄水本徳兵衛ニ隨從中松坂三井組徳兵衛代理柴田嘉七ト唱ヘタル儘々有之ニ依リ不圖心得違ヒ右約定書へ松阪三井組柴田嘉七ト署シ御用所西村虎四郎殿ト記載シ別ニ名刺へ實印ト認印ヲ捺シ相渡シ明治七年十月十四日ヨリ八年三月二十七日迄ニ都合六度ニ金三萬十圓ヲ受取時々印紙貼用ノ受取證書ヲ渡シ追々現金及ヒ買入ノ公債證券等ヲ以テ拂入タレトモ殘金五千八百圓餘猶ホ不足セリ然ルニ自分儀岡山縣士族國府常樹ト馴レ合ヒテ右常樹儀證券持逃ケレシ旨虎四郎ヨリ代理花輪正摸ヲ以明治八年六月中大阪第壹分局警察所へ出訴レ既ニ常樹外四人被召捕タル趣傳承シ自分ハ直ニ上阪シ事實具申セシニ付明治八年九月二十三日花輪正摸ハ疎漏ノ訴ヲ爲

シタルニ付呵置旨常樹ハ申口相立ヲ以テ無構自分並德兵衛ハ國
府常樹公債證書持逃ケセシ一件ニ關係スルヲ以テ遂吟味處申口
相立ヲ以テ無構旨夫々申渡アリタリ然レトモ前書不足金五千八百
圓餘ハ自分ノ負債ナルヲ以テ償却ス可キ心得ナルニ今般虎四郎ニ
リ代理立花敬一郎ヲ以テ又々當縣刑事課へ出訴シ審判ヲ受ケタル
ニ會テ約定書ヲ渡シタル時三井組ニ關係無之身分ヲ以テ三井組
柴田何某ト約定書へ肩書イタシ且ツ未タ三井組ノ許諾モ無キニ
漫リニ三井組柴田舎中ノ印ト彫刻シテ店印同様ニ捺用シタル段
今更恐入候事

右ノ口供ニ依リ明治九年三月二十日岡山縣ニ於テ裁判申渡ヲ爲シタ
ル如左

其方儀公債證書買入方周旋致サント三井組大坂支店ニテ目代席ヲ

ル西村虎四郎へ依頼シ益金割賦其他ノ約定ヲ成シ三萬圓餘ノ金ヲ
請取時々印紙貼用ノ請取證書ヲ渡シ追々現金及公債證書等ヲ以テ
拂入不足スル若干ノ金員ハ互ノ商法上ノ取引ニ出ル者ト雖モ會テ
虎四郎へ約定書ヲ渡ス時ハ三井組ニ關係ナキ自分ヲ以テ漫リニ其
約定書ニ三井組ト肩書シ且同店ノ許諾モナキニ店印へ三井組ノ字
ヲ加ヘタルヲ彫刻シテ使用シタル科不應爲律ニ依リ懲役三十日贖
ヲ聽シ金貳圓貳拾五錢申付ル

敬一郎儀岡山縣ニ於テ嘉七ニ申渡シタル裁判ヲ不法ナリトシ明治九
年三月二十八日大審院ニ上告シタル要旨如左

罰文中會テ虎四郎へ約定書ヲ渡ス時ハ三井組ニ關係ナキ身分ヲ以
テ漫ニ其約定書ニ三井組ト肩書シ且同店ノ許諾モナキニ店印へ三
井組ノ字ヲ加ヘタルヲ彫刻シテ使用シタル科不應爲律ニ依リト有

之嘉七現今取込タル秩祿公債證券九千九百七拾五圓並利子金六百圓ハ互ノ商法上ノ取引ニ出ル趣ヲ以同人罪科處分ノ節追徴下戻モ無ク且嘉七犯罪ノ如キハ不應爲ニ問フ可キモノニ非ス一体不應爲ハ凡律令ニ正條ナシト雖モ情理ニ於テ爲スヲ得應カラサル事ヲ爲ス者ト有之該犯ノ如キハ賊盜律中詐欺取財ニシテ律令中既ニ擬ス可キ正條アリ又罰文中公債證券買入方周旋イタサント三井組大阪支店ニテ目代席タル西村虎四郎へ依頼シト有レトモ明治七年九月十六日柴田嘉七ヨリ大阪三井組ニ差入レタル約定書ニ松阪三井組ノ肩書アル上ハ名義ニ於テ柴田嘉七ハ松阪三井組ノ代理ニシテ公債證券合併買入ノ木人ト見做サ、ルヲ得ス且又不足スル若干ノ金員ハ互ノ商法上ノ取引ニ出ルト有レトモ元來右金員ハ松阪三井組ノ名義ヲ唱テ得タルモノニ付商法上互ノ取引トハ言ヒ難ク嘉七儀

既ニ三井組ニ關係ナキヲ判然タル上ハ右ノ金員ハ贓品ニ相違ナク旁以右裁判ハ承服シ難ク仍テ本訴ノ因由條件ヲ分テ上陳スル如左

第一條

明治七年九月十日コロ柴田嘉七儀松阪三井組ヨリ派出シタル旨ニテ大阪三井組へ來リ松阪大阪ノ兩店合併公債證券買入度旨頼談アリタルニ右嘉七ハ西京出張中西京三井組支配人中井三平ニ便リ大阪店へ來リ西村虎四郎ニ於テモ款接シ殊ニ三井組ニ於テハ各店ニテ商業取結ノ區域相立大阪以西ハ大阪三井組持ノ事故今般松阪三井組中國邊ニ於テ證券買入ニ付大阪三井組へ依頼シ合併商業ヲ爲スハ相當ノ事ニ付之ヲ許諾シ明治七年九月十六日右證券買入ニ付嘉七ヨリ自筆ノ約定證書ヲ受取置タリ

第二條

右公債證書合併買入ノ約ヲ定メタルニ付明治七年十月十四日ヨリ
 明治八年三月二十七日迄ニ證券買入資金三萬拾圓ヲ都合六度ニ渡
 シタリ然ルニ右ハ現金證券共諸縣廳ヨリ秩祿奉還人共へ下渡ノ以
 前ニ代金ヲ渡シ奉還人ヨリ現金證券讓受約定取結置縣廳ヨリ下渡
 ニ成リタル後名前切替へ可申ニ付縣廳ニ於テ奉還聞届ニ成リタル
 書類並ニ右請取方ノ委任狀共悉皆奉還人ヨリ證券讓受人へ可渡ニ
 付其時々嘉七ヨリ右ノ書類ハ一切大阪店へ納置キ追テ現金並證券
 縣廳ヨリ下渡ノ節其旨柴田嘉七ヨリ報知次第大阪店ヨリ右書類ヲ
 持參セシメ其上ニテ現金證券共縣廳ヨリ受取ル可キ筈ナリ

第三條

明治七年十二月上旬ヨリ明治八年一月中旬迄ニ舊小田縣廳ヨリ下
 渡ニ成ル可キ現金分急々可受取旨申達ニ付右委任狀大阪ヨリ取寄

セ可キ時日ナキ旨ヲ以嘉七儀奉還人ヲ欺キ二重ニ委任狀ヲ取リ正
 金五千五百八拾二圓八拾五錢七厘七毛ヲ縣廳ヨリ受取リ其儘取隠
 シ大阪店へハ報知セズ其後明治八年二月十日頃大阪三井組證券買
 集ノ總代花輪正摸笠岡へ出張シ嘉七へ面會シ取調ノ末二重ニ委任
 狀ヲ取リ現金受取リタルヲ發覺シ明治八年二月十四日右金員ハ嘉
 七ヨリ正摸へ引渡シタリ然ルニ明治七年九月下旬嘉七舍員止宿所
 岡山縣ニ於テ三井組柴田舍出張ノ印ト彫刻シタル印章ヲ捺用シ其
 他飾磨縣香川縣等へモ三井組出張所ト記シタル掛札ヲ掲ケタル趣
 傳承シ取調タルニ相違ナキニ付本店ノ許可ヲ得スシテ妄ニ掛札及
 印章彫刻等ハ不相成旨掛合タルニ嘉七ヨリ謝罪狀ヲ出シタリ

第四條

秩祿奉還其縣廳ニ於テ聞届ニ成リタル證書委任狀等前約定ヲ以テ

買入レタル金高ニ應シ資金相渡シ過當ノ金額ハ嘉七ヘハ不受取契約ナルニ明治七年十月十四日ヨリ明治八年三月二十七日迄ニ資金三萬圓餘受取居リ前約定ヲ以テ買入レタル現金及證券トモ代價合セ二萬三千七百七拾四圓八厘五毛ハ大阪店ヘ納メ置六千二百三拾五圓九拾九錢壹厘五毛ハ私ニ遣ヒ込ミ居ルニ付速ニ計算ヲ立渡過ノ分ハ可差戻旨數回之ヲ促スモ不埒明ニ付正摸ニ於テ嘉七ヲ信用シテ委任シ置キ難ニ付右證券受取ノ委任狀等モ一切嘉七ヘ渡置カサルニ依リ嘉七ニ於テハ國府常樹ト證券橫取ノ策ヲ謀居ル旨傳聞シタルヲ以明治八年五月八日正摸ヨリ舊小田縣ヘ書面ヲ出シ柴田嘉七國府常樹兩人ノ名ヲ以讓受アリタル證券ハ正摸同伴セサル上ハ下渡無キ様申立タルニ付嘉七ノ謀計爲メニ齟齬セシヨリ常樹ヲシテ西村虎四郎ヘ證書ヲ入レ正摸ヘ隨從セシメ強テ常樹ヘ證券受

取方ノ委任ヲ乞受ケタリ

第五條

明治八年五月十日頃嘉七儀福山ニ於テ紛失セシ正摸所有ノ金五百圓ノ穿索ヲ口實トシ正摸宿主竹中吉兵衛ト馴合正摸ヲ福山ニ抑留シ其隙ニ舊小田縣廳ノ下渡證券利子金共都テ常樹ノ手ニ爲請取置キタルニ明治八年六月四日正摸儀笠岡ヘ出向ス可キ旨ニ付其朝竹中吉兵衛ヲ以テ笠岡在留ノ常樹ヘ通達シ最前爲請取置タル證券九千九百七拾五圓及利子金六百圓ヲ携持逃亡セシメタリ

第六條

明治八年六月四日正摸笠岡ヘ到着シ常樹ヲ尋ルニ常樹ニ於テハ其日公債證券等ヲ携持シ笠岡ヲ出立セシ由ニテ近隣ハ固ヨリ大阪迄モ尋ルニ行方不知ニ付明治八年六月九日ニ至リ笠岡警察出張所ヘ